

唐木戸第1遺跡

Karakido 1 site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5

2004

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第92集 唐木戸第1遺跡 正誤表

誤			
2頁 右段20行目	9頁 左段17行目		
13頁 第8面標題	14頁 第9面標題		
37頁 第3面標題	73頁 左段15行目		
角錐状石器			
9頁左段表中 中世 挖立柱建物2棟 須恵器(片口鉢)			
20頁 第1表 機群報察表			
取り上げ番号	中略	備考(接合)	
85		空欄	
89		73, 83, 84, 85	
116		空欄	
63		67	
報告書抄録下段			
前略	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
2001. 5. 8 ～ 8.29	2,000 m ²	東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う発掘調査	
2003. 5. 7 ～ 9. 5	5,500 m ²		
前略	主な時代	主な遺構	後略
旧石器 縄文時代早期	機群1 石器ブロック1 石器ブロック1 土坑12 集落遺構3		
中世	溝2 道路1 掘立柱建物2		

正			
角錐状石器			
中世 挖立柱建物4棟 須恵器(片口鉢)			
第1表 機群報察表			
取り上げ番号	中略	備考(接合)	
85		73, 83, 84, 85	
89		73, 83, 84, 85	
116		72	
63		空欄	
前略	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
2002. 5. 8 ～ 8.29	2,000 m ²	東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う発掘調査	
2003. 5. 7 ～ 9. 5	5,500 m ²		
前略	主な時代	主な遺構	後略
旧石器 縄文時代早期	機群1 石器ブロック1 石器ブロック1 土坑12 集落遺構3		
中世	溝2 道路1 掘立柱建物4		



調査区遠景



S C 6 土層断面

序

埋蔵文化財の保護・活用に対しまして、日頃より深いご理解をいただき厚く御礼を申し上げます。

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成12年度から実施しております。本書は、その発掘調査報告書であります。

本書に掲載した高鍋町所在の唐木戸第1遺跡は、平成14年度から15年度にかけて調査しました。今回の調査では、旧石器時代の礫群・石器ブロック、縄文時代早期の土坑・石器ブロック、K-Ah層灰以後の溝・道路・掘立柱建物が検出され、当該期の石器や土器も出土しました。

これらの遺構・遺物は、今後当地域の歴史を解明する上で貴重な資料です。

本書が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯教育の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

発掘調査及び報告書作成に際しまして御協力いただいた関係諸機関をはじめ、御指導・御助言いただいた諸先生方、並びに地元の方々に厚く御礼申し上げます。

平成16年9月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 宮園淳一

例　　言

1. 本書は、平成14・15年度に実施した東九州自動車道（都農～西都間）建設に係る唐木戸第1遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は日本道路公団から委託を受けて宮崎県教育委員会が実施した。
3. 現地での実測等の記録は、横田通久、倉薗靖浩、原山茂樹、可児直典、高木祐志が行ったほか発掘作業員が補助した。
4. 本書使用の遺物実測図は、横田が作成したほか整理作業員が補助した。
5. 本書に使用した実測図等の添書は、横田が行ったほか整理作業員が補助した。
6. 現地での写真は、横田、倉薗、可児、高木が、出土遺物写真は、横田が今塩屋毅行の協力を得て撮影した。
7. 測量・空中写真・理化学的分析等は次の機関に委託した。

グリッド杭設定 : (有) 進藤測量設計事務所 (有) 黒木測量設計コンサルタント
空中写真 : (株) スカイサーベイ九州 宮崎県文化財調査・サポート協同組合
自然科学分析(植物珪酸体) : (株) 古環境研究所

8. 本書に使用した略記号は次のとおりである。

S B	……掘立柱建物跡	S C	……土坑	S E	……溝状遺構
S G	……道路状遺構	S I	……集石遺構、礫群		
9. 本書で使用した周辺遺跡分布図は、国土地理院発行の5万分の1図を基に、遺跡周辺地形図は日本道路公団作成の1000分の1図を基に作成した。
10. 本書で用いた座標は海拔高であり、方位は座標北(G.N.)を基本とし、位置図等の一部に磁北(M.N.)を使用した。
11. 国上座標は、平成13年度に設置された唐木戸第3遺跡発掘調査基準点「T-1」と「T-2」の国上座標を基に設置している。但し、改訂前の旧平面直角座標第II系(日本測地系)である。
12. 土器の色調及び土層については農林省農林水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」に準拠した。
13. 出土遺物の石材については、松田清孝氏(宮崎県総合博物館)と赤崎広志に同定をお願いした。
14. 本書の執筆は横田、編集は安藤利光、金丸琴路が担当した。
15. 出土遺物その他の諸記録は宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

凡　　例

- 遺構の計測箇所は、次の通りとする。

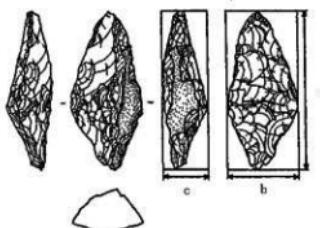
S E	……平面上場・下場、ベルト土層断面	S G	……ピット平面上場・下場、断面
S I	……礫平面、断面	S C	……平面上場・下場、断面
- 掘図の縮尺は次の通りとする。

遺物・遺構分布図 1/1000~1/1200	土層断面図 1/40
遺構実測図 1/30~1/40	石器実測図 1/2, 1/3
土器実測図 1/3		
- ※ 上記を基本とするが、これ以外のものもある。
- 石器観察表の計測値は、次項の計測方法に従った。単位は、cm, gである。
 - ・ 石器実測図の中の記号、表示は次項のものを示す。

- 石器の節理面は1点鎖線で表示した。微細剥離の認められる部分は、でその範囲を示した。微細剥離の観察は肉眼により行った。

【石器の計測方法】

a = 長さ
b = 幅
c = 厚さ



- 東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査の地層については、下記の統一呼称を用いる。

M : 宮崎平野を意味する識別記号

ML : ローム層

MB : 黒色土帶

本文目次

第Ⅰ章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査の組織.....	1
第Ⅱ章 遺跡の環境.....	2
第Ⅲ章 調査の経過.....	5
第1節 確認調査の概要.....	5
第2節 発掘調査の方法.....	6
第3節 整理作業及び報告書作成.....	7
第Ⅳ章 調査の記録.....	9
第1節 調査の概要.....	9
第2節 基本層序.....	9
1 堆積状況.....	9
2 各層における植生と環境の復元.....	10
(1) 自然科学分析.....	10
(2) 推定される当時の植生と環境.....	11
第3節 旧石器時代の遺構と遺物.....	13
1 旧石器時代の遺構.....	13
2 VI層の遺物.....	14
3 V b 層の遺構と遺物.....	15
4 V a 層の遺物.....	21
第4節 縄文時代早期の遺構と遺物.....	40

1 縄文時代早期の遺構	40
2 縄文時代早期の遺物	54
第5章 K-Ah降灰以後の遺構と遺物	65
1 K-Ah降灰以後の遺構	65
2 K-Ah降灰以後の遺物	66
第V章 自然科学分析	70
1 植物珪酸体分析	70
2 寄生虫卵分析	70
第VI章 まとめ	73

挿 図 目 次

第1図 段丘生成模式図及び段丘分布図	3	第29図 旧石器時代石器実測図(7)	36
第2図 周辺遺跡分布図	4	第30図 縄文時代早期遺構・遺物分布図	40
第3図 確認調査トレーナー配置図	5	第31図 S I 2 実測図	41
第4図 周辺地形及び調査区	8	第32図 S I 3・4 実測図	42
第5図 グリッド配置図	8	第33図 石器ブロック 2 実測図	43
第6図 基本土層図	10	第34図 S C 配置図	45
第7図 土層断面図及び土層断面配置図	12	第35図 S C 4・5 南壁土層植物珪酸体試料 採取地点模式図	46
第8図 旧石器時代遺構・遺物分布図	13	第36図 S C 1~3 実測図	48
第9図 VI層遺物分布状況	14	第37図 S C 4・5 尖削図	49
第10図 V b 層遺物分布状況(1)	15	第38図 S C 6・7 実測図	50
第11図 V b 層遺物分布状況(2)	16	第39図 S C 8・9 実測図	51
第12図 S I 1 実測図	18	第40図 S C 10・11 実測図	52
第13図 磚の属性(1)	18	第41図 S C 12 実測図	53
第14図 磚の属性(2)	19	第42図 縄文時代早期土器実測図	55
第15図 石器ブロック 1 分布図	20	第43図 接合資料 3 実測図(1)	56
第16図 V a 層遺物分布状況	21	第44図 接合資料 3 実測図(2)	57
第17図 接合資料 1 実測図(1)	23	第45図 接合資料 4 実測図(1)	58
第18図 接合資料 1 実測図(2)	25	第46図 接合資料 4 実測図(2)	59
第19図 接合資料 1 実測図(3)	26	第47図 縄文時代早期石器実測図(1)	60
第20図 接合資料 2 実測図(1)	27	第48図 縄文時代早期石器実測図(2)	61
第21図 接合資料 2 実測図(2)	28	第49図 縄文時代早期石器実測図(3)	62
第22図 接合資料 2 実測図(3)	29	第50図 縄文時代早期石器実測図(4)	63
第23図 旧石器時代石器実測図(1)	30	第51図 K-Ah降灰以後の遺構分布図	65
第24図 旧石器時代石器実測図(2)	31	第52図 K-Ah降灰以後の上器実測図	66
第25図 旧石器時代石器実測図(3)	32	第53図 K-Ah上面の遺構実測図	67
第26図 旧石器時代石器実測図(4)	33	第54図 S B 1~4 実測図	68
第27図 旧石器時代石器実測図(5)	34	第55図 S G 1 実測図	69
第28図 旧石器時代石器実測図(6)	35		

表 目 次

第1表	礫群観察表	20
第2表	旧石器時代石器組成表	22
第3表	旧石器時代石器観察表	37
第4表	旧石器時代石器観察表	38
第5表	旧石器時代礫観察表	38
第6表	旧石器時代雜観察表	39
第7表	S C 4・5 南壁土層植物珪酸体検出密度	46
第8表	S C 4・5 南壁土層植物珪酸体検出状況 対比表	47
第9表	土坑計測表	53
第10表	縄文時代早期土器観察表	55
第11表	接合資料3 石器観察表	56
第12表	接合資料4 石器観察表	58
第13表	縄文時代早期石器組成表	64
第14表	縄文時代早期石器観察表	64
第15表	縄文時代早期礫観察表	64
第16表	南壁、S C 4 植物珪酸体分析結果	71
第17表	S C 5 植物珪酸体分析結果	72
第18表	S C 5 寄生虫卵分析結果	72

図 版 目 次

図版1	調査区遠景、S C 6 土層断面	
図版2	調査区全景（一次、二次）	75
図版3	K-Ah検出状況、上層断面（東壁）	76
図版4	石器ブロック1 検出状況	77
	石器ブロック2 検出状況	77
	S I 1 検出状況	77
	S I 2 検出状況	77
	S I 3 検出状況	77
	S I 4 検出状況	77
	貝殻条痕文土器出土状況	77
	S E 1 検出状況	77
図版5	S B 1・2 検出状況	78
	土層断面（南壁）	78
	S G 1 硬化面検出状況	78
	S C 3 断面	78

S C 4 光沢状況	78	
S C 5 断面	78	
S C 6 断面	78	
S C 7 断面	78	
図版6	S C 8 断面	79
	S C 9 断面	79
	S C 10 断面	79
	S C 11 断面	79
	S C 12 断面	79
	S C 5 半截状況	79
図版7	旧石器時代接合試料1(1)	80
	旧石器時代接合試料1(2)	80
図版8	旧石器時代接合試料2(1)	81
	旧石器時代接合試料2(2)	81
図版9	VI層出土石器	82
	V b 層出土石器(1)	82
図版10	V b 層出土石器(2)	83
	V a 層出土石器	83
図版11	縄文時代早期遺物接合資料3(1)	84
	縄文時代早期遺物接合資料3(2)	84
図版12	縄文時代早期遺物接合資料4(1)	85
	縄文時代早期遺物接合資料4(2)	85
図版13	縄文時代早期土器	86
	縄文時代早期石器	86
図版14	縄文時代早期石鏃	87
	縄文時代早期縄石刃・縄石刃核	87
	K-Ah灰化以後出土土器	87

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道（都農～西都間）は平成9年12月に施行命令が出され、それに伴い平成10年度に県教育委員会が路線上の分布調査を行ったところ、計79箇所に及ぶ遺跡の存在が推定された。そこで、県教育委員会では、平成11年度から日本道路公団の委託を受け、東九州自動車道（都農～西都間）の建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施することになった。

平成13年度は平成13年4月1日付けで、同公団九州支社と宮崎県文化課との間で契約が締結され、平成14年2月6日から3月8日にかけて一次確認調査を実施した。その結果を受けて、平成14年5月8日より8月29日までの期間、2,000m²を対象として、宮崎県埋蔵文化財センターが唐木戸第1遺跡の一次調査を実施することになった。

地権者の用地引き渡しの関係により、二次確認調査を平成15年1月10日から2月24日にかけて実施した。その結果を踏まえて平成15年5月7日より9月5日までの期間、5,500m²を対象として宮崎県埋蔵文化財センターが唐木戸第1遺跡の二次調査を実施することになった。

一次では旧石器時代・縄文時代早期、二次では旧石器時代・縄文時代早期・K-Ah降灰以後の調査を実施した。

第2節 調査の組織

唐木戸第1遺跡の調査組織は下記の通りである。

発掘調査・整理

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	米良 弘康（平成14・15年度）
	宮園 淳一（平成16年度）
副所長兼総務課長	大齒 和博（平成14～16年度）
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫（平成14～16年度）
総務係長	野邊 文博（平成14年度）

主幹兼総務係長	石川 恵史（平成15・16年度）
調査第一課長	児玉 章則（平成14・15年度）
調査第一課長	高山 富雄（平成16年度）
調査第一係長	谷口 武範（平成14～15年度）
主幹兼調査第二係長	長津 宗重（平成14～16年度）
主査（調査・報告担当）	横田 通久（平成14・15年度）
主査（調査担当）	倉薗 靖浩（平成15年度）
調査員（調査担当）	可児 直典（平成14年度） （現石川県鳳至郡能登町教育委員会）
調査員（調査担当）	高木 祐志（平成15年度）
調査指導	小畠 弘己（熊本大学）
	泉 拓良（奈良大学）
	本田 道輝（鹿児島大学）
	田崎 博之（愛媛大学）
	柳沢 一男（宮崎大学）
	広瀬 和雄（奈良女子大学）
	岡田 康博（文化庁）
	加藤 真二（文化庁）
	福宜田佳男（文化庁）

第Ⅱ章 遺跡の環境

唐木戸第1遺跡の位置する高鍋町は、宮崎平野の北側に位置し、日向海岸の中央部に位置する。町の北西から南東方向に流れ出る小丸川の河口は海拔5~6mの沖積平野を形成し、現在の市街地となっている。町の西方は茶臼原台地、牛牧原台地、北方は川南原台地、南方は水谷原台地と、周囲を洪積台地に囲まれている。これらの台地上は、緩やかな起伏をもつ平地が広がり畠地と集落が展開する。

唐木戸第1遺跡は、牛牧原台地上の北部縁辺から内部へ約500m付近、児湯郡高鍋町大字上江字北唐木戸に位置する。本遺跡の所在する牛牧原台地は高鍋町を含む宮崎平野中北部の段丘群中の三財原面に相当する。三財原面は、標高80~90mで上位面の茶臼原面とは海漫食で境をなす(第1図)。

高鍋町には、新世代第四紀更新世に形成された河岸・海岸段丘が広がる。これらの段丘は現在複雑に開析されており、いくつもの谷や低地が入りこむ地形である。こうした段丘地帯は、日向最初の生活基地であったといえ、旧石器時代から人々の生活の場となっており、多くの遺跡が点在する。

本遺跡名の「唐木戸」は、県道杉安・高鍋線(中尾橋付近)に沿う字名である。木戸は柵戸、城戸とも書き「門」の意味をもつ。昔は、中尾橋を渡った所からが市之山牧場で、牧場の木戸がこの辺りにあつたのではないかという地元の伝承がある。また、『高鍋藩史話』では、高鍋町大字上江にカラケド(韓街道)という地名がある¹と述べている。児湯郡には韓家郷があり、『日向国史』によると川南町にある唐瀬・唐瀬原の地名は、この韓家の転訛ではないかと述べてある²ことからも、韓街道も韓家の転訛の可能性があると考えられる。

本書で報告する唐木戸第1遺跡における今回の調査においては、旧石器時代、縄文時代早期、中世の遺構・遺物が検出されているので、遺跡周辺の遺跡分布状況について概観したい。

旧石器時代では、同町内に北牛牧第1遺跡、持田中尾遺跡等がある。出土遺物として、北牛牧第1遺

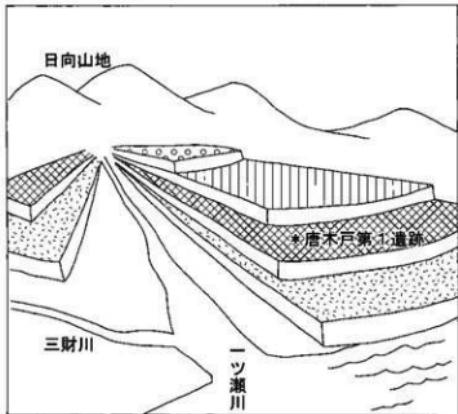
跡³では尖頭器、スクレイパー、ナイフ形石器、雲雀山遺跡ではナイフ形石器、尖頭器、細石刃、持田中尾遺跡では円形搔器、尖頭器、ナイフ形石器が確認されている。ナイフ形石器においては、持田中尾遺跡のみ横長剥片を素材とし、瀬戸内技法との関係をうかがわせる。他の遺跡においては、縦長剥片を素材としている。⁴

縄文時代早期では、同町内に押型文土器が出土した妻道南遺跡、塞ノ神式土器が出土した水谷原遺跡、手向山式土器が出土した耳截遺跡等がある。他に集石遺構が検出された大戸ノ口遺跡、燃糸文系の寒ノ神式土器と押型文土器が出土した持田中尾遺跡がある。

東九州自動車道に係わる周辺の調査遺跡としては、北牛牧第5遺跡、唐木戸第2・3・4遺跡がある。北牛牧第5遺跡⁵では、縄文時代早期の平裕式の壺形土器、石鎌や異形石器、旧石器時代のナイフ形石器、剥片尖頭器、スクレイパー等が出土している。唐木戸第3遺跡では、縄文時代早期の細石刃・石鎌、旧石器時代のナイフ形石器、角錐状石器、スクレイパーが出土している。唐木戸第4遺跡では、縄文時代早期の石鎌、旧石器時代の角錐状石器が出土している。谷を挟んで西隣に位置する唐木戸第2遺跡では、中世の堅穴状遺構、掘立柱建物、溝等の遺構、さらには溝の埋土から土師器片が確認されている。

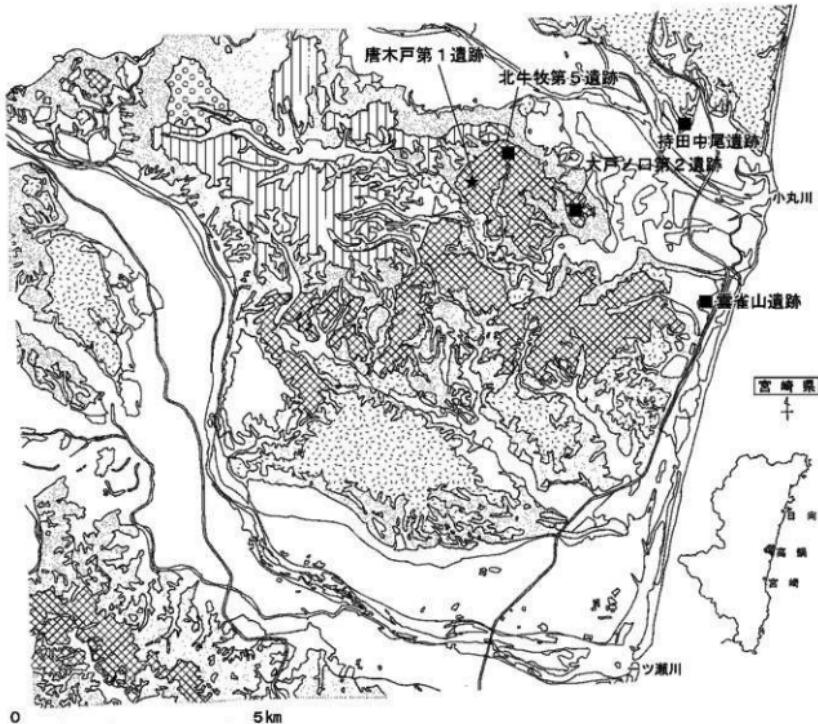
註

- 1 安田 尚義 「序編 中古時代第3話」『高鍋藩史話』 高鍋町 1968
- 2 喜田 貞吉・日高 重孝 「血縁 中古史第1章」『日向国史』 1929
- 3 高鍋町教育委員会「高鍋町文化財調査報告書第7集」『中尾・牛牧地区遺跡』 1995
- 4 高鍋町教育委員会「高鍋町文化財調査報告書第4集」高鍋町遺跡詳細分布 1989
- 5 註4
- 6 宮崎県埋蔵文化財センター 「発掘調査報告書第80集」『北牛牧第5遺跡』 2003



段丘模式図 凡例	
新川原面	
三財原面	
茶臼原面	
先茶臼原面	
段丘斜面・丘陵地	

※「大戸ノ口第2遺跡」『高鍋町文化財発掘調査報告書第7集』所収を一部改変



第1図 段丘生成模式図及び段丘分布図



1 唐木戸第1遺跡	2 耳袋遺跡	3 持田中尾遺跡	4 北牛牧第1遺跡
5 北牛牧第5遺跡	6 唐木戸第2遺跡	7 唐木戸第3遺跡	8 唐木戸第4遺跡
9 妻道南遺跡	10 水谷原遺跡	11 大戸ノ口第2遺跡	12 雲雀山遺跡

第2図 周辺遺跡分布図

第Ⅲ章 調査の経過

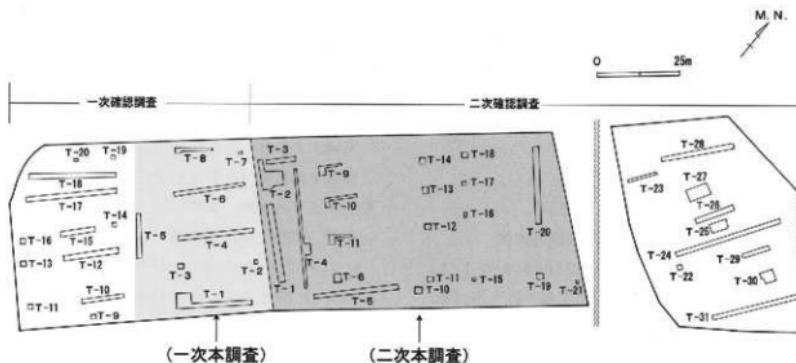
第1節 確認調査の概要

一次確認調査では、調査対象面積5,030m²に対して20カ所のトレンチ（457m²）を入れた。調査区の東側において、鬼界アカホヤ（K-Ah）の一部残存を確認したため、K-Ahから始良Tn（A-T）上面までの調査を行うことになった。また調査区の西側ではK-Ahが全域に渡って、良好に堆積していたが、K-Ah下のMB0（黒褐色ローム）より下位の層においては、砂礫、礫が混在し、調査区東側の土層の様相とはかなり異なっていた。調査の結果、調査区の東側を中心に土坑、剥片、散穀が確認されたことから、調査区の東側一部と西側約1/2を除いて一次本調査を実施することになった。一次確認調査は、平成14年2月6日に着手し、平成14年3月8日に終了した。

二次確認調査では、調査対象面積13,400m²に対し

て31カ所のトレンチ（400m²）を入れた。調査区の東側の旧地形は、丘陵斜面とその斜面から下った低湿地と考えられ、地表下約0.7mの掘削で湧水が見られた。自然流路を検出したものの遺物の確認はできなかった。

西側は土層の堆積状態が良好で、約1/3（約1,500m²）にK-Ahが残存し、多数のピットと土坑を確認した。K-Ahの残存しない残り約2/3では、耕作土下のMB0（黒褐色ローム）上位～ML1（暗褐色ローム）中位まで削平を受けていた。各トレンチ掘削の結果、ML1（暗褐色ローム）では、繩文土器（早期）の小片と焼け石を、Kr-Kbを含む褐色ロームでは、細石刃核、剥片を確認した。その結果、調査区の東側約1/2（低湿地）を除いて二次本調査を実施することになった。二次確認調査は、平成15年1月10日に着手し、平成15年2月24日に終了した。



第3図 確認調査トレンチ配置図

第2節 発掘調査の方法

一次調査対象地は面積2,000m²、二次調査対象地は面積5,500m²の計7,500m²である。二次調査の中央部が丘陵の最も高い所であり、そこから両側にゆるやかな下りの傾斜が見られる。障害物がないため区画を設けることなく、全体を一括して調査することにした。グリッドは、国土座標に合わせて10mのグリッドを東西方向に西からA～O、南北方向を南から1～14に区分して設定し（第5図）、さらにそれを4等分した小グリッドに基づいて調査を行った。

確認調査の結果を踏まえて、一次調査が縄文時代早期、旧石器時代、二次調査がK-Ah降灰以後、縄文時代早期、旧石器時代の調査となった。

調査の結果については、日誌をもってかえる。

1 平成13年度 確認調査

○2月6日～3月8日

表土剥ぎ、トレチ設定、(T1～T42)トレチ掘り下げ、遺物取り上げ、土層断面実測、写真撮影、埋め戻し

2 平成14年度本調査

○5月7日～5月30日

器材搬入、事務所等設置 表土剥ぎ

B-3, B-4, C-4, D-3, E-4, E-5, F-3, F-4, G-3
区の1/4グリッドのIV層を掘り下げる。

東壁、南壁土層断面のためのトレチ掘り

IV層上面コンター図作成

○6月3日～6月27日

調査区残り全面のIV層を掘り下げる。

遺物取り上げ、東壁、南壁上層断面実測

B-5, C-5, D-3, D-5, D-6, E-2, E-3, E-4, F-3,
F-4, G-3区の1/4グリッドのV層を掘り下げる。

S C 1・2検出状況写真撮影、掘り下げ

○7月1日～7月30日

C-5, D-4, D-5, D-6, E-3, E-4, E-5, F-2, F-3,
F-4, G-3区の1/4グリッドのVI層を掘り下げる。

遺物取り上げ

S C 3・4・5検出状況写真撮影、掘り下げ

ラジコンヘリによる空中写真撮影

遺構検出のため重機によるVa層掘削

礫群検出状況写真撮影、実測

○8月2日～8月29日

現地説明会（8月9日）参加者20名

S C 2・3・5の先掘、写真撮影、実測、Ⅷ層
確認のためのトレチ掘り

事務所後片付け、プレハブ撤去、埋め戻し

3 平成14年度 確認調査

○平成15年1月10日～2月24日

表土剥ぎ、トレチ設定、(1T～37T)トレチ
掘り下げ、遺物取り上げ、土層断面実測、写真撮影、
埋め戻し

4 平成15年度本調査

○5月6日～5月29日

器材搬入、事務所等設置 表土剥ぎ

排土置き場から、隣接する芝畑への土砂流出

II層 (K-Ah) 上面の遺構 (S B 1, S E 1, S B
2, S C 6) 検出状況写真撮影、掘り下げ、実測、
遺物取り上げ

ラジコンヘリによる空中写真撮影

IV層上面の遺構検出状況写真撮影、掘り下げ、実
測、遺物取り上げ

東壁、南壁土層断面のためのトレチ掘り

I-10, J-8, J-9, J-11, K-8, K-10, K-11, L-8, L-10,
L-11, L-12, M-10, N-9区の1/4グリッドのIV層を
掘り下げる。

○6月2日～6月27日

重機によるII、III層掘削 (IV層上面全面まで)

IV層上面遺構 (S E 2, S G 1, S B 3・4) の
検出状況写真撮影、掘り下げ、実測、遺物取り上げ
東壁、南壁土層断面実測

E-7, F-7, H-9, I-8, I-9, I-10, J-7, J-8, J-9,
J-11, K-7, K-8, K-10, K-11, L-8, L-9, L-10, L-11, L-
12, M-8, M-9, M-10, M-11, N-9, N-10区の1/4グリッ
ドのIV層を掘り下げる。

IV層下面で検出した遺構 (S I 2・3・4) の写真撮影

重機によるIV層掘削 (V層上面全面まで)

○7月1日～7月30日

Vb層掘り下げ中の遺構 (S C 6, S C 7) の検
出状況写真撮影、実測

Vb層中位で検出した遺構 (S I 1) の写真撮影、

実測、取り上げ

東壁、南壁上層断面の実測

F-6, H-5, H-9, I-7, I-9, J-6, J-7, J-8, J-9,
J-10, K-7, K-9, K-10, K-11, L-9, L-10, L-11, M-9, M-
10区の1/4グリッドのV、VI層を掘り下げる。

G-8, I-8, J-9, J-10, K-9, K-10, K-11, L-8, L-9,
L-10, L-11, L-12, M-9, M-11の1/4グリッドのV層
を掘り下げる。

遺構検出のため重機によるV a層掘削（V b層上面全面まで）

V b層上面で検出した遺構（SC2, SC8, SC9, SC10, SC11, SC12）の検出状況写真撮影、掘り下げ

○8月1日～8月28日

SC2, SC8, SC9, SC10, SC11の実測
F-6, G-6, G-8, H-5, H-6, H-8, I-8区の1/4
グリッドのVII層を掘り下げる。

G-6, H-5, H-8, I-6の1/4グリッドのV b層
を掘り下げる。

○9月1日～9月5日

埋め戻し及び調査事務所等の撤収



(作業風景)

第3節 整理作業及び報告書作成

一次調査は、遺物の出土量が極めて少なかったために、調査員が発掘現場での水洗い、注記、石器の接合、基本的な計測、記載を行った。その後、県埋蔵文化財センターに持ち帰り、調査員での遺物実測、トレースの運びとなった。

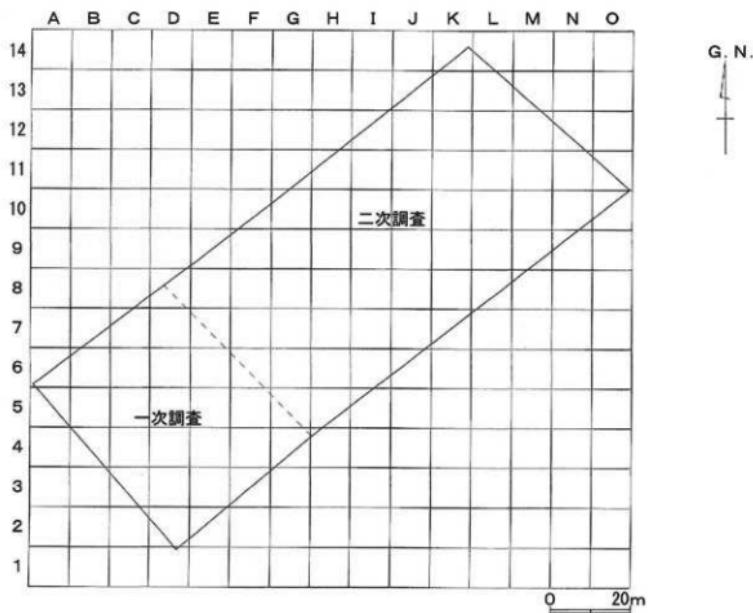
二次調査も遺物の出土量が少なかったため、一次調査同様、調査員が発掘現場での水洗い、注記、石器の一次接合を行った。その後、県埋蔵文化財センターに持ち帰り、整理作業員による二次接合、実測、トレースを行った。整理作業にあたっては、調査員の方で遺跡の全体図を見せながら、包含層の状況、遺構の時期や位置関係、遺物の取り上げ状況等、調査の概要について、整理作業員に説明を行った。調査員は、遺物整理作業と並行しながら報告書執筆を行った。



(現地説明会)



第4図 周辺地形及び調査区



第5図 グリッド配置図

第IV章 調査の記録

第1節 調査の概要

本調査を実施した結果、一次調査では、主として旧石器時代～縄文時代早期までの遺構・遺物を確認した。二次調査では、旧石器・縄文時代早期・中世の遺構・遺物を確認し、下記のような成果を得ることができた。

	時 代	遺 構	遺 物
一 次 調 査	旧石器	礫群（1基）	石核 ナイフ形石器 角錐状石器 剥片
	縄文時代	石器ブロック (1箇所)	石鏃 スクレイパー
	早期	土坑（4基）	石核
		※内3基は陥し 穴	剥片
二 次 調 査	旧石器	石器ブロック (1箇所)	ナイフ形石器 角錐状石器 石核 スクレイパー 蔽石 礫器 剥片 原石 碎片
	縄文時代	集石遺構3基 土坑8基 ※内7基は陥し 穴	塞ノ神式土器 貝殻条痕文系土器 縄石刃 縄石刃核 スクレイパー 剥片 碎片
	早期		
	中世	掘立柱建物2棟 溝状遺構2条 道路状遺構1条	須恵器（片口鉢） 土師器（小皿片） 土師器（甕）

第2節 基本層序

1 堆積状況

一次調査区内の各層の残存状況は、比較的良好であったが、K-Ahは北東部の一部にしか堆積していなかった。また、調査区の南西部約170m²はML 1(IV層暗褐色ローム)まで削平を受けており、Kr-Kb層からの堆積であった。調査区の南側壁面(北東～南西)の土層では、基本層序にない異質な層が一部確認されたため、間層として位置付けることにした。また、始良Tn(A-T)から下位の層においては、南西端で急な傾斜が見られた。特に、A-Tでは水成堆積、間層2a、2bが見られることから、本遺跡の南西部に谷地形が形成されていたことがうかがえる。

二次調査区内においても各層の残存状況は良好であったが、調査区全般において、耕作及び盛り土のための削平を受けていた。そのため、中央部はIV層(暗褐色ローム)上面まで、西側がII層(黒褐色ローム)上面まで、東側がIII層(黒褐色ローム)中央部までの削平を受けていた。

一次調査で確認されたK-Ahの一部は、二次調査区内の西側約1,500m²に残存していた。一次調査で確認された間層1a、間層1b、間層1c、間層2a、間層2bは、二次調査では確認されなかった。確認した層序は、第6図の基本土層図に集約される。包含層はII層が中世、IV層が縄文早期、Va層、Vb層、VI層が旧石器時代に相当する。

基本層序は以下に示す通りである。

第I層：表土(耕作土)

第II層：鬼界アカホヤ(K-Ah)

黄橙色の火山ガラスを多量に含む。

一部、上層に二次堆積が混在する。

第III層：黒褐色ローム(MB 0)

小白斑を含んでおり、しまって固い。

第IV層：暗褐色ローム(ML 1)

斑点状のシミが見られ、しまって固い。

第V a層：褐色ローム (Kr-Kb)

粘性があり、小林軽石を含む黒褐色ブロックがわずかに見られる。

第V b層：褐色ローム (Kr-Kb)

粘性があり柔らかく、小林軽石を多量に含む暗褐色の固いブロックを密に含む。

間層1 a : 10YR 3 / 1 黒褐色土

粘性、しまりともなく、赤色、黄色のスコリア、小林軽石を多量に含む。

間層1 b : 10YR 3 / 3 暗褐色土

粘性、しまりともなく、小林軽石を若干含む。

間層1 c : 2.5YR 3 / 1 黒褐色土

粘性、しまりともない。多量の小林軽石を含み、若干のATを含む。

第VI層：暗褐色ローム (MB 1)

やや柔らかく粘性を帯びている。径1mmの橙色バミスをまばらに含む。

第VII層：始良Tn (AT)

上部では、黄色の細粒が密に堆積しており、粘性を帯びている。下部では白色の細粒が密に堆積している箇所や一部水成堆積を示す部分も見られる。

第VIII層：暗褐色ローム (MB 2・3)

白色の鉱物粒を多く含む。クラックが発達し、固くしまっている。

間層2 a : 7.5YR 褐色土

弱粘質でややしまりあり。

間層2 b : 7.5YR 褐色土

弱粘質で、あまりしまりなし。砂礫を多量に含む。

第IX層：赤褐色ローム

赤褐色のスコリアを含む。

第X層：露島イワオコシ (Kr-Iw)

黄褐色バミスを含み、降下軽石を主体とする。

第XI層：明黄褐色ローム

粘土質

東壁 (第7図A~C)

I 层	表土
II 层	鬼界アカホヤ (K-Ah)
III 层	黒褐色ローム (MB 0)
IV 层	暗褐色ローム (ML 1)
V a層	褐色ローム (Kr-Kb)
V b層	褐色ローム (Kr-Kb)
VI 层	暗褐色土 (ML 1)
VII 层	始良Tn (AT)
VIII 层	暗褐色ローム (MB 2, 3)
IX 层	赤褐色ローム (ML 3)
X 层	露島イワオコシ (Kr-Iw)
XI 层	明黄褐色ローム (ML 4)

南壁 (第7図D~G)

I 层	表土	II 层	試料1
II 层	(K-Ah)	III 层	試料2, 3
III 层	(MB 0)	IV 层	試料4, 5
IV 层	(ML 1)	V a層	試料6
V a層	(Kr-Kb)	V b層	試料7
V b層	(Kr-Kb)	間層1	
間層1		VI 层	試料8
VI 层	(MB 1)	VII 层	試料9
VII 层	(AT)	VIII 层	試料10
VIII 层	(MB 2, 3)	間層2	
間層2		IX 层	(ML 3)
IX 层		X 层	(Kr-Iw)
X 层		XI 层	(ML 4)

【第6図 基本土層図】

2 各層における植生と環境の復元

(1) 自然科学分析

本遺跡においては、前述した基本土層をもとに、旧石器時代から縄文時代にかけて当時の植生と環境を推定するために、調査区の南壁AT直下のVII層(試料10)からK-Ah層準のII層(試料1)までの各層について自然科学分析(植物珪酸体分析)を古環境研究所に委託した。この分析結果については、各層ごとの植生と環境を知る上で重要であるので、この章で部分的に抜粋することにする。

VII層(試料10)ではキビ族型、ヨシ属、ウシクサ族A、メダケ節型、ネザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。AT層の

VII層（試料9）では、植物珪酸体がほとんど検出されなかった。AT直上のVI層（試料8）は、ミヤコザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型なども検出された。Vb層（試料7）では、ミヤコザサ節型が増加傾向を示しており、メダケ節型も出現している。Va層（試料6）では、ミヤコザサ節型がさらに増加しており、ヨシ属やクマザサ属型も出現している。IV層（試料4、5）ではクマザサ属型が増加しており、同層上部ではネザサ節型も増加傾向を示している。鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah）直下のIII層（試料2、3）では、メダケ節型やネザサ節型が大幅に増加しており、ミヤコザサ節型は減少している。K-Ah層のII層（試料1）では、各分類群とも大幅に減少している。おもな分類群の推定生産量によると、V層ではヨシ属、VI層～Va層ではミヤコザサ節型、IV層ではクマザサ属型やミヤコザサ節型、III層ではメダケ節型やネザサ節型が優勢となっていることが分かる。

以上の結果を踏まえ、本遺跡の植生と環境について次項で推定することにする。

（2）推定される当時の植生と環境

本遺跡の推定される植生と環境を、東に隣接する北牛牧第5遺跡と西に隣接する唐木戸第3遺跡の自然科学分析の結果と比較しながら、以下にまとめる。

まず、本遺跡と北牛牧第5遺跡と唐木戸第3遺跡の地形的な環境について述べたい。北牛牧第5遺跡は本遺跡の北東約0.4kmに位置し、その間に谷を挟む。土層の状況は本遺跡と酷似している。唐木戸第3遺跡は、本遺跡の南西約0.2kmに位置し、北牛牧第5遺跡同様、間に谷を挟み土層も酷似している。

本遺跡の始良Tn（AT）直下のVII層（暗褐色ローム）の堆積当時、本遺跡はヨシ属など認められており、唐木戸第3遺跡ではヨシ属が認められていない、つまり、台地上に位置する本遺跡は、旧河道などによって、湿地化していたものと考えられる。南壁の西側上層断面の間層1A～間層1C（第7回ポイントG）の土層の急激な落ち込みが、このことを物語っている。

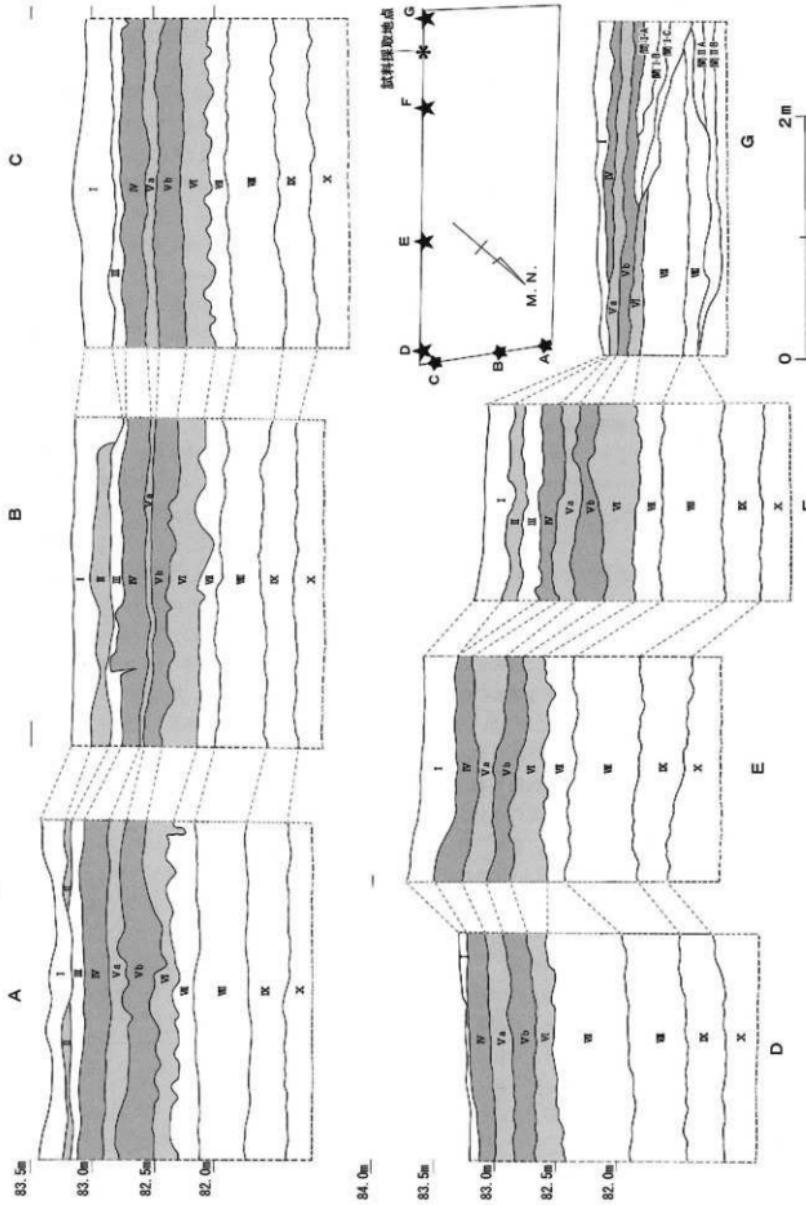
始良Tn直上のVI層（暗褐色ローム）、V層（褐色

ローム Kr-Kb層準）の堆積当時はクマザサ属などのササ類を主体としたイネ科植生が成立していたと推定される。クマザサ属のうち、ミヤコザサ節は、太平洋側の積雪の少ない比較的乾燥したところに分布することから、当時は積雪の少ない比較的寒冷で乾燥した環境であったと考えられる。この環境は北牛牧第5遺跡、さらには、唐木戸第3遺跡でも同様であったと言える。しかし、本遺跡のVa層の時期では、ヨシ属などが生育する湿地的な部分も見られるようになつたと推定される。

Kr-Kb層準上位より上位のIV層（暗褐色ローム）では、クマザサ属などのササ類を主体としたイネ科植生がミヤコザサ節からチシマザサ節・チマキザサ節に移行したと推定される。このことから、IV層（暗褐色ローム）の時期には、晚冰期以降における気候温暖化による積雪量（降水量）が相対的に増加した可能性が示唆される。このような環境は、北牛牧第5遺跡、唐木戸第3遺跡においても同様の環境であったと考えられる。

鬼界アカホヤ（K-Ak）直下のIII層（黒褐色ローム）時は、メダケ属を主体としてススキ属やチガヤ属なども見られる草原植生に移行したと推定されるが、このような植生変化は後氷期における気候温暖化に対応したためと考えられる。北牛牧第5遺跡においても同様で、メダケ属を主体として、キビ族やウシクサ族、ササ類などの見られる草原的な環境で、部分的にヨシ属などが育成する湿地的なところも見られたと推定される。唐木戸第3遺跡では、メダケ属を主体としてはいるものの、キビ族、ウシクサ族、ササ類などの見られるイネ科植生であったと考えられ、周辺では何らかの樹木も見られたと推定される。

以上のような植生と環境が推定されるが、詳細は「第7表 植物珪酸体検出密度」「第8表 植物珪酸体検出状況対比表」及び「第V章 自然科学分析」を参照されたい。



第7図 土層断面図及び土層断面配置図

第3節 旧石器時代の遺構と遺物

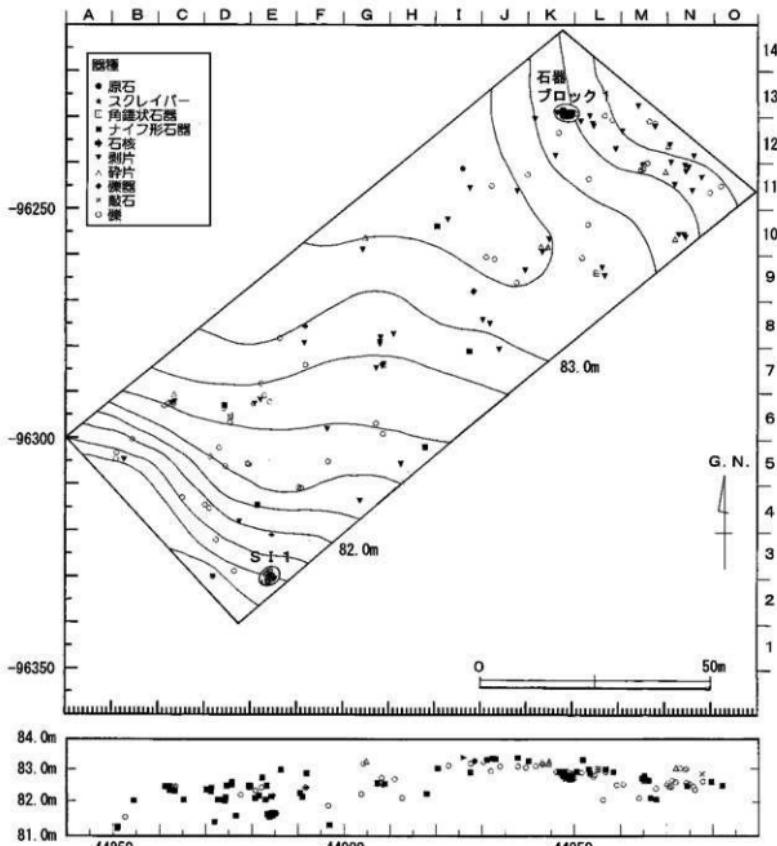
1 旧石器時代の遺構

旧石器時代の遺構は、基本土層のV b 層中位で、石器ブロック 1 個所、礫群 1 基を検出した。

本遺跡における石器ブロックの認定条件として、石器が密に出土し、その周辺は石器の出土が疎であること、石器間接合が見られる場合とした。いわば相対的に石器が集中している場合と考える。本遺跡においては、石器の出土量が疎であるために比較的

その判断は容易であった。

また、礫群についても石器ブロックと同様で、最大以上の疎が密に出土し、疎間の接合があり、被熱の影響を受けていること、さらに、その周囲に疎が出土しない場合を疎の有機的な集合と判断し、疎群としてとらえることにした。疎の出土状況も極めて疎であったために、疎群の抽出も比較的容易であった。

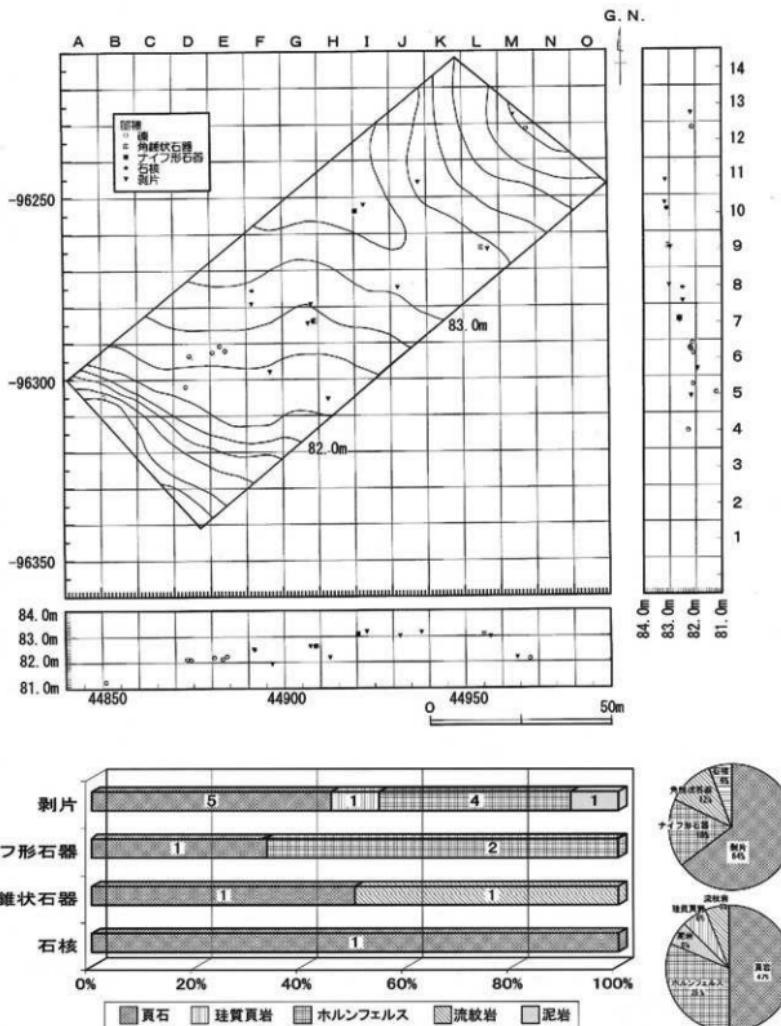


第8図 旧石器時代遺構・遺物分布図

2 VI層の遺物

VI層(MB 1)では、ナイフ形石器3点、角錐状石器2点、剥片11点、石核1点が出土した。出土点数はVI層が最も少ない。出土範囲は、調査区中央の

丘陵鞍部が中心になる。各器種の主な石材は、剥片が頁岩・ホルンフェルス、ナイフ形石器が頁岩・ホルンフェルス、角錐状石器が頁岩・流紋岩、石核が黒曜石である。



第9図 VI層遺物分布状況

ナイフ形石器（第23図）

34は、縦長剥片を素材とし一側両縁に刃潰し加工が施されている。刃部先端と中央より基部にかけて破損している。

35は、縦長剥片を素材とし、一側縁に刃潰し加工が施されている。基部から刃部先端までの加工が認められる。

36は、縦長剥片を素材とし、二側縁に刃潰し加工が施されている。僅かに基部加工がなされている。
角錐状石器（第23図）

37は、ほぼ左右対象の紡錘形を呈し、三面加工が施されている。主要剥離面からの細かな調整が見られる。

38は、両側縁に大ぶりな抉入状の加工が施され、主要剥離面を残している。

剥片（第23図～第24図）

39は珪質頁岩、40～43はホルンフェルス、44は泥岩、45～46は頁岩を石材とする剥片である。39、41は不定形、他は縦長剥片である。40、42、43は二次

加工が施されている。

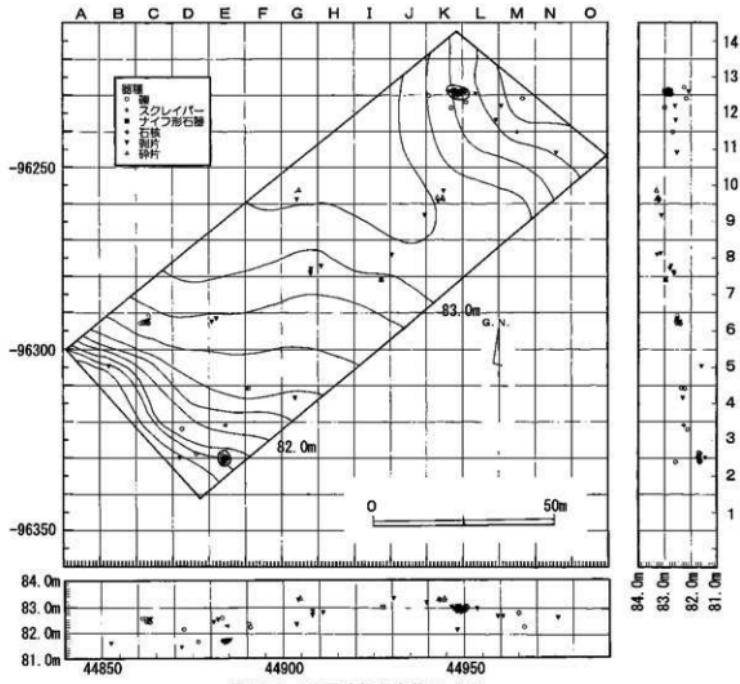
40は、表面の左側縁に裏面からの調整加工が施されている。

42は、表面に調整加工が施されている。

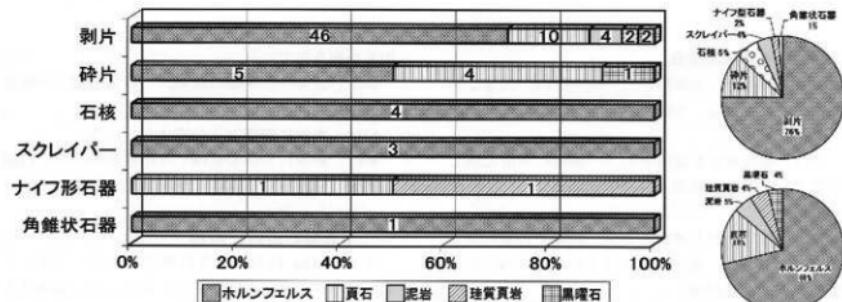
46は、表面に自然面を残した不定形剥片で、打面除去後、両側縁に調整加工が施されている。

3 Vb層の遺構と遺物

Vb層（Kr-Kbを密に含む褐色ローム）では、石器ブロック1箇所と礫群1基を検出した。遺物はナイフ形石器2点、角錐状石器1点、スクレイパー3点、石核4点、剥片64点、碎片10点が出土した。VI層に比べ出土範囲は調査区の全体へと広がるが、製品自体は数点で、その出土状況は散漫であるといえる。なかでも、丘陵の緩斜面では主たる石器が出土した。各器種の主な石材は、角錐状石器がホルンフェルス、ナイフ形石器が頁岩・珪質頁岩、スクレイパーがホルンフェルス、石核がホルンフェルス、剥片がホルンフェルス・頁岩である。



第10図 Vb層遺物分布状況（1）



第11図 Vb層遺物分布状況（2）

S I 1 (第12図)

調査区南の中央、E-2～E-3グリッドに位置し、長径2.4m、短径2mの範囲に礫54点、石器2点、計56点がVb層中位で検出した。S I 1は、多くの礫が拳大前後の大きさで、掘り込みや炭化物についての確認はできなかった。さらに、2個の礫接合が7組、5個の礫接合が1組見られる。礫群に伴って出土した遺物としては、角錐状石器(第24図49)1点と剥片(第26図59)1点であったが、ともに風化が激しく、剥離状況をとらえにくく。

S I 1の状況については、次の観点より観察・分析を行った。礫の石材、赤化度、完形度、礫形、重量の5観点である。礫観察表(第1表)の赤化度は(3 磫表面の80%以上の赤化、2 磫表面の40%以上80%未満の赤化、1 磫表面の40%未満の赤化、0 磫表面が全く赤化していない)の4段階、完形度は(A 原形の90%以上を保っている、B 原形の40%以上90%未満を保っている、C 原形の40%未満を保っている)の3段階、礫形は礫が(a 円状、b 破碎礫、c 角状)の3段階、重量は(③ 400g以上、② 200g以上400g未満、① 200g未満の3段階)である。

これらの観点から分析した結果、S I 1における礫の石材は、砂岩が約50%、尾鈴山酸性岩が約40%、ホルンフェルスが約10%であった。赤化度は礫全体の約70%が赤化しており、赤化的程度(3、2、1)の割合は、どの段階も約20%～約30%で、さほど変わらない。完形度からは、礫全体の約75%が原形を保っておらず、破碎していることが分かる。礫形か

らは完形を保っている礫が、円状と角状とともに約18%で構成されていることが分かる。重量は、200g未満のものが圧倒的に多く約55%を占め、200g以上400g未満のものが約30%を占め、500g以上のものは約15%と少ない。このことは、完形の礫が少ないという結果より容易に推察できる。これらの観点別の結果については、さらに石材ごとに分類まとめてみた。

石材の割合は砂岩、尾鈴山酸性岩、ホルンフェルスという順であったが、その結果が、観点別石材分類に、そのまま反映しているといえる。その中で、違った傾向にあったものだけここでは述べる。

- ① 重量200g以上400g未満において、尾鈴山酸性岩の占める割合が大きい。
- ② 磫形、破碎した礫において、ホルンフェルスの占める割合が非常に少ない。
- ③ 完形度90%以上において、尾鈴山酸性岩の占める割合が大きい。
- ④ 赤化度0%において、ホルンフェルスの占める割合が大きい。

石器ブロック1(第15図)

調査区北東部のK-13グリッド付近に位置し、長径3m、短径1mの範囲に石器52点、礫31点が集中して出土した。その組成は、剥片40点、石核3点、スクレイパー2点、碎片7点である。石材はほとんどがホルンフェルスで、他に頁岩が若干ある。

石器ブロック内における接合資料は2例(接合資料1、接合資料2)あり、接合数は接合資料1が26点、接合資料2が10点である。器種は大半が剥片、碎片

で、製品等はほとんどない。

接合資料1（第17図～第19図）

母岩は、長軸13cmを越える大きめの並円礫で、礫面が暗オリーブ灰色（2.5GY 4／1）で若干の風化現象が見受けられる。接合は石器ブロック内の石器のみで石器ブロック外への広がりはなかった。剥片剥離作業の工程は以下のように考えられる。

礫端部から1を剥離し打面作出を行い、（碎片2剥離）3の不定形剥片を剥離し、作業面調整を行う。この段階で、碎片4・5が剥離する。順次、6→7の順で縦長剥片を剥離する。その後、主要剥離面を反転させ、不定形剥片8→9と剥離を進行させていく。次に打面を180度転移させ、礫端部10を剥離し、打面を形成する。引き続き、11→12→13と縦長及び横長剥片を剥離している。ここで、再度主要剥離面を反転させ、16の素材剥片を剥離し（碎片14剥離）、打面形成後、17→18→19→20の順で縦長剥片及び横長剥片を剥離する。残った石核から22を素材剥片として剥離し、スクレイパーとして加工している。残った23が残核となる。

接合資料2（第20図～第22図）

母岩は、長軸約18cmの大きめの棒状の礫で、礫面はオリーブ灰色（10Y 6／2）で接合資料1より風化的程度が進んでいる。接合の広がりはブロック外ではなく、ブロック内での接合となった。剥片剥離作業の工程は次のように考えられる。

まず、棒状の端部から中心に向かって第1剥離（24）を行い、打面を形成している。24の縦長剥片を剥離する際、碎片25、26が一緒に剥離した。次に第2剥離（27～29）が行われた。第1剥離と同様で礫の端部から中心に向かっての剥離で、第2剥離後27～28の順で剥離させ29が残った。次に、打面を180度転移させ第3剥離（30～31）を行っている。剥離作業は、端部より礫の中心に向かって行われ、階段状剥離の見られる横長剥片を作出している。その後、この横長剥片から、30の縦長剥片を作出している。最後に残った石核を分割するかのように中心から32を剥離している。

ナイフ形石器（第24図）

47は横長剥片を素材とし、素材剥片の形状を生か

しながら両側縁の刃潰し加工を施している。刃部先端が鋭角である。

48は縦長剥片を素材とし、一側縁に刃潰し加工が施されている。刃部は切り出し状を呈し銳角である。中央より基部にかけて破損している。

角錐状石器（第24図）

49は紡錘形を呈し、三面加工が施されている。裏面に平坦剥離が見られるものの、風化が著しい。

スクレイパー（第25図）

54は背面の周囲に自然面を残し、下縁から右側縁にかけて伏入状の加工を、左側縁にかけては細かな調整加工がなされているラウンドスクレイパーである。

石核（第25図）

55は打面と作業面の転移はあまり見られず、形態的には、円錐の様相を呈する。剥離面観察からは縁辺部の剥片剥離が一部見られる。

剥片（第24図）

50～53は、頁岩を石材とする剥片である。50, 52, 53には二次加工が施されている。

50は表面の右側縁に裏面側から、裏面の右側縁に表側から調整加工が施されている。

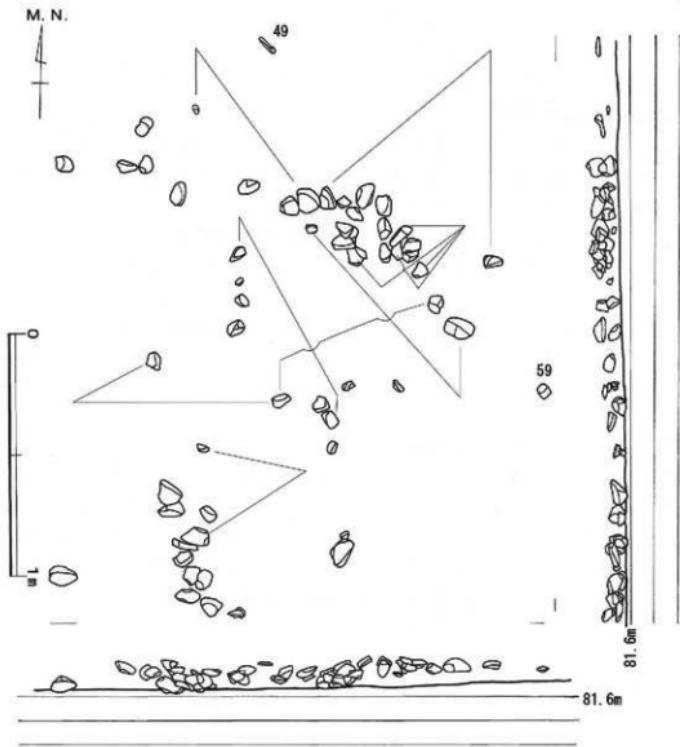
52は表面にのみ調整加工が施され、一部、自然面を残す。

53は、表面の左側縁、裏面の右側縁に調整加工が施されている。厚みのない剥片に調整加工を施す最中に中央より剥離し2分割された。

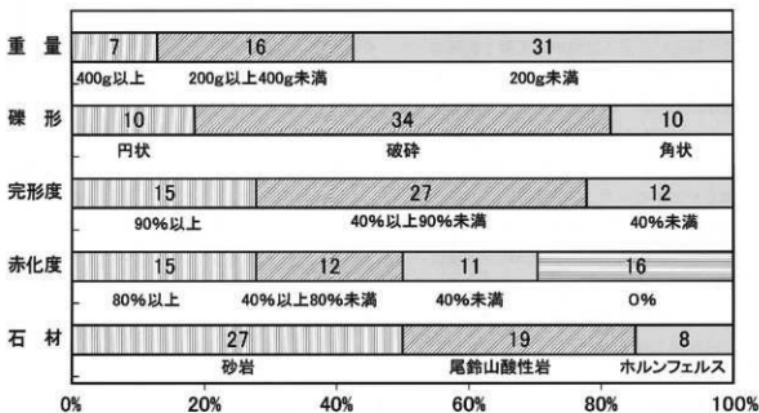
56, 57は珪質頁岩を石材とする不定形剥片である。

58～63はホルンフェルスを素材とする。

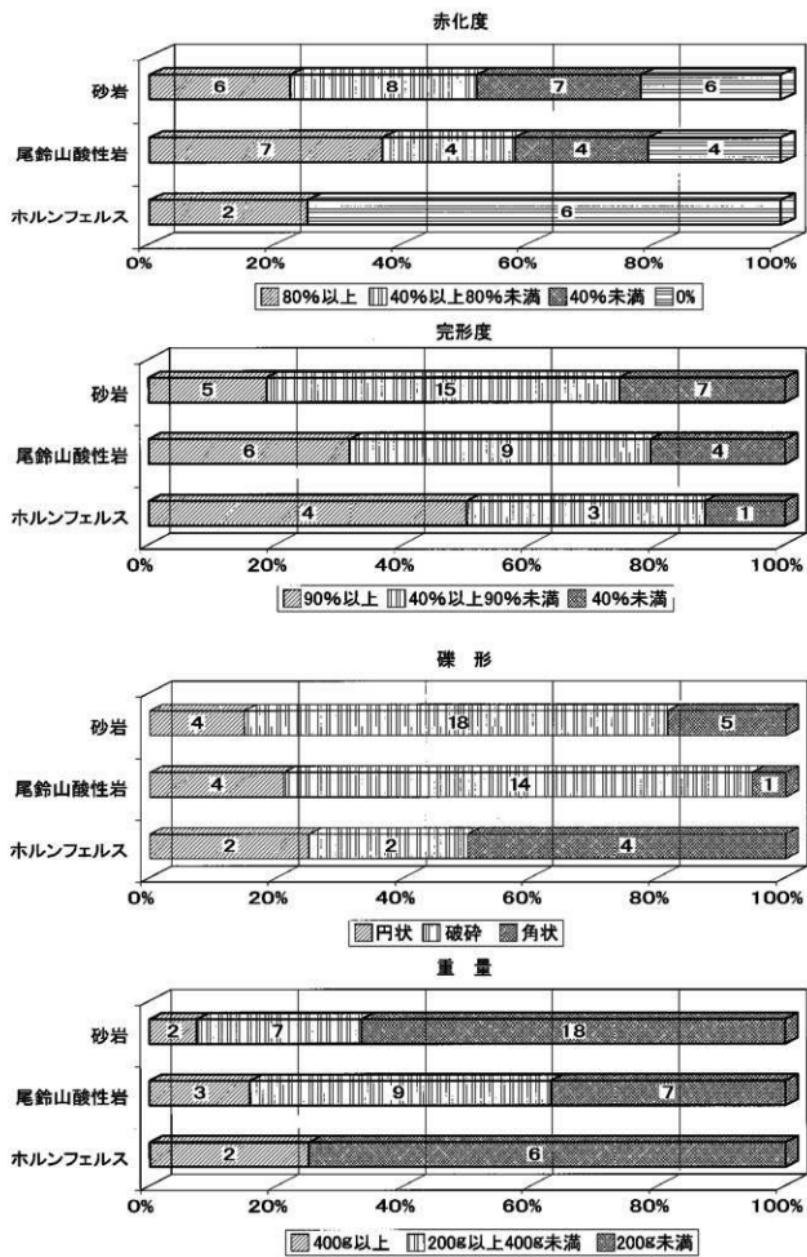
63は、原石を板状に荒削りした石核から剥ぎとった横長の剥片である。



第12図 S I 1 実測図



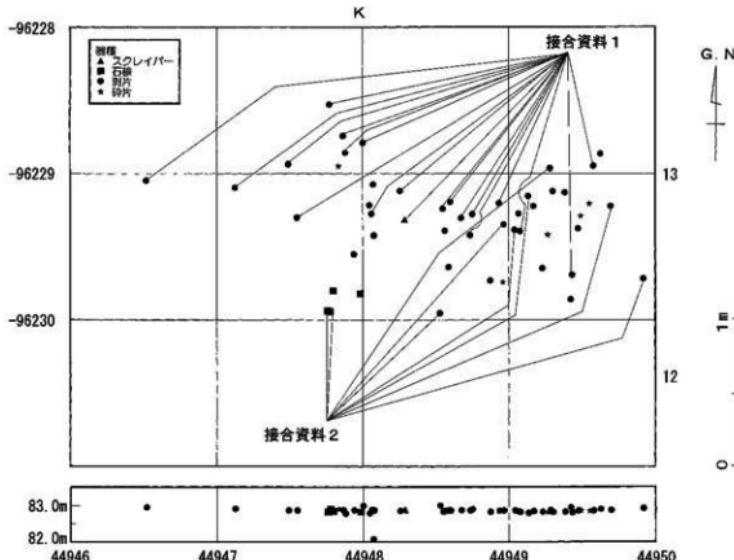
第13図 砥の属性 (1)



第14図 岩の属性 (2)

番号	石材	大きさ		形		高さ		幅		厚さ		備考 (接合)
		B (幅)	A (長さ)	形状	寸法	(cm)	(cm)	(cm)	寸法	寸法	寸法	
		C (厚さ)	D (深さ)	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	寸法	
45	砂岩	0	B	a	8.1	5.4	4.9	—	—	—	—	④
46	砂岩	0	B	b	8.2	5.4	5.0	—	—	—	—	④
70	砂岩	2	C	b	9.0	5.4	5.0	—	—	—	—	④
72	砂岩	2	B	b	9.4	5.5	5.1	—	—	—	—	④
75	砂岩	3	C	b	9.8	5.5	5.1	—	—	—	—	④
76	砂岩	3	B	c	11.2	6.7	5.0	—	—	—	—	④
79	砂岩	1	B	c	11.2	6.7	5.0	—	—	—	—	④
81	砂岩	0	B	a	11.5	5.5	5.7	—	—	—	—	④
82	砂岩	2	B	a	11.5	5.7	4.7	—	—	—	—	④
83	砂岩	2	B	b	12.1	5.7	4.8	—	—	—	—	④
84	砂岩	2	B	b	12.8	5.1	5.7	—	—	—	—	④
85	砂岩	3	A	a	12.6	5.8	5.6	—	—	—	—	④
86	砂岩	2	B	a	12.7	4.9	4.5	—	—	—	—	④
88	砂岩	2	A	b	12.8	5.2	5.8	—	—	—	—	④
89	砂岩	2	B	b	12.8	5.2	5.8	—	—	—	—	④
90	砂岩	1	B	b	12.8	5.2	5.1	—	—	—	—	④
91	砂岩	3	A	a	12.9	5.5	5.1	—	—	—	—	④
101	砂岩	3	C	b	13.4	6.0	5.6	—	—	—	—	④
105	砂岩	3	B	a	13.5	5.9	5.7	—	—	—	—	④
108	砂岩	1	C	b	13.2	5.5	4.9	—	—	—	—	④
110	砂岩	2	C	b	13.2	5.2	5.2	—	—	—	—	④
112	砂岩	2	C	b	13.2	5.2	5.6	—	—	—	—	④
113	砂岩	0	C	b	13.2	5.2	5.6	—	—	—	—	④
115	砂岩	2	B	b	13.1	5.1	5.6	—	—	—	—	④
116	砂岩	2	B	b	13.8	5.7	5.1	—	—	—	—	④
43	尾根山砂岩	2	B	b	9.5	5.5	4.7	—	—	—	—	④
44	尾根山砂岩	2	A	a	10.5	5.5	4.0	—	—	—	—	④
45	尾根山砂岩	0	B	a	10.5	5.5	4.0	—	—	—	—	④
46	尾根山砂岩	0	A	a	10.5	6.0	5.6	—	—	—	—	④
47	尾根山砂岩	0	B	b	10.5	5.5	5.5	—	—	—	—	④
71	尾根山砂岩	1	C	b	10.5	5.5	5.1	—	—	—	—	④
78	尾根山砂岩	1	C	a	10.5	4.7	5.2	—	—	—	—	④
79	尾根山砂岩	1	C	b	10.8	7.1	8.0	—	—	—	—	④
80	尾根山砂岩	3	A	a	10.5	5.5	5.4	—	—	—	—	④
92	尾根山砂岩	3	A	a	10.7	4.8	5.7	—	—	—	—	④
94	尾根山砂岩	3	B	b	10.7	5.2	5.5	—	—	—	—	④
95	尾根山砂岩	3	B	b	10.7	5.5	5.5	—	—	—	—	④
102	尾根山砂岩	1	B	b	10.7	5.5	5.1	—	—	—	—	④
103	尾根山砂岩	3	B	b	10.8	5.8	4.3	—	—	—	—	④
104	尾根山砂岩	3	B	b	10.8	6.5	4.5	—	—	—	—	④
105	尾根山砂岩	2	B	b	11.0	5.5	4.5	—	—	—	—	④
107	尾根山砂岩	2	C	b	11.0	5.5	4.5	—	—	—	—	④
114	尾根山砂岩	2	C	b	11.3	6.5	4.5	—	—	—	—	④
94	ホルンシュールス	0	A	a	11.2	5.8	4.7	—	—	—	—	④
95	ホルンシュールス	1	A	a	11.2	5.8	4.7	—	—	—	—	④
96	ホルンシュールス	1	B	a	11.2	5.8	4.7	—	—	—	—	④
97	ホルンシュールス	0	A	a	11.2	5.5	4.5	—	—	—	—	④
98	ホルンシュールス	0	B	b	11.2	5.5	4.5	—	—	—	—	④
99	ホルンシュールス	0	B	b	11.2	7.5	5.2	—	—	—	—	④
100	ホルンシュールス	0	B	b	11.2	7.5	5.2	—	—	—	—	④
101	ホルンシュールス	0	C	b	11.2	7.5	4.9	—	—	—	—	④

第1表 砂群観察表



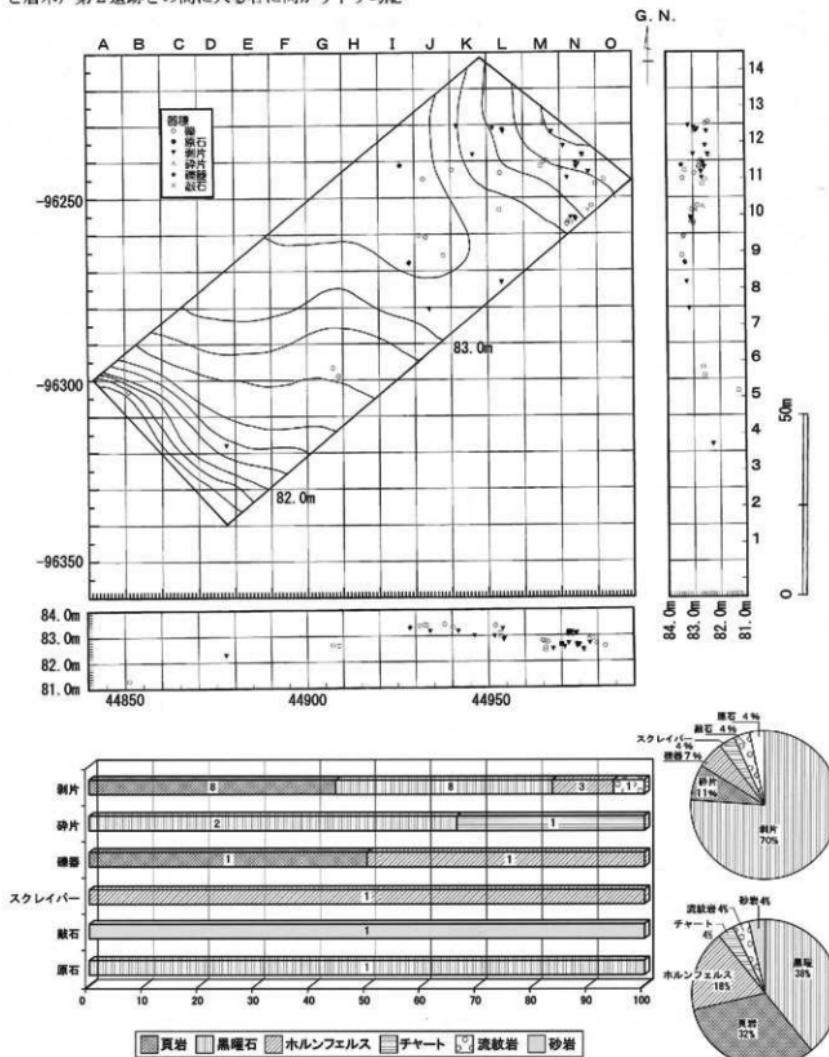
第15図 石器ブロック 1分布図

4 Va層の遺物

Va層(Kr-Kb)を疊に含む褐色ローム)では、敲石1点、礫器2点、原石(黒曜石)1点、スクレイバー1点、剥片20点、碎片3点が出土した。調査区の北東端付近に散漫に出土する状況であり、本遺跡と唐木戸第2遺跡との間に入る谷に向かう下り勾配

の緩斜面では、ほとんど出土していない。

石材は、黒曜石、頁岩が主である。各器種の主な石材は、原石は黒曜石、敲石が砂岩、礫器は頁岩とホルンフェルス、スクレイバーがホルンフェルス、剥片は頁岩・黒曜石であった。



第16図 Va層遺物分布状況

敲石（第27図）

64は形状が厚みのある扁円礫で、礫の両端に敲打痕が認められる。

原石（第27図）

65は鹿児島上牛鼻産黒曜石の原石で、本遺跡に持ち込まれたものと思われる。

スクレイパー（第27図）

66は原礫から作出了した素材剥片の主要剥離面から、両側縁の剥離調整を行っている。右側縁の調整は粗い。左側縁は作業面調整を行った後の調整剥離が見られる。

礫器（第28図）

67は68より大きめの扁平円礫の自然面を打面にし、二分割した後、銳利面をもつ方を素材としている。

背面には自然面を残し、一側縁から加工を施し刃部を作り出している。

68は、大きめの扁平梢円礫の礫面端部に打面を作出し、作業面を少しずつ変えながら剥離作業を行い刃部を作り出している。

剥片（第29図）

69～74は頁岩、75～76はホルンフェルスを石材とする。

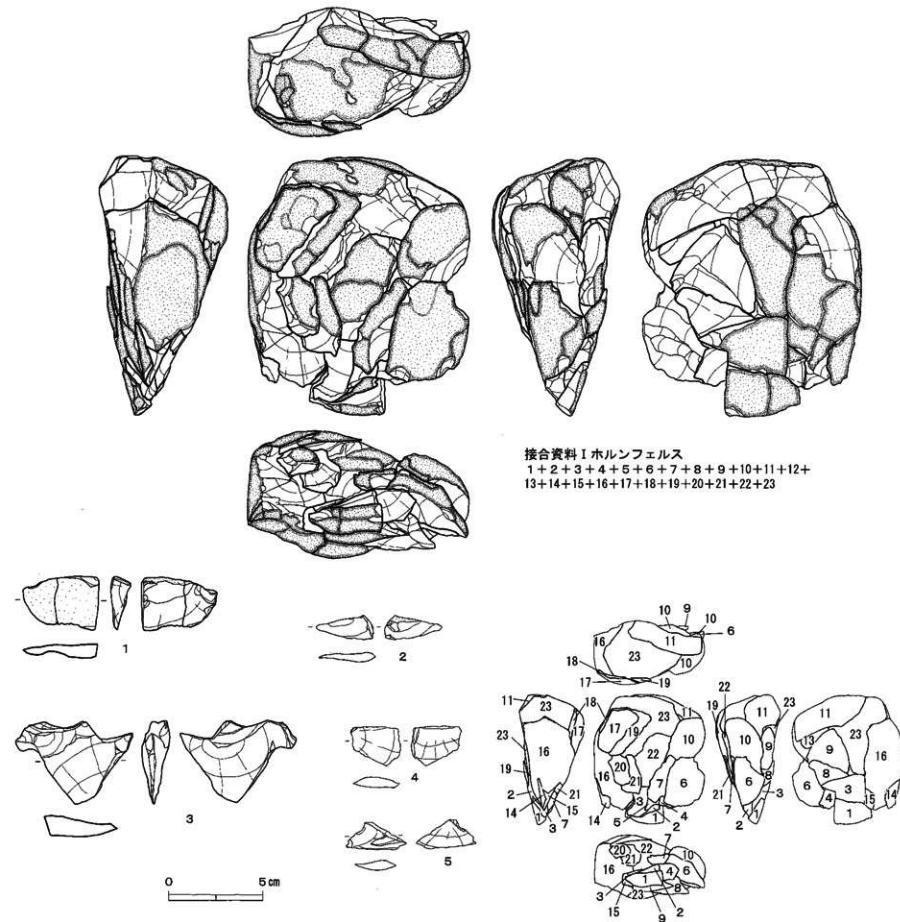
71は表面の左下縁辺に調整加工が施されている。

74は、裏面に自然面を残した不定形剥片の両面の下縁辺に調整加工を施す。

70・76は、表面左側縁に微細な剥離痕が見られる。

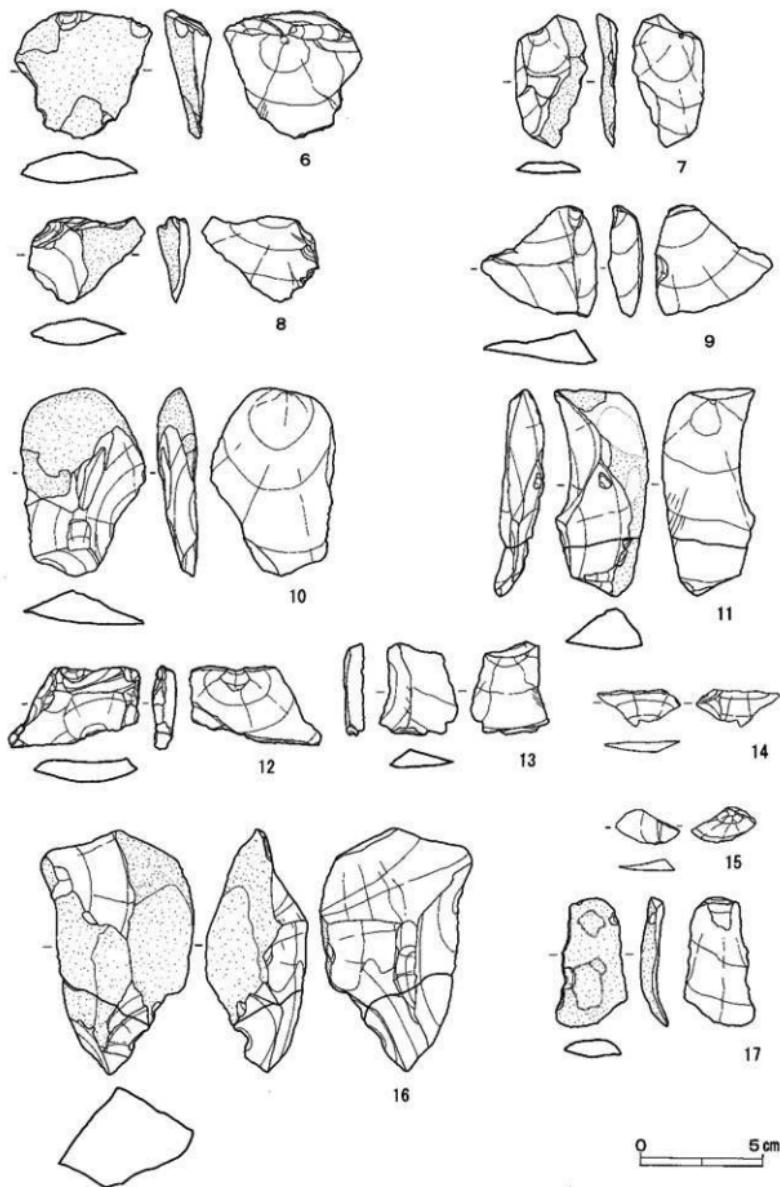
石 材 器 種	チャート	ホルン フェルス	非質頁岩	黒曜石	砂 岩	泥 岩	尾鈎山鱗 性岩	頁 岩	流紋岩	総 計
スクレイパー		4								4
ナイフ形石器		2	1					2		5
角錐状石器		1						1	1	3
石 根		4						1		5
巻 石						1				1
礫 器		1						1		2
原 石				1						1
剥 片	1	53	4	10		5	1	23	1	96
碎 片	1	5		3				4		13
表		68	1		34		29	5		137
総計	1	138	6	14	35	5	29	37	2	267

第2表 旧石器時代石器組成表

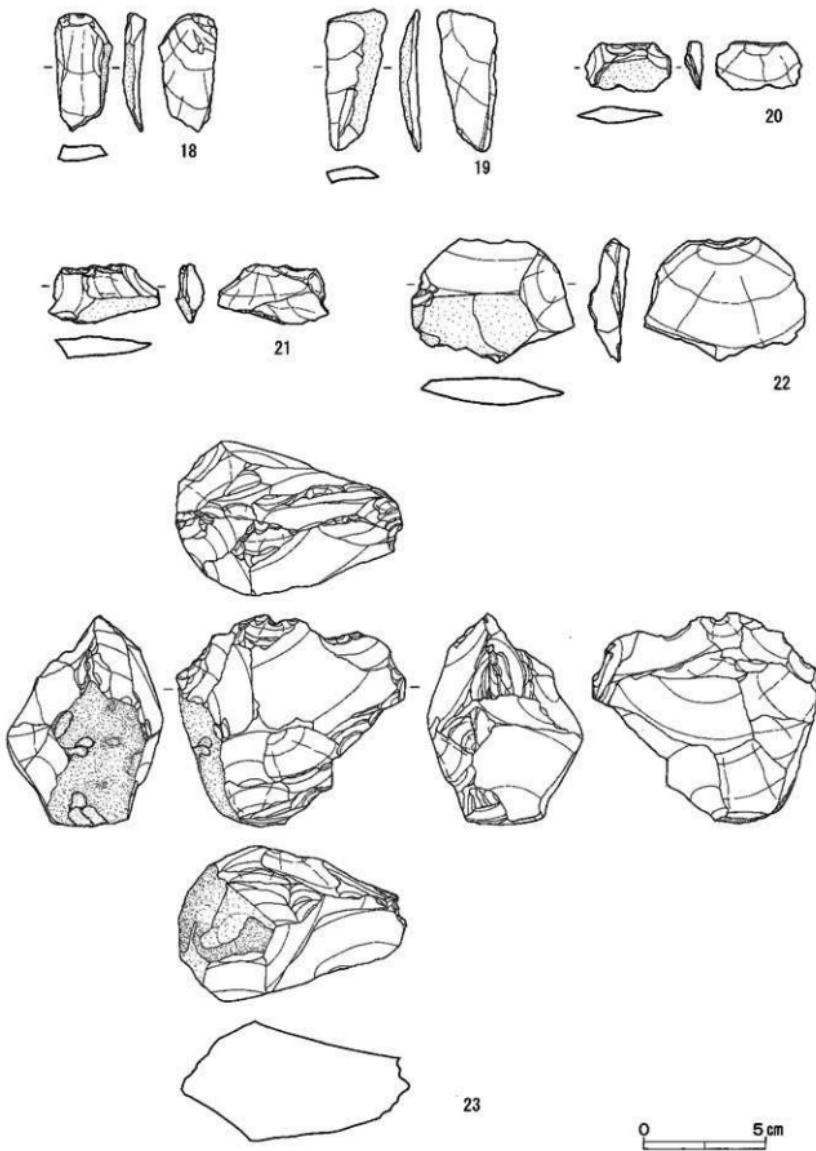


第17図 接合資料1実測図(1)

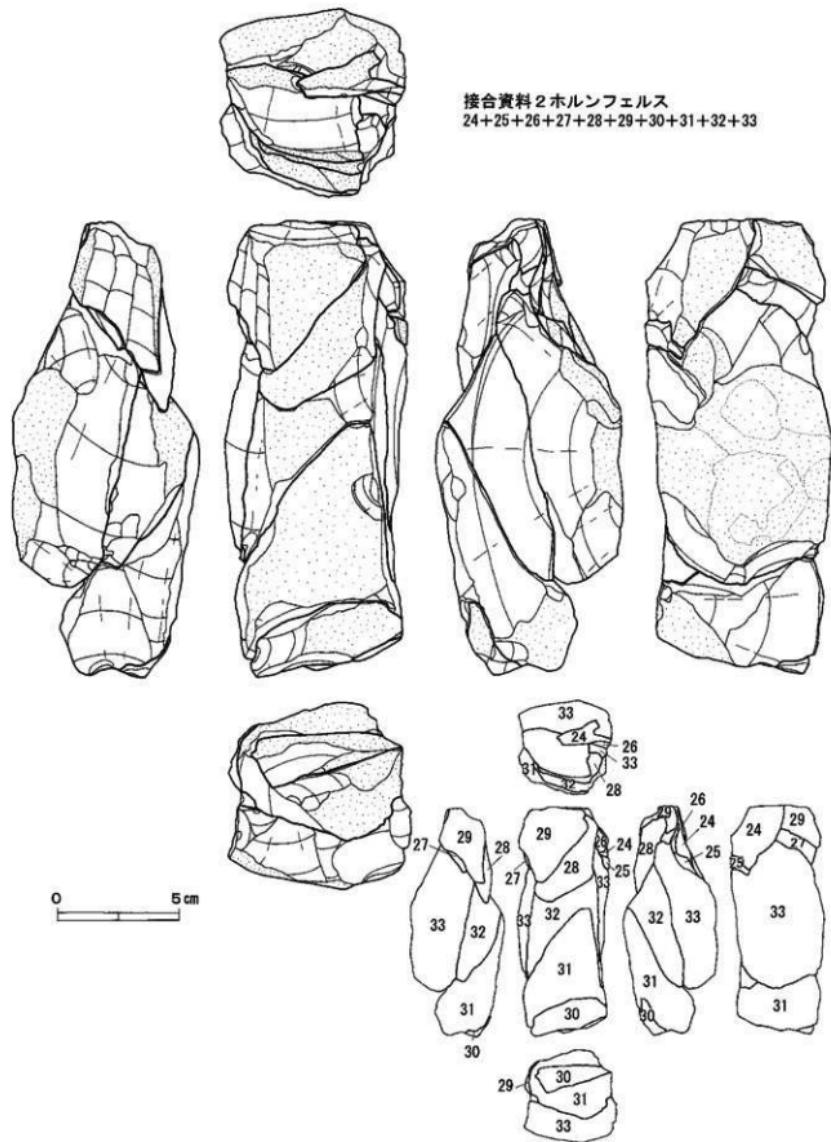
- 23 ~ 24 -



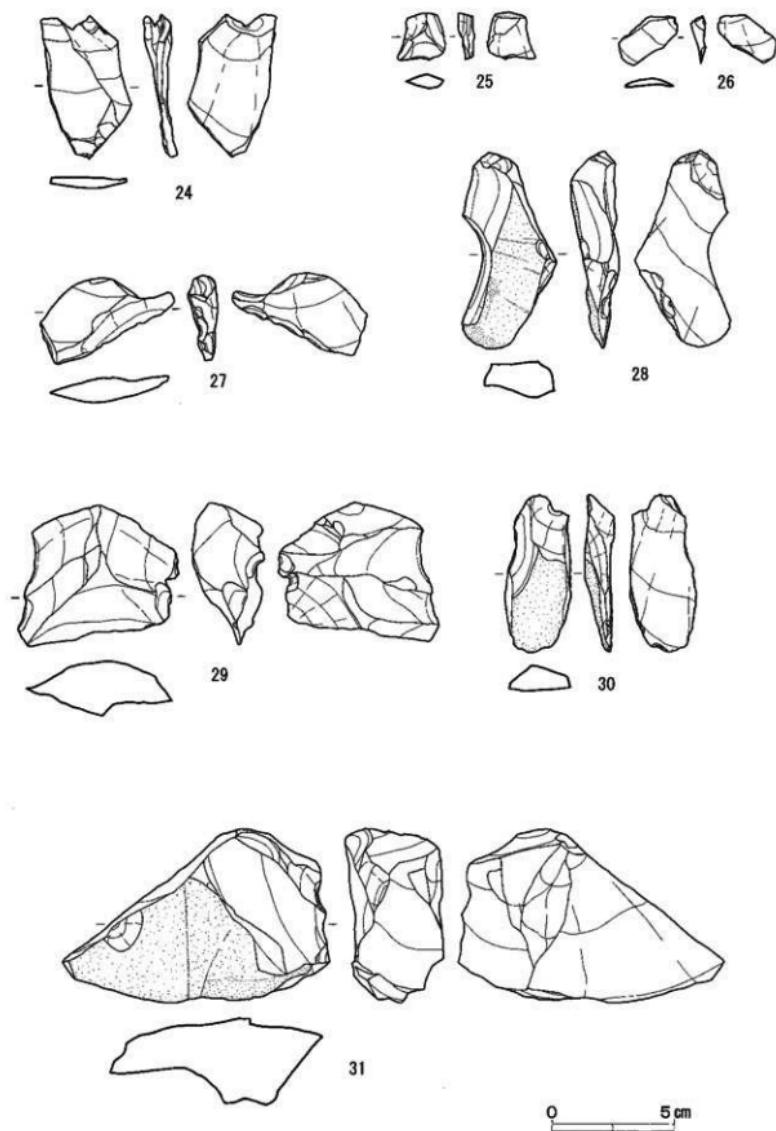
第18図 接合資料 1 実測図 (2)



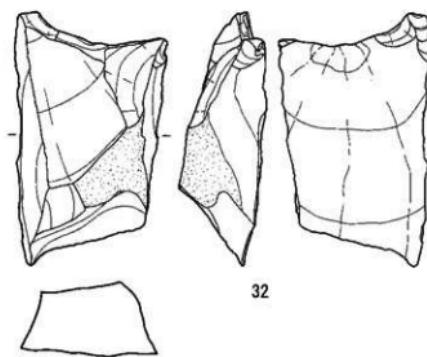
第19図 接合資料 1 実測図 (3)



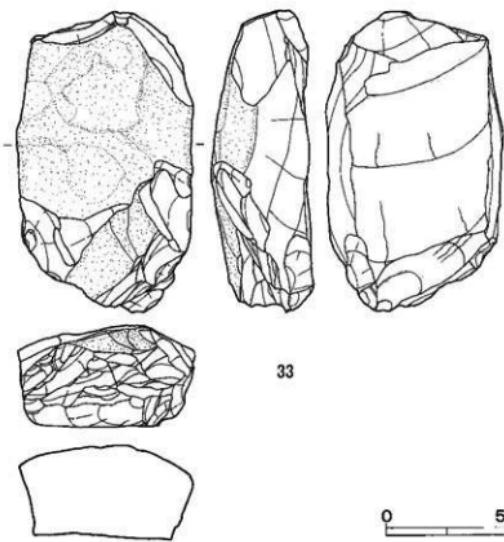
第20図 接合資料2実測図(1)



第21図 接合資料2実測図(2)



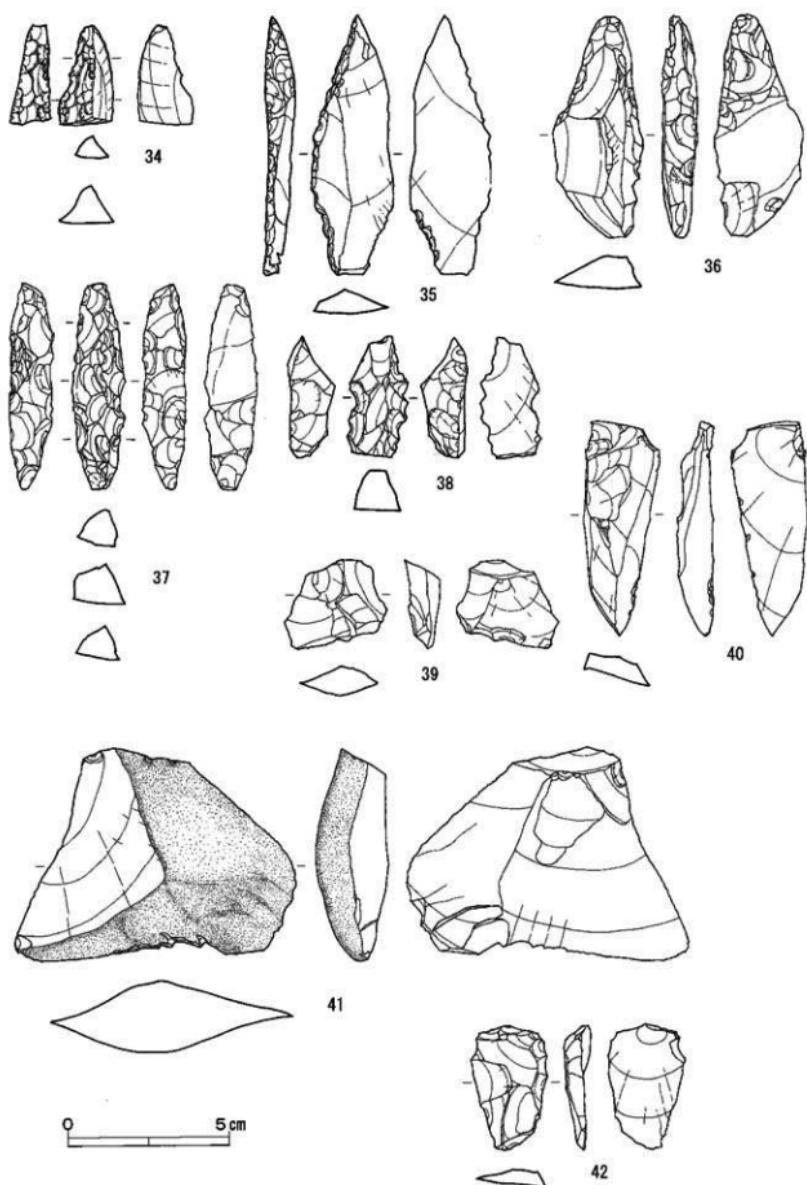
32



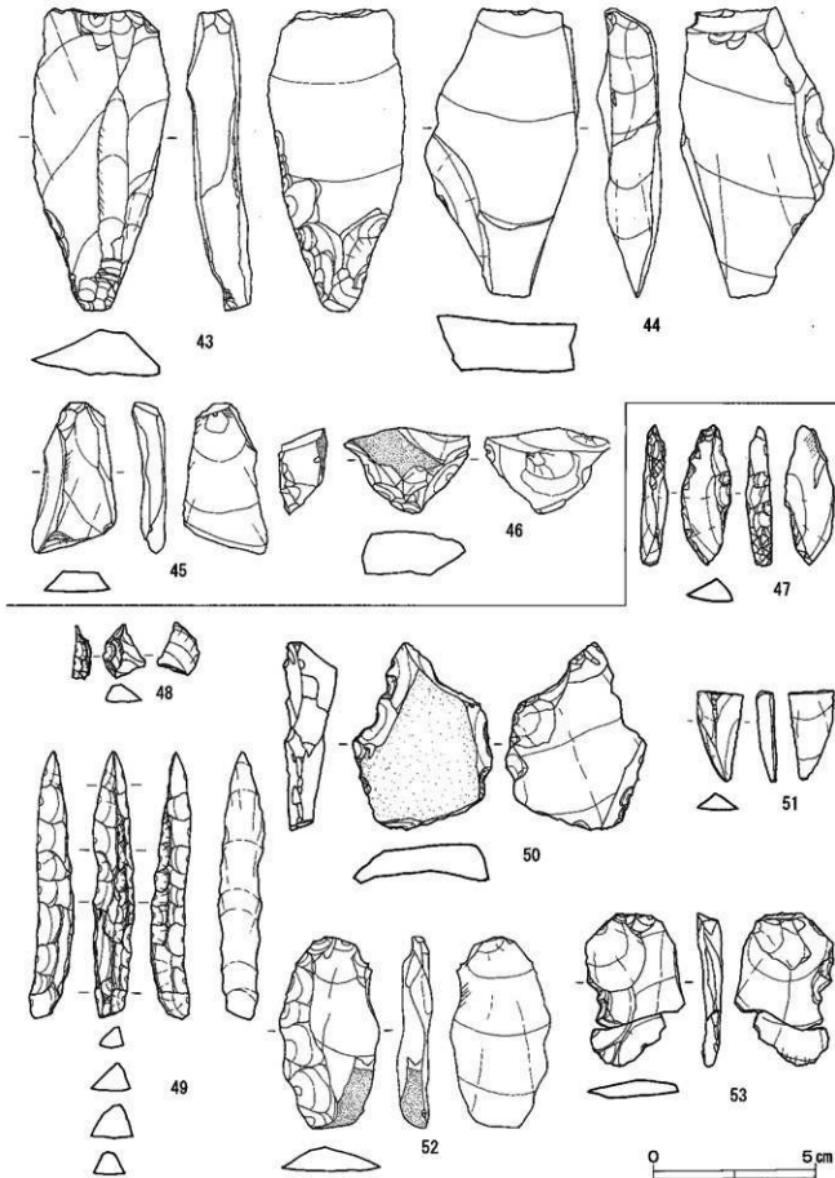
33

0 5 cm

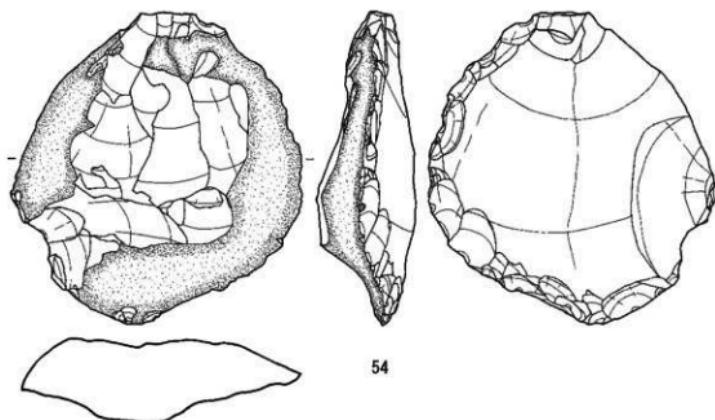
第22図 接合資料2実測図(3)



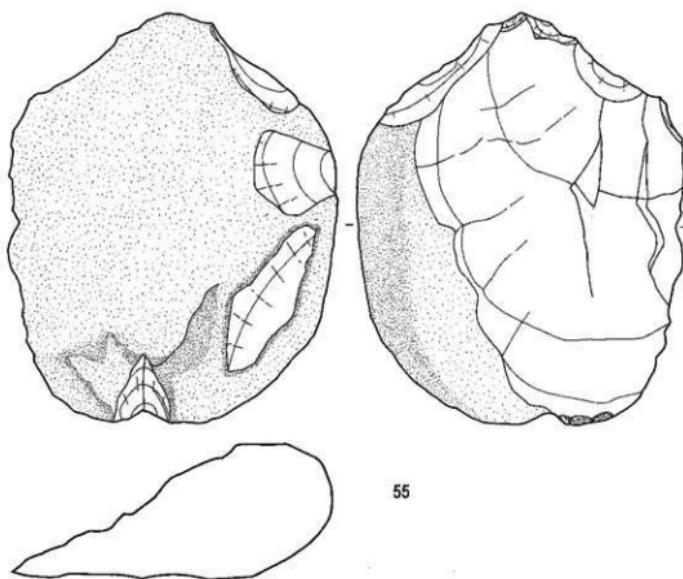
第23図 旧石器時代石器実測図（1）



第24図 旧石器時代石器実測図（2）



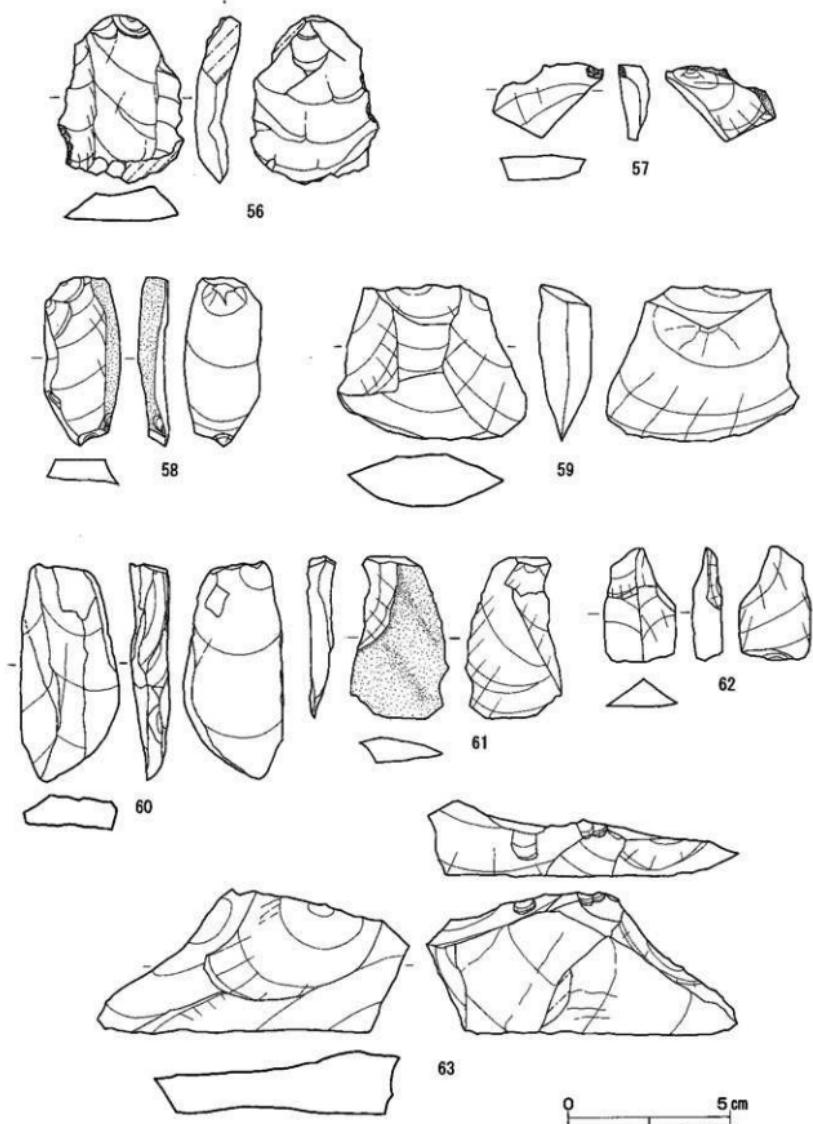
54



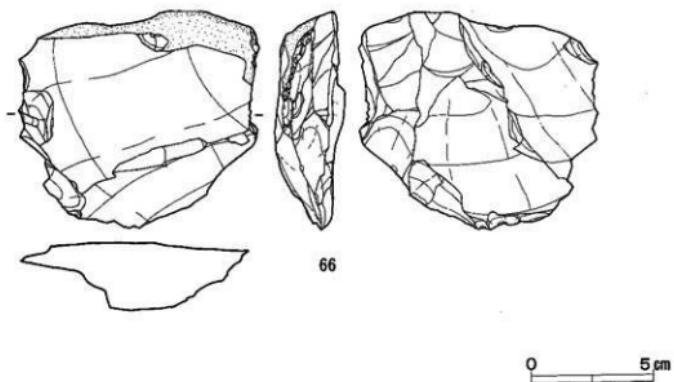
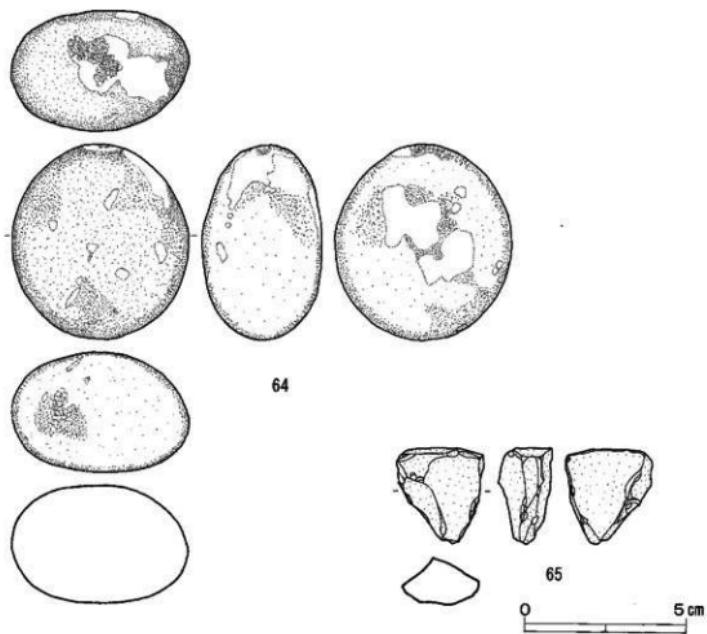
55

0 5 cm

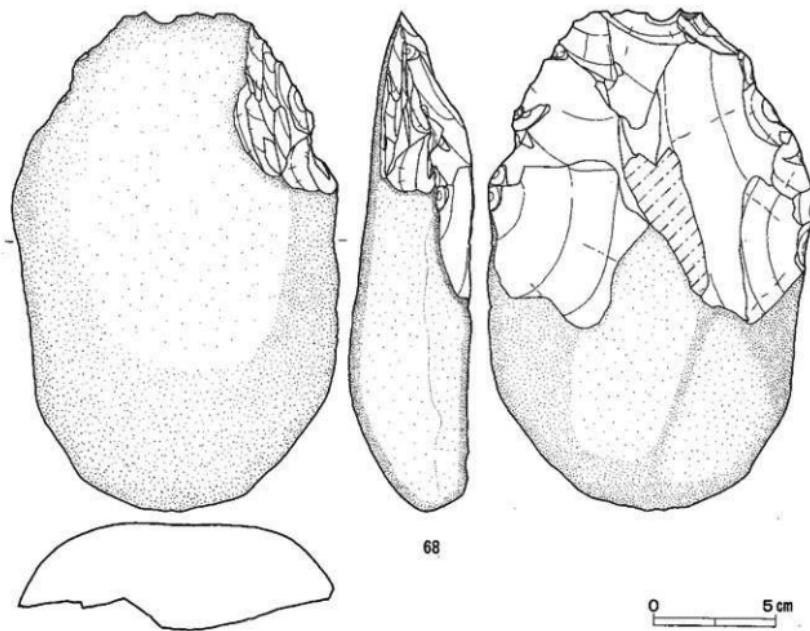
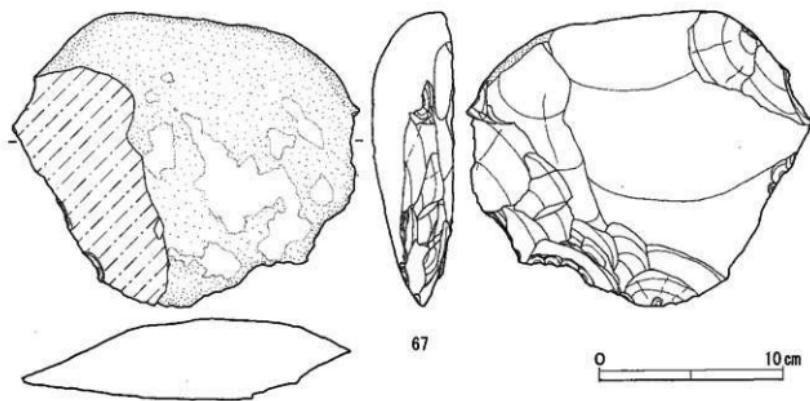
第25図 旧石器時代石器実測図（3）



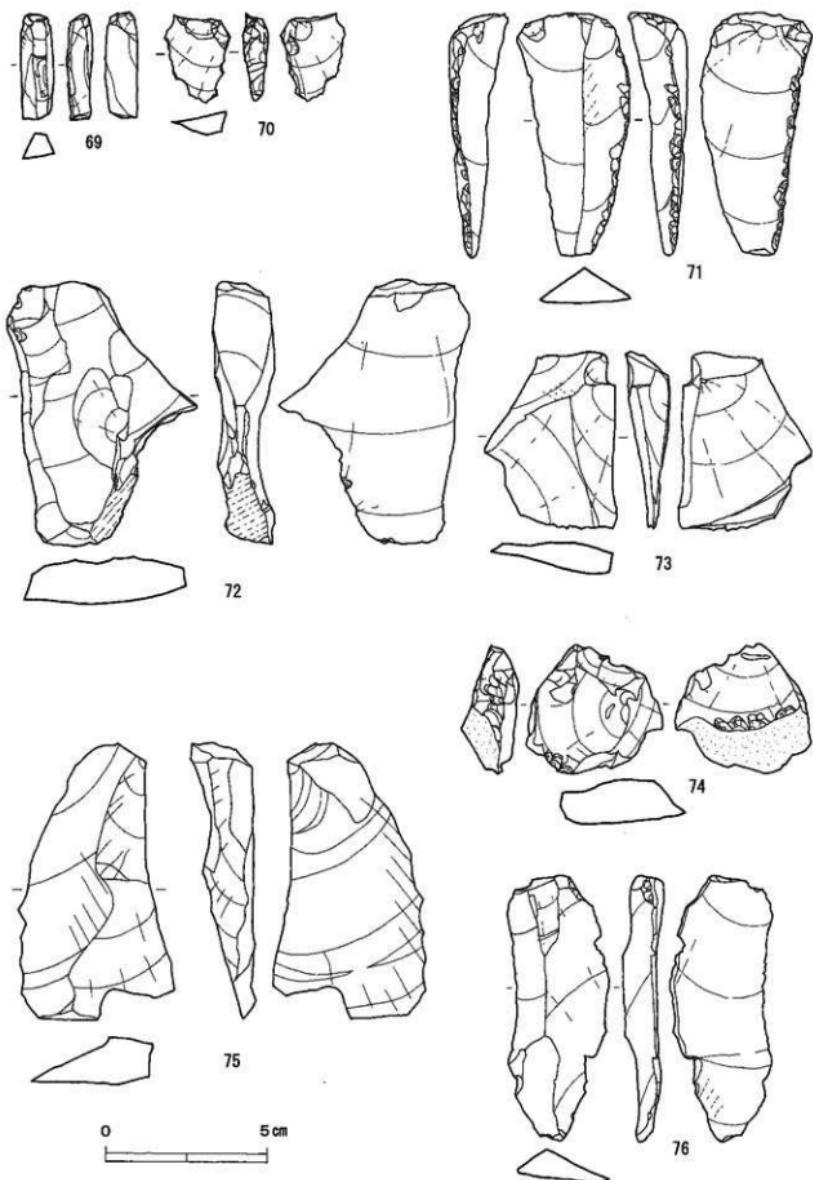
第26図 旧石器時代石器実測図（4）



第27図 旧石器時代石器実測図（5）



第28図 旧石器時代石器実測図（6）



第29図 旧石器時代石器実測図（7）

旧石器時代接合資料

番号	目記番号	出土位置	層	種類	状況	材質	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	文部省	V面標	レベル
1	219	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	3.38	2.36	0.90	3.0	→E22b.425	4509.078	E1.193
1	220	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	2.89	2.31	0.60	4.5	→E22b.565	4491.945	E1.470
2	297	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	1.89	3.00	0.40	—	→E22b.489	4487.481	E1.468
2	298	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	4.49	5.20	1.00	25.7	→E22b.275	4494.052	E1.479
5	202	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	2.10	2.70	0.60	3.5	→E22b.743	4497.057	E1.371
... ...	200	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	1.89	3.20	0.60	2.4	→E22b.524	4497.772	E1.497
6	293	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	6.13	5.60	1.90	28.0	→E22b.639	4491.539	E1.056
7	333	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	6.00	3.40	0.40	10.4	→E22b.640	4494.598	E1.480
8	294	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	3.00	4.90	1.80	16.0	→E22b.684	4497.138	E1.513
8	341	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	4.50	4.80	1.45	20.3	→E22b.694	4494.433	E1.494
10	360	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	7.79	5.20	1.70	54.0	→E22b.761	4494.916	E1.452
11	392	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	5.00	4.90	1.80	42.1	→E22b.422	4494.736	E1.486
11	360	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	3.20	2.60	0.80	7.0	→E22b.203	4493.026	E1.794
12	316	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	5.70	5.40	1.00	15.2	→E22b.398	4494.077	E1.819
12	321	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	3.89	3.25	0.80	8.8	→E22b.278	4494.751	E1.896
14	515	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	1.85	3.40	0.70	2.0	→E22b.118	4493.256	E1.886
15	328	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	1.58	2.65	0.30	1.2	→E22b.342	4494.760	E1.831
16	299	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	8.30	6.80	1.60	266.0	→E22b.362	4497.756	E1.866
16	305	E12b(5)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	4.40	5.50	2.20	25.1	→E22b.865	4494.782	E1.796
17	305	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	5.20	2.90	1.30	13.2	→E22b.264	4493.676	E1.871
18	329	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	4.82	2.40	0.90	9.7	→E22b.293	4494.145	E1.847
19	277	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	5.80	2.25	0.90	8.9	→E22b.195	4494.602	E1.860
20	365	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	3.90	3.50	0.70	4.2	→E22b.948	4493.178	E1.898
21	305	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	2.40	4.60	1.15	8.8	→E22b.730	4494.003	E1.908
22	327	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	5.30	6.65	1.70	44.5	→E22b.324	4494.286	E1.859
24	374	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	8.70	9.30	6.40	434.7	→E22b.822	4497.094	E1.825
25	367	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	5.90	3.70	1.30	12.1	→E22b.867	4493.239	E1.892
25	367	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	2.69	2.40	0.60	1.4	→E22b.233	4494.696	E1.868
26	366	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	5.75	6.60	2.80	88.5	→E22b.120	4493.301	E1.816
27	338	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	9.00	3.95	2.00	45.8	→E22b.363	4493.641	E1.859
27	347	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	3.50	3.60	1.25	14.3	→E22b.722	4494.074	E1.823
29	364	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	1.95	2.90	0.70	2.5	→E22b.719	4493.918	E1.917
30	348	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	6.43	2.75	1.25	18.4	→E22b.183	4494.956	E1.858
31	363	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	7.15	11.00	4.10	368.2	→E22b.183	4494.134	E1.763
32	322	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	10.35	6.20	3.60	311.4	→E22b.943	4497.778	E1.868
33	377	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	結合部付	ホルンブローラス	12.30	7.30	4.20	269.8	→E22b.939	4497.293	E1.821

旧石器時代接合資料

番号	目記番号	出土位置	層	種類	状況	G 材	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	文部省	V面標	レベル
34	59	D6x	Vb	ナイフ形石器	ホルンブローラス	3.10	1.70	1.10	4.8	→E22b.860	4487.308	S1.191	
35	229	H45	Vb	ナイフ形石器	ホルンブローラス	8.00	3.60	1.10	13.6	→E22b.854	4491.915	S1.006	
36	281	I19x	Vb	ナイフ形石器	実質	6.90	2.80	1.10	1.7	→E22b.745	4493.401	S1.093	
37	388	G7x	Vb	角擦り石器	実質	6.45	1.70	1.40	14.0	→E22b.893	4499.807	S1.019	
38	270	L18x	Vb	角擦り石器	実質	3.80	1.90	1.00	9.3	→E22b.968	4495.122	S1.061	
39	281	J7x	Vb	断片	ナイフ形石器	ホルンブローラス	5.75	6.60	2.80	88.5	→E22b.120	4498.805	S1.040
40	276	J10x	Vb	断片	二次加工工具	ホルンブローラス	6.80	2.30	1.20	11.8	→E22b.613	4487.876	S1.158
41	380	G7x	Vb	断片	ナイフ形石器	ホルンブローラス	6.20	6.60	2.20	92.0	→E22b.168	4496.001	S1.003
42	360	F6x	Vb	断片	二次加工工具	ホルンブローラス	3.80	2.40	0.80	6.5	→E22b.608	4486.676	S1.035
43	379	M13x	Vb	断片	二次加工工具	ホルンブローラス	9.20	4.20	1.80	67.0	→E22b.527	4494.264	S1.170
44	359	G7x	Vb	断片	實質	8.78	4.70	1.00	81.7	→E22b.612	4497.190	S1.114	
44	238	H44	Vb	断片	實質	4.70	2.60	1.10	10.0	→E22b.525	4492.523	S1.179	
46	397	V	Vb	断片	實質	1.80	3.90	1.00	11.3	→E22b.712	4499.764	S1.421	
47	382	T6x	Vb	ナイフ形石器	實質	4.35	1.90	0.90	4.4	→E22b.939	4497.013	S1.012	
48	42	R4x	Vb	ナイフ形石器	實質	1.70	1.40	1.70	1.0	→E22b.445	4988.548	S1.253	
49	118	E2x	Vb	骨擦り石器	ホルンブローラス	8.00	1.30	1.30	13.1	→E22b.881	4494.161	S1.114	
50	274	M13x	Vb	断片	一次加工工具	ホルンブローラス	5.80	4.30	1.65	26.5	→E22b.654	4496.792	S1.201
51	392	L11x	Vb	断片	實質	2.75	1.40	0.65	1.8	→E22b.700	4495.276	S1.180	
52	279	I10x	Vb	断片	二次加工工具	實質	6.90	3.10	1.10	17.0	→E22b.700	4497.625	S1.239
53	283	K9x	Vb	断片	二次加工工具	實質	4.70	2.00	0.75	8.7	→E22b.569	4491.787	S1.208
53	373	E12b(4)ヨコブロク1	Vb	断片	實質	3.80	2.70	0.60	7.1	→E22b.255	4499.611	S1.123	
54	275	M13x	Vb	ナイフ形石器	ホルンブローラス	12.80	11.90	4.00	523.3	→E22b.140	4495.046	S1.491	
55	51	H3x	Vb	石器	ホルンブローラス	12.60	10.00	4.40	494.0	→E22b.944	4498.595	S1.256	
56	26	G4x	Vb	断片	骨擦り石器	6.10	3.90	1.20	21.9	→E22b.540	4493.769	S1.294	
57	40	E6x	Vb	断片	骨擦り石器	2.30	2.40	0.90	2.9	→E22b.617	4492.111	S1.195	
58	62	D2x	Vb	断片	骨擦り石器	5.20	2.30	0.80	13.5	→E22b.963	4491.917	S1.422	
59	117	E3d	Vb	断片	ホルンブローラス	4.80	5.90	1.00	46.8	→E22b.534	4498.561	S1.110	
60	281	J30x	Vb	断片	ホルンブローラス	6.90	3.10	1.30	26.8	→E22b.115	4493.452	S1.200	
61	44	C6x	Vb	断片	ホルンブローラス	3.90	2.00	0.90	10.0	→E22b.411	4495.870	S1.494	
62	41	E6a	Vb	断片	ホルンブローラス	3.80	2.20	1.00	6.2	→E22b.476	4495.841	S1.401	
63	49	B5x	Vb	断片	ホルンブローラス	6.00	9.40	2.20	70.7	→E22b.707	4492.599	S1.385	
64	128	V9x	Vb	断片	刃物	6.90	5.50	3.70	139.7	→E22b.847	4497.995	S1.029	
65	278	T10x	Vb	断片	刃物	3.00	2.70	1.85	12.0	→E22b.191	4493.048	S1.246	
66	132	V11c	Vb	断片	ナイフ形石器	8.90	9.80	2.00	244.6	→E22b.543	4497.228	S1.104	
67	246	I2c	Vb	断片	刃物	16.00	18.90	4.00	1300.0	→E22b.732	4493.477	S1.325	
68	247	I2c	Vb	断片	刃物	25.50	22.40	5.50	1500.0	→E22b.035	4493.794	S1.307	
69	131	A10x	Vb	断片	刃物	3.20	1.10	0.85	3.2	→E22b.033	1997.720	S1.494	
70	167	210x	Vb	断片	刃物	2.00	1.00	0.70	2.5	→E22b.142	4497.554	S1.280	
71	336	K11x	Vb	断片	刮削剝離痕	7.65	3.40	1.90	28.0	→E22b.292	4495.795	S1.169	
72	269	K11x	Vb	断片	刃物	8.10	5.63	1.85	72.0	→E22b.343	4495.197	S1.261	
73	220	L11x	Vb	断片	刃物	5.50	4.10	1.40	26.0	→E22b.354	4493.954	S1.261	
74	123	L7x	Vb	断片	刃物	4.80	4.20	1.60	22.9	→E22b.273	4493.975	S1.251	
75	28	D4x	Vb	断片	刮削剝離痕	5.50	4.90	2.00	51.2	→E22b.506	4493.988	S1.187	

第3表 旧石器時代石器観察表

番号	登記番号	出土位置	層	基壇	状況	心材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	文様	V角度	レベル
271		L8b	V1	鋸片		黄木	3.00	2.10	0.90	5.0	-9524.452	4496.366	B2.977
43		C6a	V1	鋸片	ホルンフェルス	4.60	3.90	1.00	15.8	-9526.046	4493.499	B2.327	
45		C6a	V1	砂利		黒曜石	1.20	0.30	0.90	1.0	-9526.498	4493.520	B2.313
159		S9d	V1	鋸片		黒曜石	1.90	1.10	0.90	1.2	-9525.152	4497.314	B2.077
127		S9d	V1	鋸片		黒曜石	2.20	1.00	1.00	5.1	-9525.616	4497.005	B2.549
121		H1ic	V1	鋸片		黒曜石	1.40	1.30	0.90	4.7	-9525.476	4497.139	B2.428
183		K9d	V1	鋸片		山形石	0.80	0.60	0.30	0.1	-9524.020	4497.217	B2.540
184		K9d	V1	砂利		山形石	0.90	0.40	0.30	0.1	-9526.813	4497.200	B2.194
165		N9d	V1	鋸片		空洞石	1.00	1.60	0.50	0.9	-9526.555	4497.302	B2.391
162		N9d	V1	砂利		空洞石	2.20	1.90	0.90	5.0	-9526.953	4497.391	B2.608
170		S11d	V1	鋸片		空洞石	6.20	3.30	0.60	13.1	-9526.027	4497.977	B2.519
268		F10w	V1	鋸片		黒曜石	2.30	1.60	0.60	2.1	-9521.827	4497.446	B2.584
269		F10w	V1	鋸片		黒曜石	1.80	1.00	0.40	0.6	-9526.708	4497.020	B2.666
250		H10w	V1	鋸片		黒曜石	1.10	0.40	0.16	0.1	-9524.887	4497.039	B2.630
254		H11a	V1	鋸片		黄木	5.00	2.30	0.90	11.1	-9521.921	4496.493	B2.666
255		H11a	V1	鋸片		黄木	5.20	2.30	1.00	12.0	-9521.634	4496.348	B2.523
265		I19a	V1	鋸片		黄木	2.90	1.30	0.70	3.3	-9526.230	4493.791	S3.175
272		P7d	V1	鋸片		貝肉	2.10	2.80	1.00	1.2	-9526.566	4497.891	B2.590
273		P7d	V1	鋸片		貝肉	2.00	1.10	0.70	2.0	-9527.259	4497.591	B2.496
288		K9d	V1	鋸片		貝肉	1.10	0.60	0.20	0.8	-9526.516	4496.782	B2.517
284		G9d	V1	鋸片		貝肉	2.00	1.00	0.40	1.0	-9526.222	4496.559	S3.239
285		E9d	V1	鋸片		貝肉	1.50	1.20	0.90	0.7	-9526.660	4496.637	B2.310
286		K9d	V1	鋸片		貝肉	2.20	1.60	0.90	1.4	-9526.990	4496.211	S3.242
287		K9d	V1	鋸片		貝肉	3.80	2.70	0.90	5.3	-9526.799	4493.331	B2.231
288		E9d	V1	鋸片		貝肉	2.40	1.20	0.60	2.2	-9526.348	4493.270	S3.214
307	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	1.60	0.80	0.10	0.7	-9526.861	4497.835	B2.961	
343	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	3.20	1.90	0.30	2.1	-9526.647	4498.230	S2.923	
345	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	1.50	1.10	0.20	0.7	-9526.420	4498.267	S2.897	
349	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	3.30	1.90	0.90	12.4	-9526.275	4498.068	S2.873	
354	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	3.40	2.10	0.90	2.3	-9526.222	4498.170	B2.836	
359	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	2.10	1.60	0.30	2.1	-9526.128	4498.184	B2.827	
360	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	2.30	2.20	0.30	1.4	-9526.376	4498.474	B2.865	
361	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	1.80	0.90	0.10	0.6	-9526.291	4498.091	S2.859	
362	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	1.30	0.70	0.10	0.4	-9526.366	4498.560	B2.843	
364	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	2.30	1.90	0.30	2.2	-9526.366	4498.826	B2.895	
372	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	3.00	2.80	0.40	4.3	-9526.108	4493.825	S2.894	
375	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	5.40	4.40	1.00	36.1	-9526.074	4498.075	S2.781	
376	A12b(心型プロック)	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	2.60	2.50	0.70	6.0	-9526.215	4498.047	B2.791	
378	X10c	V1	b	鋸片	ホルンフェルス	3.00	2.20	0.60	3.4	-9526.978	4497.824	S2.827	
381	L8b	V1	b1	鋸片	黒曜石	1.40	1.90	0.70	1.3	-9526.698	4496.507	B2.112	
383	W10g	V1	b1	鋸片	黒曜石	3.85	2.30	1.20	6.1	-9527.166	4495.973	B2.754	
384	G7c	V1	b1	鋸片	黒曜石	4.10	1.70	1.30	6.9	-9527.952	4495.154	B2.795	
385	G7c	V1	b1	鋸片	ホルンフェルス	4.00	2.90	1.50	13.4	-9526.928	4495.091	B2.854	
386	G7c	V1	b1	鋸片	黒曜石	1.90	2.30	0.30	1.9	-9527.346	4498.027	B2.812	

第4表 旧石器時代石器観察表

地點名	出土地	工具種	工具形	心材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	文化圏	尤形	地圖	備考(合併)	
26	ホルンフェルス	V1	9520.709	16966.472	95.201	13.70	3.20	220.0	B	c	R		
27	砂利	V1	9510.908	16966.945	82.213	9.40	8.30	53.0	B	b	R		
28	ホルンフェルス	V1	9520.356	16982.136	82.536	7.20	5.30	120.0	B	b	R		
39	尾山山腹性	V1	9520.554	16961.250	25.523	7.00	4.00	42.0	A	a	R		
45	尾山山腹性	V1	9520.499	16963.310	92.395	10.80	8.00	368.0	B	b	R		
46	砂利	V1	9520.781	16962.077	82.454	13.20	6.10	330.0	B	c	R		
47	砂利	V1	9520.728	16962.226	82.416	11.70	9.00	490.0	B	c	R		
52	尾山山腹性	V1	9520.477	16972.071	82.119	6.70	6.40	410.0	B	b	R		
53	ホルンフェルス	V1	9520.619	16980.918	81.257	3.30	2.00	8.0	C	b	R		
54	砂利	V1	9520.351	16959.954	81.261	6.10	1.90	22.0	B	a	R		
55	砂利	V1	9520.172	16959.652	82.185	7.90	6.70	294.0	C	b	R		
98	尾山山腹性	V1	9520.734	16982.049	82.129	6.70	5.00	266.0	R	b	R		
67	ホルンフェルス	V1	9520.248	16964.168	82.221	2.30	4.70	26.0	B	a	R		
82	ホルンフェルス	V1	9520.815	16976.512	82.630	8.00	5.30	280.0	A	c	R		
60	ホルンフェルス	V1	9520.122	16973.207	82.118	8.80	5.90	182.0	C	b	R		
61	ホルンフェルス	V1	9520.345	16974.202	82.086	2.50	0.70	3.0	C	b	R		
119	尾山山腹性	V1	9520.130	16980.225	82.460	3.80	4.10	2.90	B	b	R		
29	ホルンフェルス	V1	9520.218	16978.874	82.626	7.20	5.80	57.4	C	b	R		
130	砂利	V1	9520.675	16962.038	82.160	9.50	3.30	220.0	A	c	R		
155	ホルンフェルス	V1	9520.675	16965.587	82.100	7.90	5.50	93.3	B	b	R		
156	ホルンフェルス	V1	9520.474	16965.523	82.115	7.80	5.50	68.0	B	a	R		
165	尾山山腹性	V1	9520.642	16951.960	82.361	6.70	4.30	194.4	C	b	R		
179	尾山山腹性	V1	9520.696	16971.959	82.997	11.00	5.50	190.1	A	a	R		
180	尾山山腹性	V1	9520.919	16972.028	83.000	5.30	3.80	10.0	C	b	R		
246	ホルンフェルス	V1	9521.402	16967.784	82.131	7.70	1.90	24.1	B	w	R		
241	ホルンフェルス	V1	9520.918	16998.563	82.179	7.00	6.00	21.0	190.0	A	c	R	
242	ホルンフェルス	V1	9520.496	16965.352	82.761	5.00	2.00	8.8	C	b	R		
243	ホルンフェルス	V1	9520.457	16965.145	82.715	7.20	3.50	28.5	C	b	R		
244	砂利	V1	9520.598	16957.811	82.427	9.00	4.00	1.20	182.2	B	b	R	
245	ホルンフェルス	V1	9520.195	16907.195	82.648	11.00	8.00	2.70	348.0	B	c	R	
251	真珠	V1	9524.511	16964.775	82.771	7.70	5.00	1.50	70.4	A	b	R	
252	ホルンフェルス	V1	9524.642	16964.769	82.785	8.00	4.80	1.70	70.5	C	b	R	
267	尾山山腹性	V1	9523.281	16999.380	83.323	4.60	2.40	0.40	6.2	A	a	R	
258	ホルンフェルス	V1	9523.439	16983.470	82.952	6.80	5.00	0.80	23.1	B	b	R	
259	ホルンフェルス	V1	9523.384	16953.241	83.065	7.00	4.00	1.70	23.0	B	c	R	

第5表 旧石器時代砾観察表

採取上位番号	石種	出土場所	X座標	Y座標	レーベル	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	赤化度	完形度	種形	備考(細分)
255	灰岩	Vb	-9631.814	44974.428	R2.528	6.50	5.00	3.10	105.0	0	C	b	
256	ホルンフェルス	Va	-9626.445	44951.154	R3.363	6.50	2.50	1.70	28.1	0	C	b	
257	ホルンフェルス	Va	-9620.397	44932.997	R3.291	5.20	2.20	1.40	26.0	0	C	b	
258	ホルンフェルス	Va	-9620.726	44904.726	R2.811	10.30	4.50	1.60	87.0	0	B	b	
259	砂岩	Va	-9624.414	44974.696	R2.924	12.40	7.00	4.90	426.0	0	C	b	
277	ホルンフェルス	Va	-9614.914	44932.352	R3.411	6.50	5.50	4.00	243.3	0	A	c	
280	ホルンフェルス	Vb	-9623.650	44936.917	R2.992	7.00	5.50	4.00	91.1	1	C	b	
289	セラミック	Vb	-9628.134	44913.812	R3.277	1.00	0.90	0.30	0.5	0	B	b	
290	砂岩	Vb	-9627.784	44921.108	R3.183	2.50	1.50	0.50	2.0	1	N	b	
297	ホルンフェルス	Vb	-9622.935	44947.493	R2.968	3.00	1.20	0.40	2.4	1	A	c	
305	ホルンフェルス	Vb	-9626.533	44947.772	R2.987	3.10	1.40	0.50	4.3	0	B	b	
303	ホルンフェルス	Vb	-9622.743	44947.857	R2.871	2.40	2.00	0.60	5.0	1	B	b	
318	ホルンフェルス	Vb	-9622.274	44948.052	R2.979	5.50	4.00	1.50	26.2	0	B	b	
219	ホルンフェルス	Vb	-9622.425	44948.078	R2.963	3.20	2.30	0.90	9.0	0	B	c	
310	ホルンフェルス	Vb	-9622.153	44917.999	R2.970	2.80	2.10	0.50	4.4	0	B	b	
321	ホルンフェルス	Vb	-9622.893	44951.797	R2.950	11.00	5.80	2.50	478.2	1	C	c	
337	ホルンフェルス	Vb	-9622.744	44948.996	R2.981	1.70	1.20	0.30	2.0	0	N	b	
340	ホルンフェルス	Vb	-9622.862	44949.423	R2.959	5.50	2.50	1.30	18.0	1	C	b	
356	ホルンフェルス	Vb	-9622.965	44949.294	R2.971	6.00	4.00	1.60	28.0	0	B	b	
298	ホルンフェルス	Vb	-9622.132	44917.433	R2.989	5.50	4.00	1.20	24.3	0	B	c	
301	ホルンフェルス	Vb	-9622.416	44917.997	R2.963	0.80	0.70	0.10	0.2	0	C	b	
302	ホルンフェルス	Vb	-9622.851	44947.783	R2.968	1.30	0.70	0.20	0.8	0	B	b	
304	ホルンフェルス	Vb	-9622.698	44917.963	R2.974	2.70	1.80	1.20	4.1	0	A	c	
308	ホルンフェルス	Vb	-9622.942	44947.897	R2.965	3.20	1.80	0.60	3.1	0	C	b	
309	ホルンフェルス	Vb	-9622.912	44947.994	R2.962	1.80	1.50	0.40	6.3	0	B	b	
210	ホルンフェルス	Vb	-9622.971	44948.055	R2.988	2.20	1.00	0.20	0.9	0	B	c	
311	ホルンフェルス	Vb	-9622.070	44916.158	R2.959	6.20	3.80	1.40	48.0	0	C	b	
312	ホルンフェルス	Vb	-9622.013	44948.238	R2.974	2.30	0.90	0.60	2.2	0	C	a	
314	ホルンフェルス	Vb	-9622.137	44948.217	R2.940	6.50	2.00	1.30	22.0	0	C	b	
315	ホルンフェルス	Vb	-9622.061	44947.997	R2.960	6.50	2.00	1.30	60.3	0	B	b	
318	ホルンフェルス	Vb	-9622.100	44947.910	R2.968	1.10	0.70	0.10	0.6	0	B	b	
317	ホルンフェルス	Vb	-9622.195	44917.923	R2.988	2.00	1.00	0.40	2.3	0	A	a	
320	ホルンフェルス	Vb	-9622.185	44948.402	R2.962	1.80	1.10	0.10	2.6	0	C	b	
322	ホルンフェルス	Vb	-9622.024	44941.467	R2.960	5.50	2.00	1.60	23.1	0	C	b	
325	ホルンフェルス	Vb	-9622.948	44948.948	R2.953	3.80	1.50	0.60	16.3	0	B	b	
226	燧石(酸化物)	Vb	-9622.865	44948.977	R2.762	9.00	6.00	3.20	368.0	1	B	b	
328	ホルンフェルス	Vb	-9622.614	44948.955	R2.796	3.70	2.00	0.60	5.1	1	C	b	
342	ホルンフェルス	Vb	-9622.682	44958.869	R2.798	18.00	7.20	4.90	322.6	0	B	a	
245	ホルンフェルス	Vb	-9622.917	44939.217	R2.852	6.00	5.00	1.60	78.4	0	C	b	
351	ホルンフェルス	Vb	-9622.093	44938.909	R2.840	4.50	3.00	1.10	14.2	0	C	b	
352	ホルンフェルス	Vb	-9622.995	44938.908	R2.880	1.00	1.10	0.40	0.8	0	A	a	
357	ホルンフェルス	Vb	-9622.832	44949.269	R2.761	14.00	11.50	9.20	300.4	0	C	b	
358	ホルンフェルス	Vb	-9622.909	44949.444	R2.814	1.30	1.20	0.20	0.7	0	B	b	
363	砂岩	Vb	-9622.057	44949.601	R2.770	11.30	6.20	5.20	654.1	0	B	c	
369	ホルンフェルス	Vb	-9622.473	44904.384	R2.923	2.00	1.70	0.30	2.3	0	C	b	
370	ホルンフェルス	Vb	-9622.277	44904.593	R2.949	3.50	1.60	0.40	2.1	0	C	b	
371	ホルンフェルス	Vb	-9622.055	44950.928	R2.963	3.70	1.70	0.50	3.0	0	B	b	
374	ホルンフェルス	Vb	-9622.726	44948.626	R2.888	6.00	5.70	1.80	104.6	0	A	a	

* 赤化度 3 碑表面の 80%以上の赤化
 赤化度 2 碑表面の 40%以上 80%未満の赤化
 赤化度 1 碑表面の 40%未満の赤化
 赤化度 0 碑表面が全く赤化していない

完形度 A 碑形の 90%以上を保っている

種形 a 碑の形が円状

完形度 B 碑形の 40%以上 90%未満を保っている

種形 b 碑が破砕している

完形度 C 碑形の 40%未満を保っている

種形 c 碑の形が角状

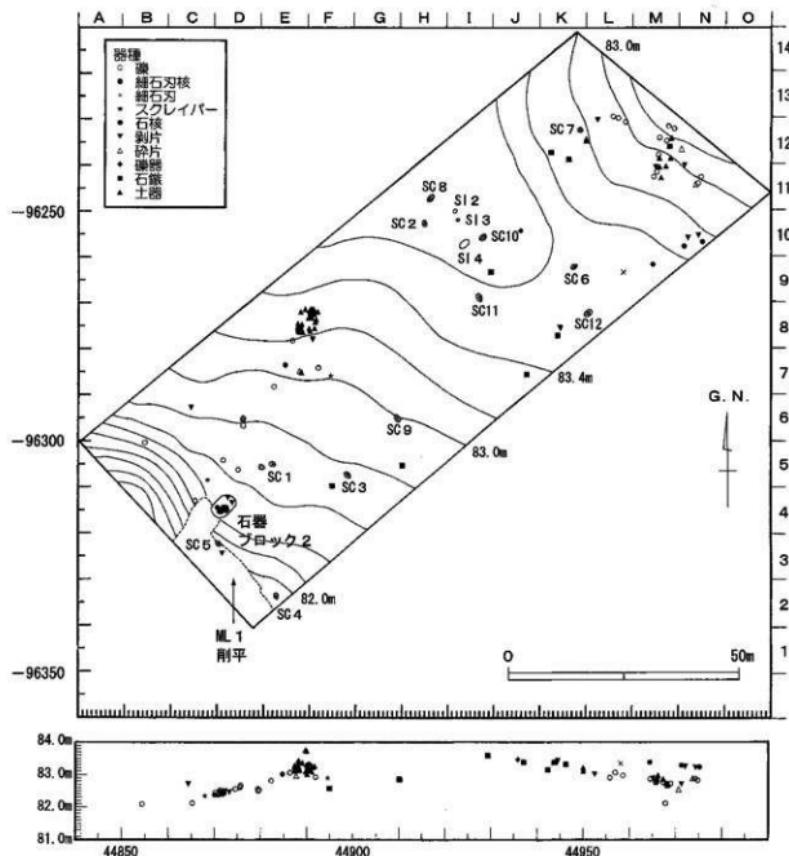
第6表 旧石器時代礫觀察表

第4節 繩文時代早期の遺構と遺物

1 繩文時代早期の遺構

繩文時代早期の遺構は、ML 1（第IV層 暗褐色ローム）より集石遺構3基（S I 2、S I 3、S I 4）、石器ブロック1基が検出された。一方、V b 層（褐色ローム Kr-Kb）の中位で、土坑12基（S C 1～S C 12）を検出した。これは、埋土と地山の境が不

明瞭であったために、遺構検出レベルを下げた結果である。本来は、検出面がKr-Kbなので、旧石器時代の土坑となるべきであるが、（S C 3～S C 12）は形状や埋土の状況等から縄文時代早期に所属する陥し穴と考えられる。詳細については、後述する。



第30図 繩文時代早期遺構・遺物分布図

集石遺構 (S I 2 ~ S I 4) (第31~第32図)

丘陵の最も高いI-10グリッドで、表土除去後、ML 1 (第IV層 暗褐色ローム) の下位で、集石遺構3基 (S I 2 ~ S I 4) を検出した。S I 2、S I 3の2基が隣接し、その南西2mにS I 4が位置していた。3基とも上面からの削平を受けており、特にS I 2、S I 3は、下部付近がわずかに遺存している状態であった。

S I 2 (第31図)

S I 2は長径1m、短径0.5mの範囲に7個の礫 (赤化礫はない) がほぼ水平に集積され、掘りこみや炭化物は確認できなかった。どの礫も比較的大型 (長径0.14m~0.25m、短径0.11m~0.17m) で、南側の4個の礫は、直線にならぶ配置がなされていた。石材組成は、尾鈴山酸性岩4点、ホルンフェルス2点、砂岩1点であった。

S I 3 (第32図)

S I 3は長径0.6m、短径0.4mの範囲に9個の破砕礫 (赤化礫はない) で構成され、掘りこみは確認できなかった。S I 2に比べると礫は小型 (長径5cm~10cm、短径3cm~8cm) で、形はやや不正形を

なす。石材組成は、尾鈴山酸性岩8点、ホルンフェルス1点であった。

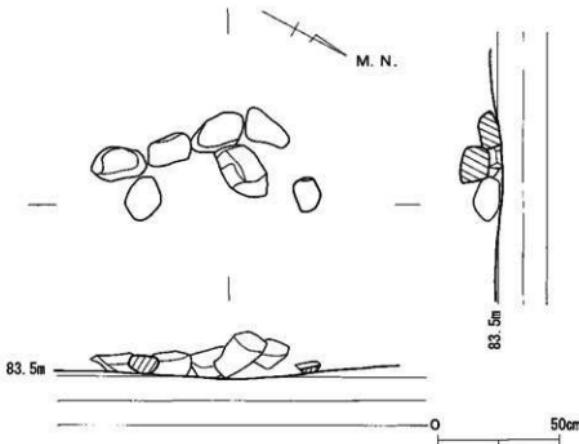
S I 4 (32図)

S I 4は、ML 1 (第IV層 暗褐色ローム) 中位から出土した小礫 (径1cm~2cm) を取り除いた後のML 1 下位で検出した。長径0.6m、短径0.4mの範囲に拳大の礫139個で構成される。プラン、掘りこみはほとんど確認できず、構成される礫は散在を呈する。石材組成は、S I 2と同様で尾鈴山酸性岩28点、ホルンフェルス49点、砂岩62点であった。赤化している礫は、約半数を占めていた。

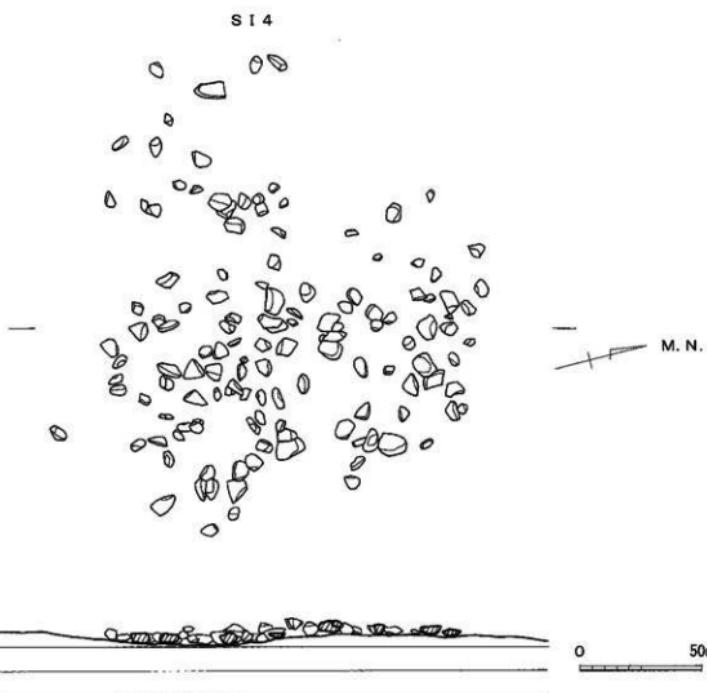
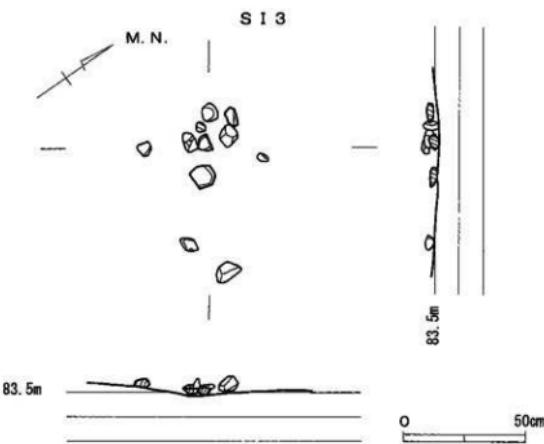
石器ブロック2 (第33図)

調査区D-4グリッド付近に位置する。長径3.3m、短径3m程のやや広い範囲に石器16点が出土する。石器組成は、石核4点、スクレーパー2点、剥片10点である。石材は全てホルンフェルスである。石器ブロック内における接合資料は2例 (接合資料3、接合資料4) 見られ、接合数は接合資料3が7点、接合資料4が4点である。その大半が剥片で、石核、剥片の折れ面同士が接合するのみである。

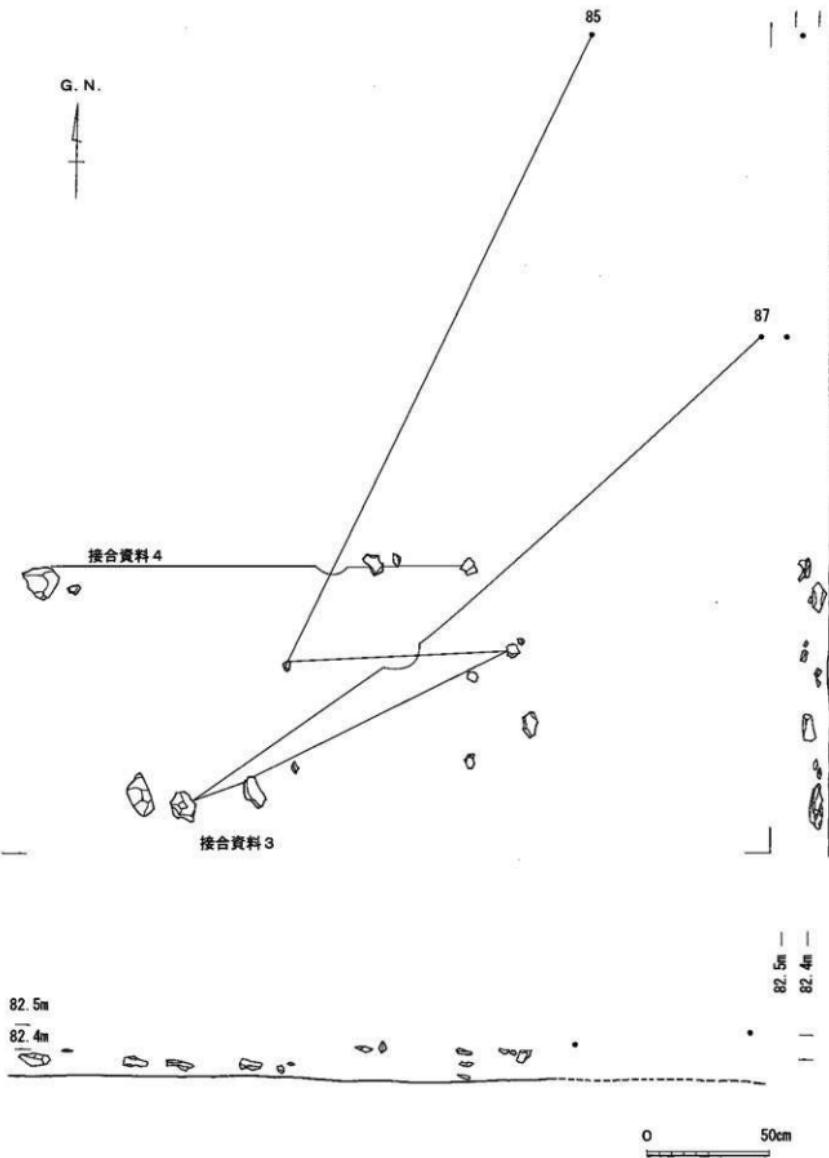
S I 2



第31図 S I 2 実測図



第32図 S I 3・4実測図



第33図 石器ブロック 2 実測図

S C 1～S C 12 (第36図～第41図)

12基の土坑が、V a層～V b層で検出されたが、掘り込み面の層位は明確に把握できなかった。これは、調査区内のアカホヤ残存域以外が、IV層上位から中位までの削平がなされていたことや埋土とIV層(暗褐色ローム ML 1)、V a層の地山の境が不明瞭であったためである。そのため、IV層で土坑の検出は困難を極めるものであった。

陥し穴については、東九州自動車道(都農～西都間)における遺跡でも、約40基前後が確認されている(平成15年度現在)。その特徴として、検出状況の平面プランが、長径1m～2mの楕円形であり、中程から床面に向かって掘り込まれる過程でオーバーハングする。埋土は断面の上位から中位にかけてKr-Kb、断面中位から下位にかけてはATなどのブロックが混在している。さらに、埋土下部では有機質の粘性のある黒色土が堆積している'等の特徴がある。

従って本遺跡のS C 3～S C 12については、同様の形状や埋土の状況が見られたことより、縄文時代早期の陥し穴の性格をもつ土坑である可能性が強い。なお、S C 1～S C 2については、遺構の性格は不明である。以下S C 1～S C 12までの特徴について述べる。

S C 1 (第36図)

調査区内の中央から、南西にゆるやかに下るE-5グリッドのV a層を掘り下げ中に検出した。長径0.9m、短径0.56m、残深0.15mを測り、埋土は弱粘性でしまりのあまりない黒褐色土が確認された。暗褐色土の固くしまったブロックを含んでいたが、炭化物、遺物は確認されなかった。

S C 2 (第36図)

調査区内の中央より北に位置する丘陵の最も高いH-10グリッド付近のV a層を掘り下げ中に検出した。長径1.05m、短径0.65m、残深0.17mを測り、埋土はKr-Kbをブロック状に含む粘性のある黒褐色土で、炭化物、遺物は確認されなかった。

S C 3 (第36図)

調査区内の中央より西側のF-5グリッド、V b層を掘り下げる段階で検出した。長径1.9m、短径1.52mの楕円形のプランを呈する。残深は、1.94

mを測り、埋土は17層に分層される。断面は床面から検出面に向かってゆるやかに広がる。炭化物、遺物は確認されなかった。

S C 4 (第37図)

調査区南西部の壁手前E-2グリッドのV b層直上を精査する段階で検出した。長径1.44m、短径1mの楕円形のプランを呈する。残深は、0.75mを測り、埋土は6層に分層される。埋土の植物珪酸体分析を行ったところ、主に基本土層のIV層に対比されることが確認された。また、床面中央では、径0.05m～0.06mのクイ痕と思われる小穴5箇所を確認したが、炭化物、遺物については確認されなかった。

S C 5 (第37図)

調査区の南西部IV層削平箇所のD-3グリッドのV b層直上を精査する段階で検出した。長径1.44m、短径1.12mの楕円形のプランを呈し、南西部にやや張り出す。残深は、0.75mを測り、埋土19層に分層される。S C 4同様、埋土の植物珪酸体分析を行ったところ、主に、基本土層のV a層に対比されることが確認された。断面は、床面から中程に向かって僅かに広がり、ややすばり気味になった後、検出面に向かってゆるやかな逆「へ」字状に開く。炭化物、遺物は確認されなかった。

S C 6 (第38図)

調査区の丘陵部鞍部から東に下るゆるやかな斜面K-6グリッドのV b層直上を精査する段階で検出した。プランは、長径約1.3m、短径約0.9mの楕円形を呈する。残深は、約1.7mを測り、埋土は19層に分層される。長軸断面は、他の陥し穴に比べると上端と下端の径がさほど変わらない。炭化物、遺物は確認されなかった。

S C 7 (第38図)

調査区中央の南側、K-12グリッドのV b層を掘り下げる段階で検出した。長径1.1m、短径0.85mの楕円形のプランを呈し、やや南に張り出す。残深は、1.95mを測り、埋土は12層に分層される。断面は床面から検出面に向かって、ゆるやかに開く。炭化物、遺物は確認されなかった。

S C 8 (第39図)

調査区の丘陵部の標高が最も高いH-11グリッド

のV b層直上で検出した。プランは、長径約1.7m、短径約1.1mの楕円形を呈する。残深は、約2.2mを測り、埋土は18層に分層される。床面から中程までは、断面右側がほぼ真上に立ち上がるが、断面左側はゆるやかに広がる。中程でややすぼまり、さらに中程から検出面に向かって逆「ハの字」状に開く。炭化物、遺物は確認されなかった。

S C 9 (第39図)

調査区中央よりやや南西部のゆるやかに下るG-6グリッドのV b層直上で検出した。プランは、長径約1.8m、短径約1.3mの楕円形を呈する。残深は、約2.1mを測り、埋土は17層に分層される。断面は床面から検出面に向かってゆるやかに広がる。炭化物、遺物は確認されなかった。

S C 10 (第40図)

調査区の丘陵鞍部から南西に向かってゆるやかに傾斜するI-10グリッドのV b層直上で検出した。プランは、長径約1.4m、短径約1mの楕円形を呈する。残深は、約1.9mを測り、埋土は17層に分層される。床面から中程にかけての断面は、左側がほぼ真上に立ち上がるが右側はゆるやかに広がる。中程ではややすぼまり、上位にかけては逆「ハの字」状に開く。炭化物、遺物は確認されなかった。

S C 11 (第40図)

調査区の丘陵鞍部から南西に向かってゆるやかに傾斜するI-9グリッドのV b層直上で検出した。プランは、長径約1.4m、短径約1mの楕円形を呈する。残深は、約1.9mを測り、埋土は15層に分層される。断面は床面から中程にかけてやや広がり、中程から上位にかけては、逆「ハの字」状に開く。炭化物、遺物は確認されなかった。

S C 12 (第41図)

調査区丘陵鞍部から南に下る壁際のL-8グリッドのV b層直上で検出した。プランは、長径約2.2m、短径約1.3mの楕円形を呈する。残深は、約2.3mを測り、埋土は17層に分層される。断面の床面から中程までは、左側がほぼ真上に立ちあがり、右側はゆるやかに広がる。右側ではややすぼまるが、両側とも中程から上位にかけては、逆「ハの字」状に開く。炭化物、遺物は確認されなかった。

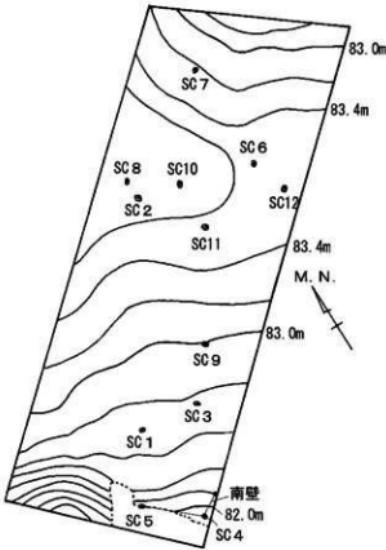
S C 4・5植物珪酸体検出状況

S C 4・5については、埋土の堆積当時の植生やそこに生息していた動物や採取された動植物質食料についての推定を行うために、自然科学分析（植物珪酸体分析）を実施した。

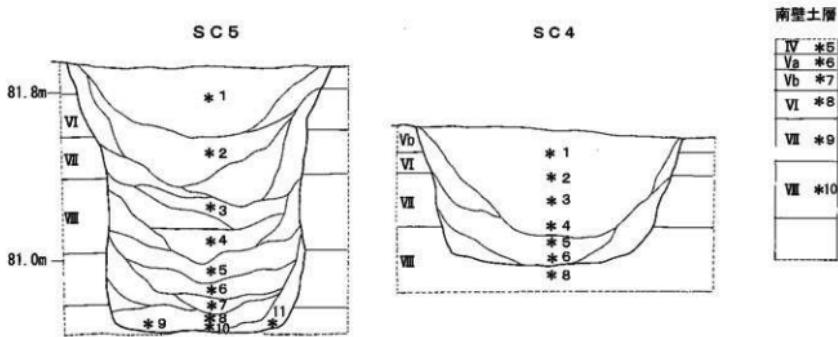
S C 4は埋土中より試料1～6、さらにその下位の床面より試料8を採取した。S C 5は、埋土中より試料1～11を採取した。検出状況の結果は次頁の通りである。併せて、「第V章 自然科学分析」も参照されたい。

註

- 1 宮崎県埋蔵文化財センター 「発掘調査報告書第76集」『平成14年度東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査報告書III』 2003



第34図 S C 配置図



第35図 SC 4・5 南壁土層植物珪酸体試料採取地点模式図

試料	イネ科								タケ科					
	キビ密度	ヨシ草	ススキ密度	クシキチ原A	クシキチ原B	シバ草	Aくさび原	B	C	メダケ類	本マサ葉型	マダマサ葉型	ミカコササ葉型	未分類
SC 4 検出密度 (単位: ×100個/g)	1	14	7	83	2			31			83	48	34	
	2	20		33				7			374	180	67	
	3	14	7	34	7			7			108	122	27	
	4	32		19	67						61	159	26	
	5	14		49							69	126	7	
	6	15	20	7	40						7	49	140	20
	7	20	26	26	72	7					13	7	26	7
	8													

試料	イネ科								タケ科					
	キビ密度	ヨシ草	ススキ密度	クシキチ原A	クシキチ原B	シバ草	Aくさび原	B	C	メダケ類	本マサ葉型	マダマサ葉型	ミカコササ葉型	未分類
SC 5 検出密度 (単位: ×100個/g)	1	34	7	48	2						54	226	7	
	2	14	7	53							53	158	65	
	3	14		34	7						7	20	191	7
	4			26	7						7	370	14	
	5	7		14	14						14	66	14	
	6	28		48							36	328	21	
	7	23	7	7	41	7					21	14	171	21
	8	36		36	7						21	214	21	
	9	7		14	48						28	139	7	
	10	7		7	97						7	28	228	7
	11	7	7	16	43						7	24	214	7

試料	イネ科								タケ科					
	キビ密度	ヨシ草	ススキ密度	クシキチ原A	クシキチ原B	シバ草	Aくさび原	B	C	メダケ類	本マサ葉型	マダマサ葉型	ミカコササ葉型	未分類
基本土層	1	8	8	30							50	88	8	15
	2	15	15	22	74	7					267	459	194	133
	3	2	15	16	67	7					390	422	183	141

第7表 SC 4・5 南壁土層植物珪酸体検出密度

S C 5		S C 4		基本土層	
試料	検出状況	試料	検出状況	層	検出状況
1 2	・ミヤコザサ節型が増加 ・スキ属は、ほとんど見られない。	1 2 3	・クマザサ属型が増加 ・イネ科B型タイプ出現	IV	メダケ属型やネササ節型が優勢傾向 メダケ属型やネササ節型が大幅増加
5, 6 6, 7	・ミヤコザサ節型が増加している。 ・スキ属は、ほとんど見られない。	4 5	・クマザサ属型やミヤコザサ節型が比較的多く検出 ・キビ族型、スキ属型、ウシクサ族Aなども検出	V a V b	クマザサ属型が増加 ミヤコザサ節型が地帯 ヨシ属やクマザサ属も出現 ミヤコザサ節型が増加傾向 メダケ属型が増加傾向 ミヤコザサ節型が比較的多く検出 キビ族型、スキ属型、ウシクサ族A、メダケ属型
8, 9, 10, 11	・ミヤコザサ節型が比較的多く検出 ・キビ族型、スキ属型、ウシクサ族A、 ・クマザサ節型も検出	6	・ヨシ属が検出された。	VI VII	ウシクサ族A、メダケ属型 なし
		8	・少量のキビ族型、ヨシ属、スキ属型、 ウシクサ族A、ネササ節型、クマザサ属型、 ミヤコザサ節型等が検出	VI	キビ族型、ヨシ属、ウシクサ族A、メダケ属型 ネササ節型、ミヤコザサ節型などが少量検出

S C 5		S C 4		基本土層	
推定耕算量より	推定耕算量より	層	推定耕算量より	層	推定耕算量より
全体的にミヤコザサ節型が優勢となっている。	埋土では、クマザサ属型やミヤコザサ節型が優勢であり、埋土底部及び試料8では、ヨシ属も多くなっていることが分かる。	III IV V a ~ VI VII	メダケ属型やネササ節型が優勢 クマザサ属型やミヤコザサ節型が優勢 ミヤコザサ節型が優勢 ヨシ属が優勢		

第8表 S C 4・5 南壁土層植物珪酸体検出状況対比表

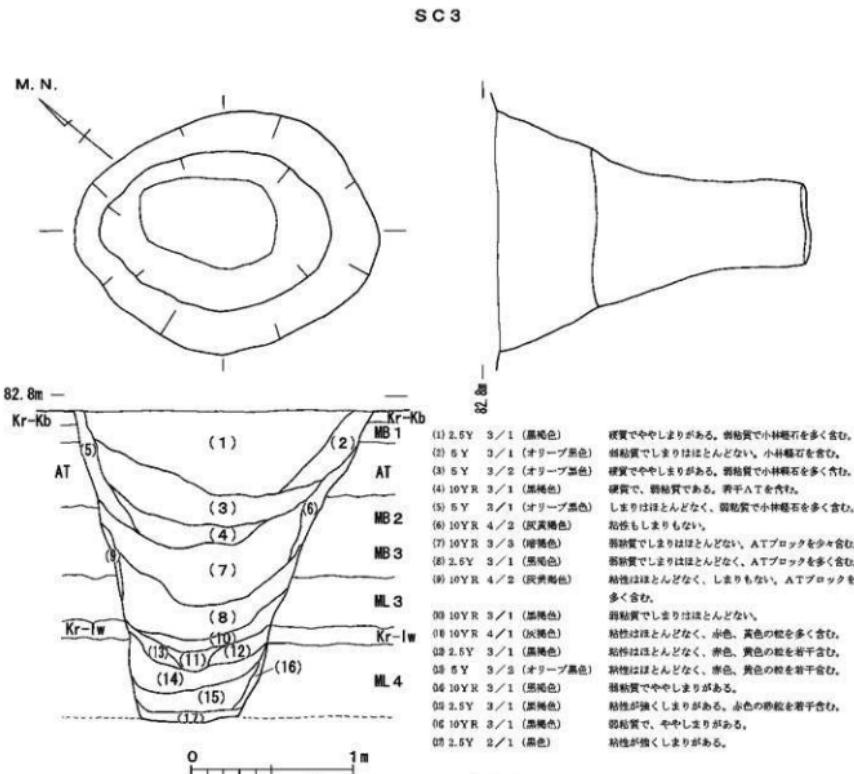
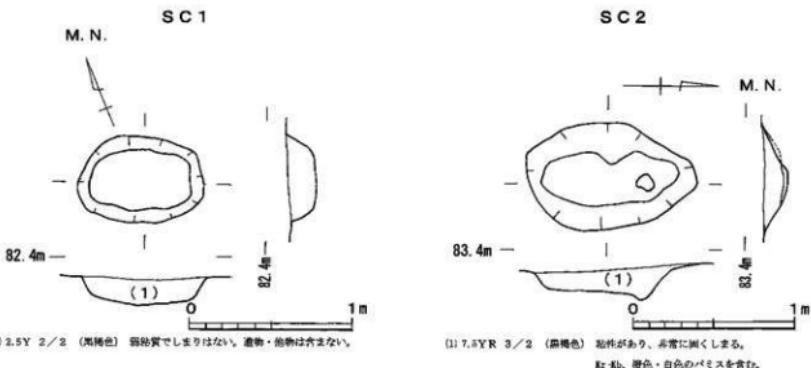
S C 4・5 がつくられた当時の植生と環境

前出の第34図 S C配置図に示されているS C 4とS C 5は直線距離にして約12m離れた場所に位置している。それぞれに位置している場所の標高や土層の傾斜の度合いが違うために、S C 4・5の埋土及び基本土層の堆積状況に違いが出てくることが予想できる。第7表植物珪酸体検出密度及び第8表植物珪酸体検出状況対比表においても同様で、土坑外の2地点の対応する層や同一土坑内の同一層での試料採取にもかかわらず、その結果に微妙な違いが表れている。具体的には、南壁土層試料10とS C 4の試料8やS C 5の埋土底部の両端試料9、試料11と中央試料10、その上の試料8の4箇所で試料採取を行っているが、植物珪酸体の分類及び密度に若干の違いが表れている。(第35図 S C 4・5 南壁土層植物珪酸体試料採取地点模式図、第7表 S C 4・5 南壁土層植物珪酸体検出密度) 反対に、S C 4の床部試料6とS C 5の床部試料11においては、珪酸体の分類が比較的共通していることがうかがえる。また、埋土の分類された層ごとの対比で見ると、イネ科ではキビ族・ウシクサ族Aは、S C 4・5の共通する珪酸体分類であり、絶えずウシクサ族Aが優勢であることが分かる。タケアキ科も、クマザサ属型とミヤコザサ節型がS C 4・5の共通する珪酸体分類ではあるが、S C 4は両方が優勢であり、S C 5はミヤコザサ節型が優勢であることが分かる。以上のように分析の結果から、大まかな傾向についてはとらえ

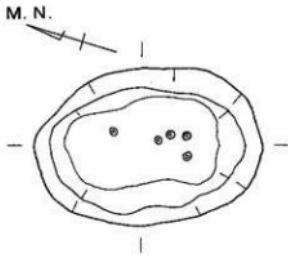
られるが、珪酸体の分類、密度、推定生産量等の観点をもとに詳細な分析をするまでには至っていない。よって、今回はS C 4とS C 5がつくられた当時の植生と環境について、分析結果の主な特徴から推察することになる。

S C 4は、クマザサ属(チシマザサ節・チマキザサ節及びミヤコザサ節)などのササ類を主体としてキビ族やチガヤ属などの育成するイネ科植生であったと考えられ、部分的にスキ属やヨシ属も見られたと推定される。このような植生および植物珪酸体組成や密度などから、埋土はおもに基本土層のIV層に対比されると考えられる。なお、埋土底部で検出されたヨシ属については、陥り穴の構造物として利用された可能性も考えられるが、基本土層のIV層や遺構底面直下のV层でもヨシ属が検出されていることから、確定的なことは言えない。

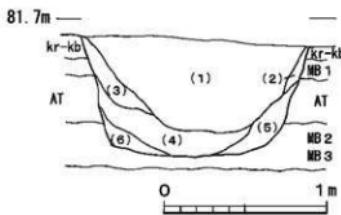
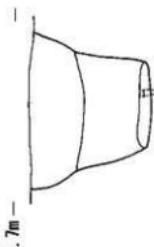
S C 5は、クマザサ属(おもにミヤコザサ節)などのササ類を主体としてキビ族やチガヤ属なども育成するイネ科植生であったと考えられ、部分的にスキ属やヨシ属も見られたと推定される。このような植生および植物珪酸体組成や密度などから、埋土はおもに基本土層のV a層に対比されると考えられる。



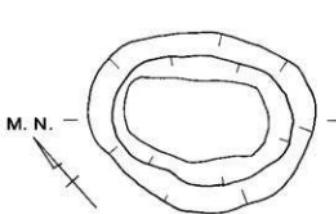
第36図 S C 1 ~ 3 実測図



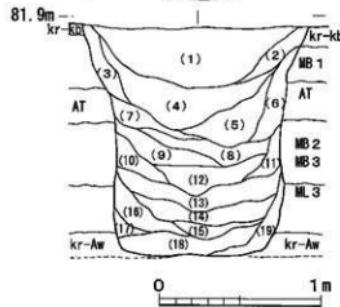
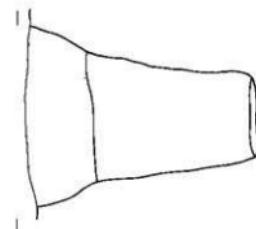
S C 4



- (1) 10 YR 7/1 (黑色)
粘粒質でややしまりがある。小林凝石を若干含む。
(2) 5 Y 3/2 (オリーブ墨色)
粘性はほとんどなくしまりもない。
(3) 2.5 Y 3/1 (黒褐色)
弱粘質であるしまりはない。
(4) 5 Y 2/1 (黑色)
弱粘質でしまりはない。(5)(6)より粘性は強い。
(5) 10 YR 2/2 (黒褐色)
弱粘質でしまりはあるまい。
(6) 10 YR 3/1 (墨褐色)
弱粘質でしまりはない。

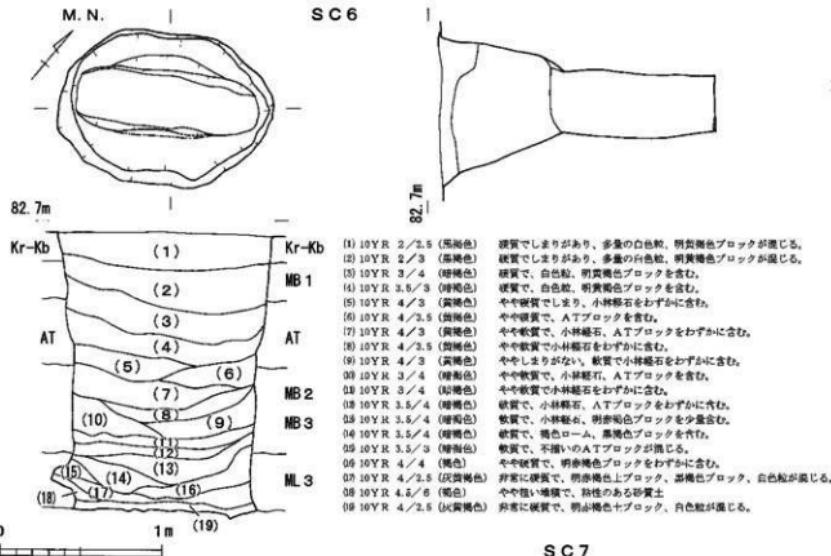


S C 5

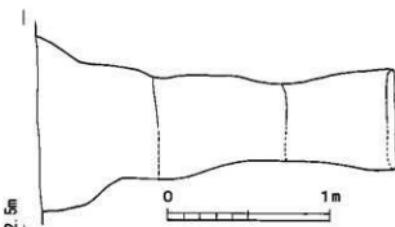
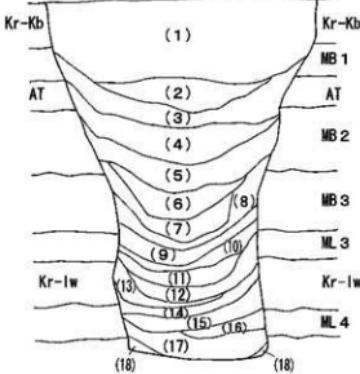
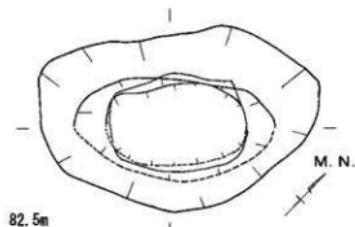


- (1) 2.5 Y 3/1 (墨褐色)
強粘質でしまりはほとんどない。小林凝石を少々含む。
(2) 2.5 Y 3/2 (墨褐色)
強粘質でしまりはほとんどない。小林凝石を少々含む。
(3) 10 YR 3/2 (墨褐色)
強粘質でしまりはほとんどない。小林凝石を少々含む。
(4) 10 YR 3/1 (黒褐色)
強粘質でしまりはほとんどない。小林凝石を少々含む。
(5) 5 Y 3/1 (オリーブ墨)
弱粘質でしまりはほとんどなく、ATブロックを含む。
(6) 5 Y 3/2 (オリーブ墨)
弱粘質でしまりはほとんどなく、ATブロックを含む。
(7) 10 YR 3/1 (黒褐色)
弱粘質でしまりはほとんどない。
(8) 10 YR 3/2 (墨褐色)
弱粘質でしまりはほとんどない。ATブロックを多く含む。
(9) 2.5 Y 3/1 (墨褐色)
弱粘質でしまりはほとんどない。
(10) 10 YR 3/2 (墨褐色)
弱粘質でしまりはほとんどなく、ATブロックを含む。
(11) 10 YR 3/3 (暗墨褐色)
弱粘質でしまりはほとんどなく、ATブロックを含む。
(12) 2.5 Y 3/3 (暗オリーブ褐色)
弱粘質でしまりはほとんどない。ATブロックを多く含む。
(13) 10 YR 2/3 (黑色)
弱粘質でややしまりがある。
(14) 2.5 Y R 3/2 (墨褐色)
弱粘質でややしまりがある。ATブロックが若干混じる。
(15) 10 YR 2/2 (墨褐色)
弱粘質でややしまりがある。
(16) 10 YR 3/1 (墨褐色)
弱粘質であまりしまりがない。
(17) 10 YR 2/2 (墨褐色)
粘性が強くしまりがある。
(18) 2.5 Y R 2/1 (墨色)
やや粘性あり。しまりもある。

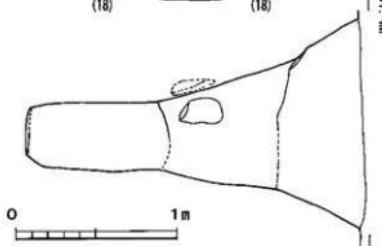
第37図 S C 4・5 実測図



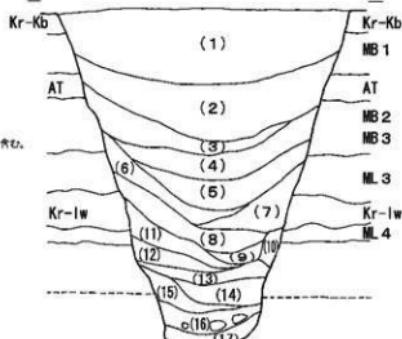
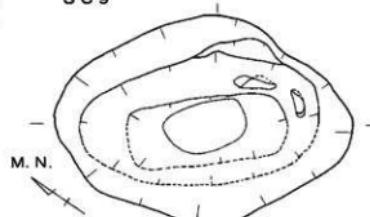
第38図 S C 6・7実測図



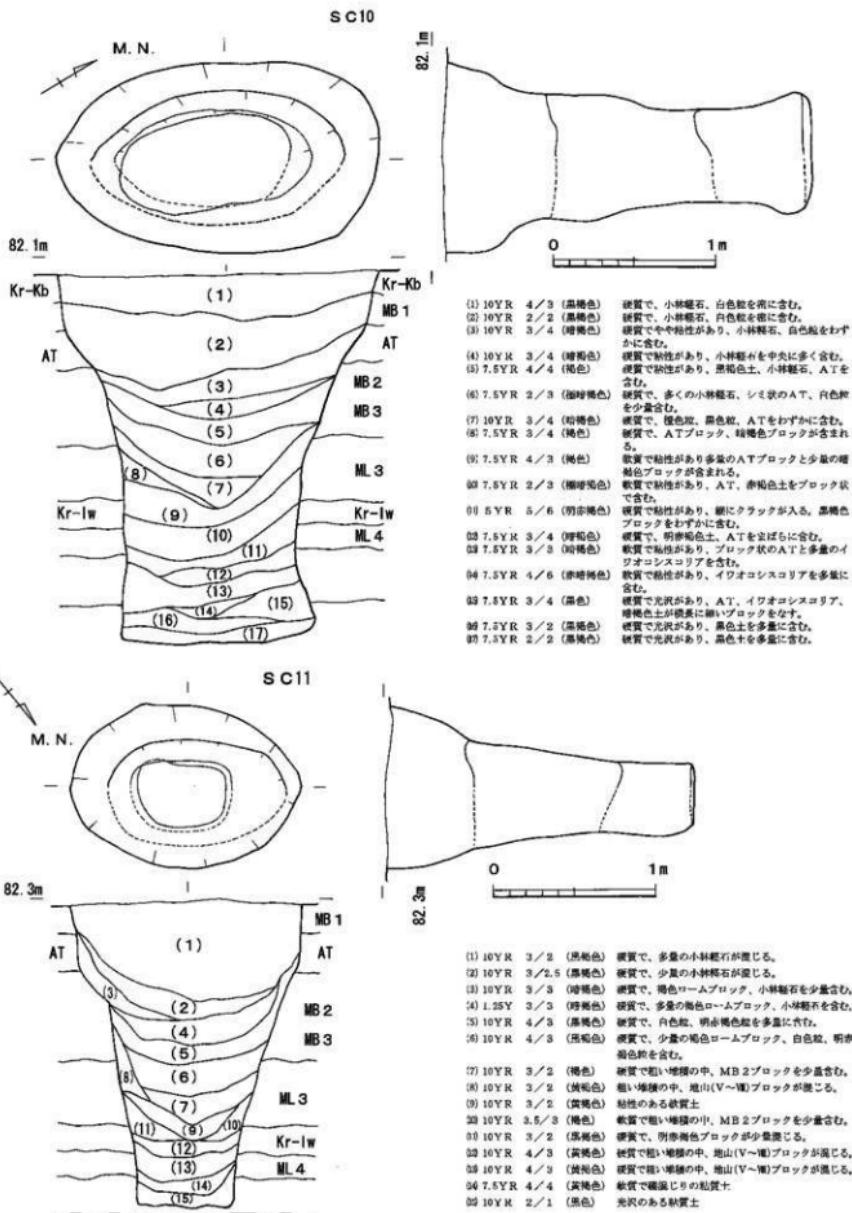
- (1) 10YR 2/2 (黑色) 硬質で粘性があり、小林砾石、褐色鉄。白色鉄を含む。
- (2) 7.5YR 3/1 (黑色) 硬質でやや粘性があり、褐色ロームブロック、橙色鉄、白色鉄をわずかに含む。
- (3) 7.5YR 3/2 (黑色) 硬質で粘性があり、褐色鉄。白色鉄をわずかに含む。
- (4) 7.5YR 4/2 (灰褐色) 硬質で小林砾石を含み、褐色鉄、白色鉄をわずかに含む。
- (5) 7.5YR 3/3 (灰褐色) 粘性の砂褐色ローム層に、小林砾石、褐色鉄、白色鉄をわずかに含む。
- (6) 7.5YR 4/4 (褐色) 硬質の暗褐色ローム層に、小林砾石、褐色鉄、白色鉄をわずかに含む。
- (7) 7.5YR 4/2 (灰褐色) 粘性のある暗褐色ロームに、褐色鉄、白色鉄をわずかに含む。
- (8) 10YR 3/3 (灰褐色) 砂質でザラザラした感じがあり、粘性はあまりない。
- (9) 10YR 3/3 (暗褐色) 砂質でザラザラし、MB 2 の小ブロックをわずかに含む。
- (10) 10YR 3/4 (暗褐色) 粘性はなく、砂質でザラザラしている。
- (11) 10YR 4/4 (褐色) 狹質で AT と赤褐色ロームが筋状に混じりながら堆積する。
- (12) 10YR 4/3 (赤褐色) 狹質で粘性はなく、MB 2、AT ブロックが含まれる。
- (13) 10YR 3/3 (暗褐色) あまり粘性はなく、AT と赤褐色ロームを含む。
- (14) 10YR 3/2 (暗褐色) 粘性はなく、柔らかい AT ブロックと暗い MB 2 ブロックを含む。
- (15) 10YR 3/3 (暗褐色) 狹質で粘性があり、AT と MB 2 が筋状に堆積する。
- (16) 10YR 2/2 (暗褐色) 狹質で粘性があり、MB 2 をブロック状に含む。
- (17) 10YR 2/2 (暗褐色) 狹質で粘性があり、赤褐色ローム、明黄色ロームが混じる。



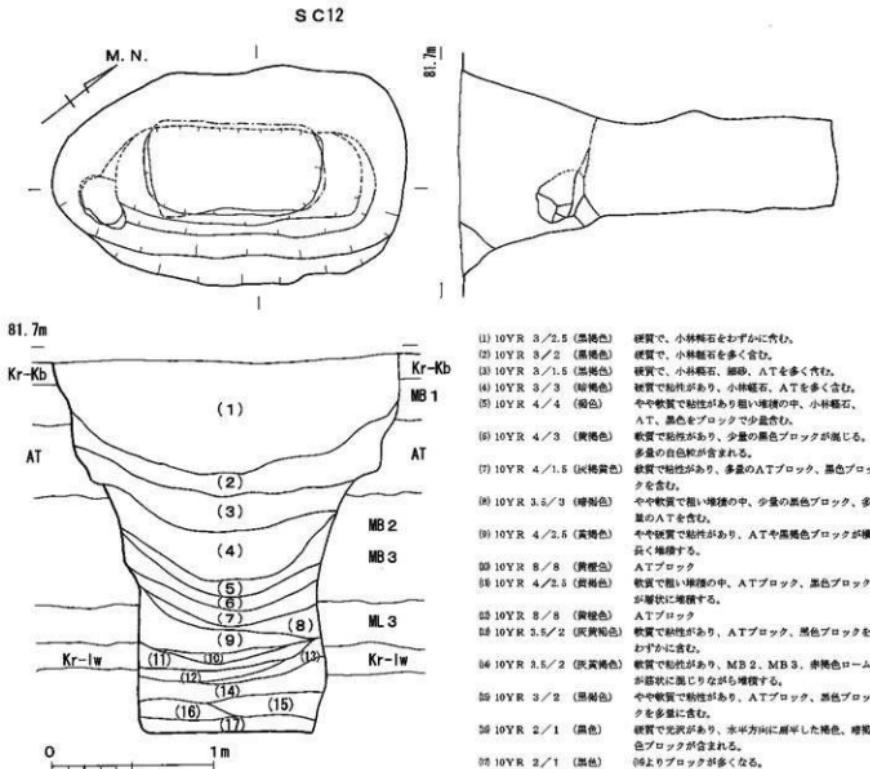
- (1) 10YR 3/2 (黒褐色) 硬質で、多量の小林砾石が混じる。
- (2) 10YR 3/2 (黒褐色) 硬質で、少量の小林砾石が混じる。
- (3) 10YR 3/3 (暗褐色) 硬質で、褐色ロームブロック、小林砾石を少含む。
- (4) 1.25Y 3/3 (暗褐色) 硬質で、多量の褐色ロームブロック、小林砾石を含む。
- (5) 10YR 4/3 (黒褐色) 硬質で、白色鉄、褐色鉄を多量に含む。
- (6) 10YR 4/3 (黒褐色) 硬質で、少量の褐色ロームブロック、白色鉄、明赤褐色鉄を含む。
- (7) 10YR 3/2 (褐色) 硬質で弱い堆積の中、MB 2 ブロックを少含む。
- (8) 10YR 3/2 (褐色) 強い堆積の中、地山(V~W)ブロックが混じる。
- (9) 10YR 3/2 (褐色) 粘性のある軟質。
- (10) 10YR 3.5/3 (褐色) 狹質で弱い堆積の中、MB 2 ブロックを少量含む。
- (11) 10YR 3/2 (黒褐色) 硬質で、明赤褐色ブロックが少量混じる。
- (12) 10YR 4/3 (黄褐色) 硬質で弱い堆積の中、地山(V~W)ブロックが混じる。
- (13) 10YR 3/2.5 (黒褐色) 硬質で、弱い堆積の中、地山(V~W)ブロックが混じる。
- (14) 10YR 4/3 (暗褐色) 硬質で弱い堆積の中、地山(V~W)ブロックが混じる。
- (15) 7.5YR 4/4 (褐色) 狹質で粘性の粘土土。
- (16) 10YR 2/1 (黒色) 非常に軟質で、8~10cmの層が混じる。
- (17) 10YR 2/1 (黒色) 光沢があり軟質



第39図 S C 8・9実測図



第40図 S C10・11実測図



第41図 SC12実測図

番号	検出位置(グリッド)	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	主軸方向	平面プラン	備考
SC1	E-5	0.78	0.42	0.15	NE-SW	楕円長方形	
SC2	II-10	1.02	0.66	0.18	N-S	不正楕円形	
SC3	F-5	1.86	1.50	1.92	NW-SE	不正楕円形	
SC4	E-2	1.41	0.96	0.72	NNW-SS	楕円形	クイズ有り
SC5	D-3	1.38	1.11	1.41	NW-SE	不正楕円形	
SC6	K-9	1.29	0.96	2.28	NE-SW	楕円形	
SC7	K-12	1.05	0.69	1.95	NE-SW	楕円形	
SC8	H-11	1.71	1.08	2.22	NE-SW	不正楕円形	
SC9	G-6	1.83	1.26	2.10	NW-SE	不正楕円形	
SC10	I-10	2.01	1.17	2.20	NE-SW	楕円形	
SC11	I-9	1.41	0.99	1.92	NW-SE	不正楕円形	
SC12	L-8	2.16	1.32	2.30	NE-SW	不正楕円形	

第9表 土坑計測表

2 繩文時代早期の遺物

縄文時代早期に属する遺物は、IV層 暗褐色ローク（ML 1）を主な包含層として、55点の上器と44点の石器が出土した。土器は、E-7・F-7グリッド内、M-10~11グリッド内、L-11グリッド内の3箇所で出土した。土器は、少数の上に細片が多く、風化の著しいものが多い。石器は、調査区全般でまばらに出土した。旧石器時代同様、遺物の出土状況は散漫で、分布密度は薄い。以下主な遺物の特徴について説明する。

(1) 土器（第42図77~83）

E-8・F-8グリッドの境界を中心に47点の上器片、M-11・12グリッドの境界で6点、L-12グリッド内で2点の土器片が出土した。E-8・F-8グリッドで出土した47点の土器片は、ほとんどが胴部で一部口縁が残存していた。これらの土器面には、横方向の貝殻条痕文によるナデ調整や、貝殻腹縁剥突文を施す。従ってこれらの土器は、全般的に風化が著しく進んでいるが、所謂、貝殻条痕文系土器（第42図77~82）と考えられる。

M-11・12グリッドの境界で出土した6点の土器片は、ほとんどが小片でかなり風化が進んでいたため、文様、調整等は不明である。

L-12グリッドで出土した2点のうち1点は、器面外の頸部付近に、横方向のナデ、沈線による区画、内面には横ナデを施した塞ノ神式土器（第42図83）である。残りの1点は極小片で83が欠損したものと思われる。

(2) 石器

接合資料3（第43図～第44図）

石核2点、剥片5点の計7点が接合したものである。母岩は、棒状の礫であり、その両端部（上下）を剥離している。剥離工程は、母岩を、A（86+84+85）とB（88+87）に分割する。Aは上端部を84→85の順で剥離している。Bは、上下の両端を剥離しているが、87もその際の剥離である。なお84と85は、節理や潜在割れ等の原因で2分割されたと思われる。

接合資料4（第45図～第46図）

石核1点、スクレイバー1点、剥片2点の合計4

点が接合したものである。二側面に自然面を残した石核から幅広剥片を剥離した資料である。剥離工程を復元すると89→90→91となる。89はスクレイバーに用いられた。資料についての詳細は観察表（第12表）を参照されたい。

石器は、細石刃1点、細石刃核3点、石鏃8点、石核2点、スクレイバー3点、礫器1点、剥片12点、碎片3点の計33点が出土し、主な石材は、黒曜石、ホルンフェルス、チャート、頁岩、泥岩である。詳しくは、表13~14を参照されたい。

細石刃核（第47図93～95）

出土した細石刃核3点は、調査区南壁の北部付近のN-10、M-9グリッドに偏っている。

93は、上牛鼻産黒曜石を素材とし、自然面を残した主要剥離面の右側上面を打点として細石刃を作出している。

94は、分割された桑ノ木産黒曜石を素材とし、主要剥離面の上縁に打面調整を加え作業面を形成し、細石刃を作出している。

95は、桑ノ木産黒曜石の分割された小型の角礫を素材とし、自然面から剥片を作出し、その主要剥離面を打面とし、細石刃を作出している。

細石刃（第47図96）

細石刃は細石刃核が出土したM-9グリッド隣のL-9グリッドで出土した。96は、完形で打面を残している。石材は桑ノ木産黒曜石である。

石鏃（第47図97～104）

8点の石鏃は、大きく3タイプに分けられる。

97~100は、二等辺三角形の形状で深いU字状の抉りにより脚部を作り出している。

101~103は、二等辺三角形の形状で、基部に浅いV字状の抉りが入る。

104は、正三角形の形状で基部中央に浅い抉りがある。

スクレイバー（第47・48図 105～107）

105は、自然面を残した剥片の主要剥離面の表面、右縁辺（短軸上の端部）に連続的な調整を設けて刃部をつくりだしている。調整加工は片面のみである。

106は、剥片の主要剥離面の表面、上部縁辺に連続的な調整を加えて刃部を形成している。調整加工

は、片面のみである。

107は、表に自然面を残した剥片の右側縁に調整加工を施している。

礫器（第49図108）

108は楕円形の礫で表面に自然面を残し、裏面右側縁から上縁にかけて調整加工を施し、刃部を形成している。

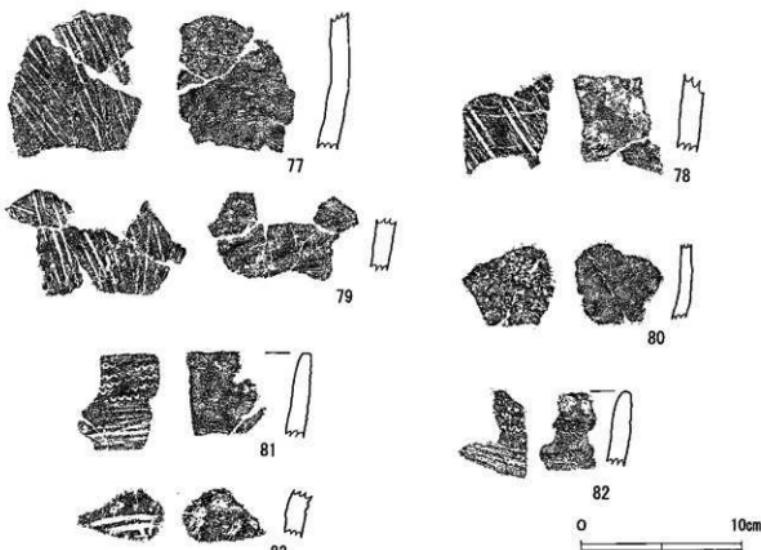
石核（第49図109～110）

109は、自然面を一部に残し、打面は一枚の剥離痕からなる単剥離打面である。

110は、桑ノ木産黒曜石の分割された角礫を素材とし、打面を頻繁に転移して剥離作業を行っている。

剥片（第50図111～115）

剥片についての詳細は石器観察表（第14表）を参照されたい。

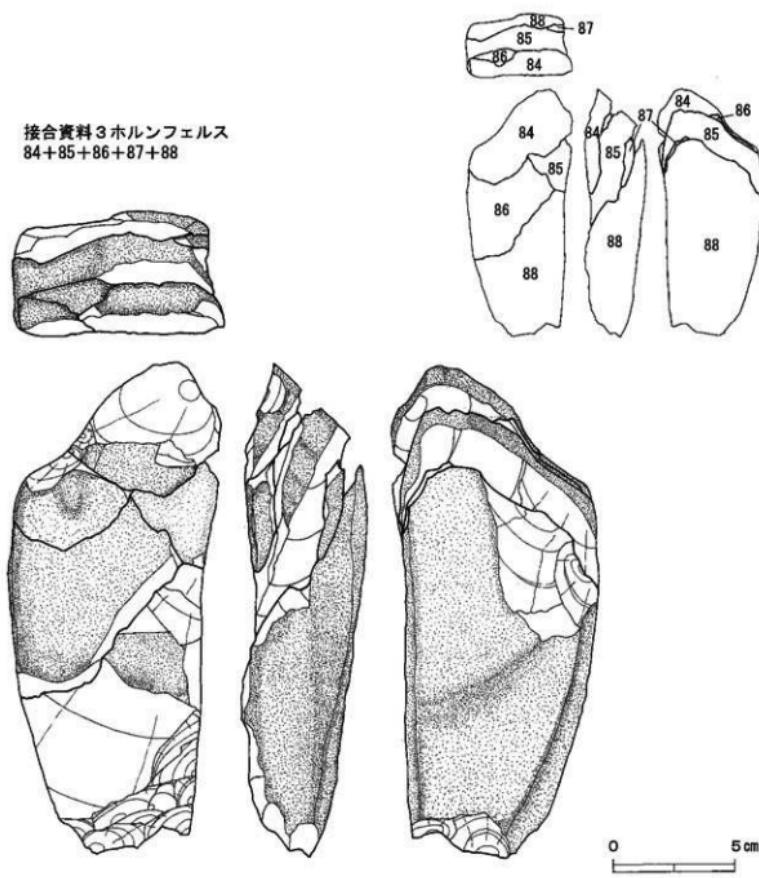


第42図 縄文時代早期土器実測図

番号	器種	部位	文様及び剖面		色調		胎土	備考
			外面	内面	外面	内面		
77	礫鉢	底部	斜方向の貝殻条文	ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	2mm以下の灰色、黒、乳白色の粒を含む。	
78	礫鉢	底部	横方向の貝殻条文の上に斜方向の条文	ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	2mm以下の灰色、黒、乳白色の粒を含む。	
79	礫鉢	底部	斜方向の貝殻条文	ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	2mm以下の灰色、黒、乳白色の粒を含む。	
80	礫鉢	底部	風化著しい。	ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	2.5mm以下の乳白色、茶色、墨色、褐色、2mm以下の黑色斑を含む。	
81	礫鉢	口縁部	上部貝殻條例文その下位に横方向の状跡とナデ	ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	1mm以下の褐色、乳白色を含む。	スヌ付着
82	礫鉢	口縁部	上部貝殻條例文その下位に横方向の状跡とナデ	ナデ	にぶい黄緑	にぶい黄緑	1mm以下の褐色、乳白色を含む。	スヌ付着
83	礫鉢	底部	横方向にナデと比較が交叉する。	ナデが見られるものの著しい風化が日立つ。	橙	橙	1mm以下の灰色、黒、乳白色、透明な粒を含む。	

第10表 縄文時代早期土器観察表

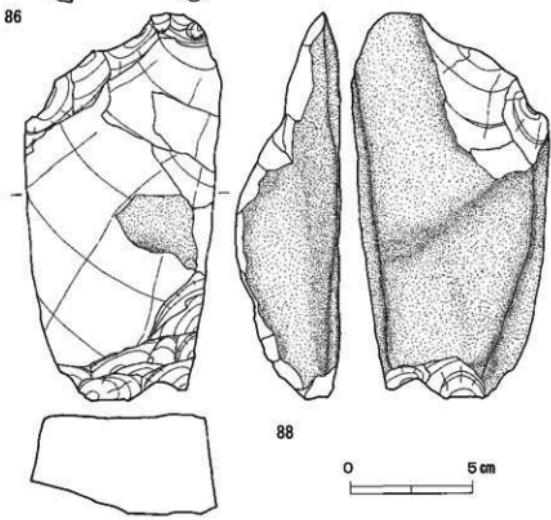
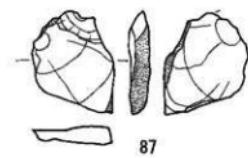
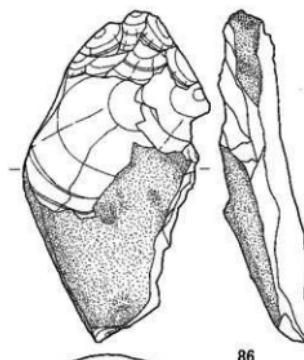
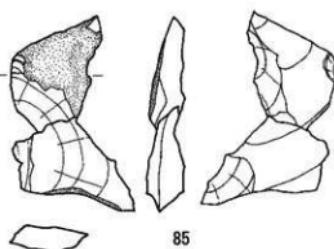
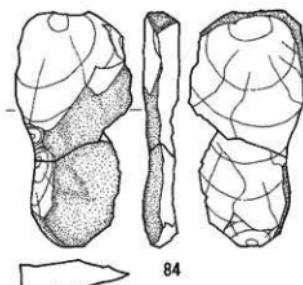
接合資料3 ホルンフェルス
84+85+86+87+88



第43図 接合資料3実測図(1)

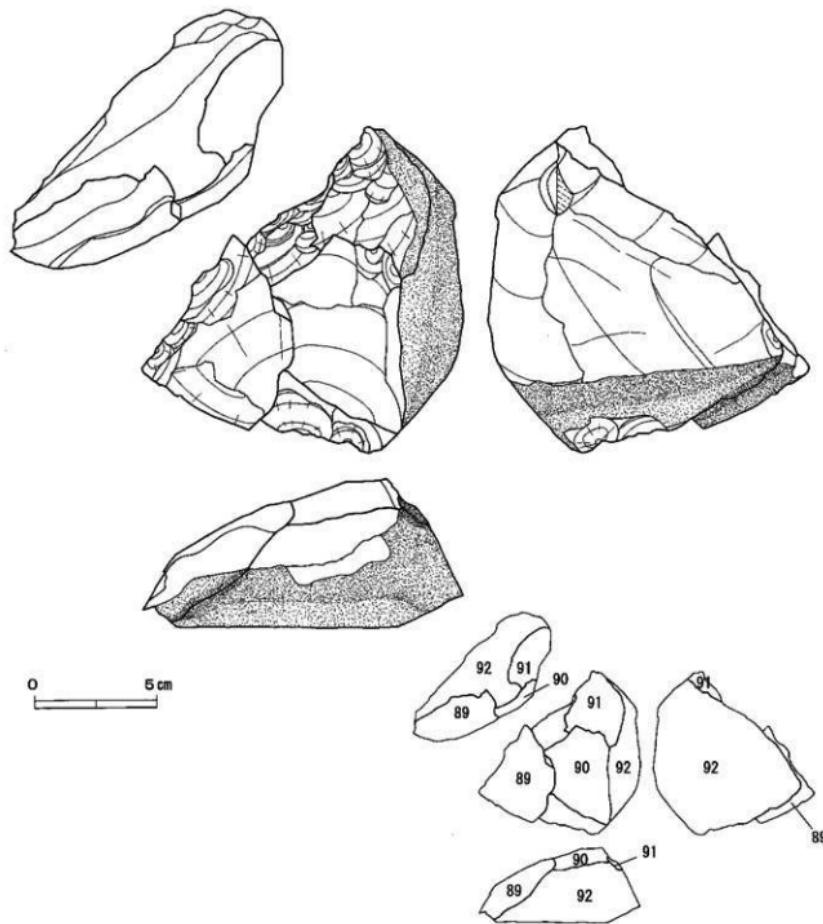
番号	井記番号	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	東さ(°)	X座標	Y座標	レベル
84	15	D4a (石器ブロック2)	剝片	ホルンフェルス	3.90	5.10	1.60	45.1	-96314.728	44871.989	82.435
84	20	D4d (石器ブロック2)	剥片	ホルンフェルス	4.65	3.70	1.50	22.6	-96314.797	44871.110	82.553
85	16	D4d (石器ブロック2)	剝片	ホルンフェルス	4.20	4.95	1.60	16.2	-96314.675	44872.020	82.446
85	30	D4a (石器ブロック2)	剥片	ホルンフェルス	4.60	1.20	35.50	22.5	-96312.275	44872.291	82.491
85	10	D4d (石器ブロック2)	石核	ホルンフェルス	12.60	7.60	0.90	287.8	-96315.330	44870.945	82.370
87	29	D4a (石器ブロック2)	剥片	ホルンフェルス	4.20	3.40	0.90	12.2	-96315.459	44873.209	82.468
88	8	D4d (石器ブロック2)	石核	ホルンフェルス	15.90	7.90	4.20	614.8	-96312.332	44870.502	82.371

第11表 接合資料3石器観察表



0 5 cm

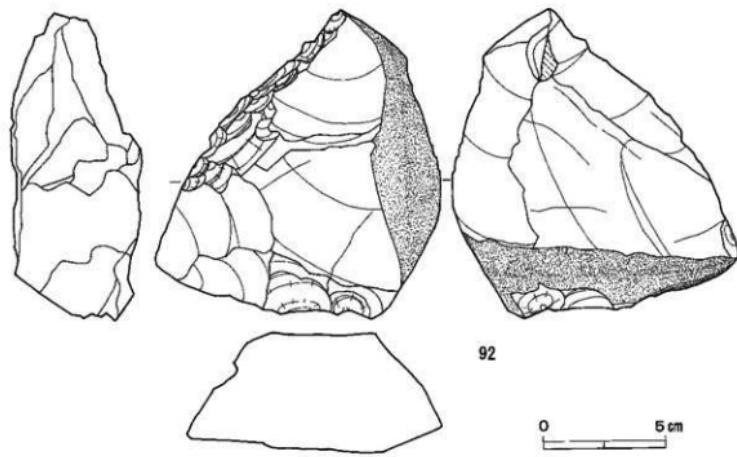
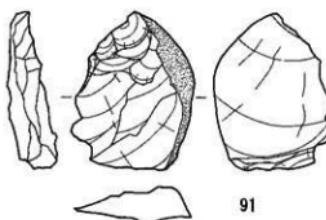
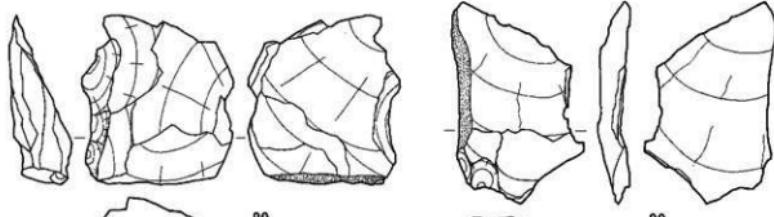
第44図 接合資料3実測図(2)



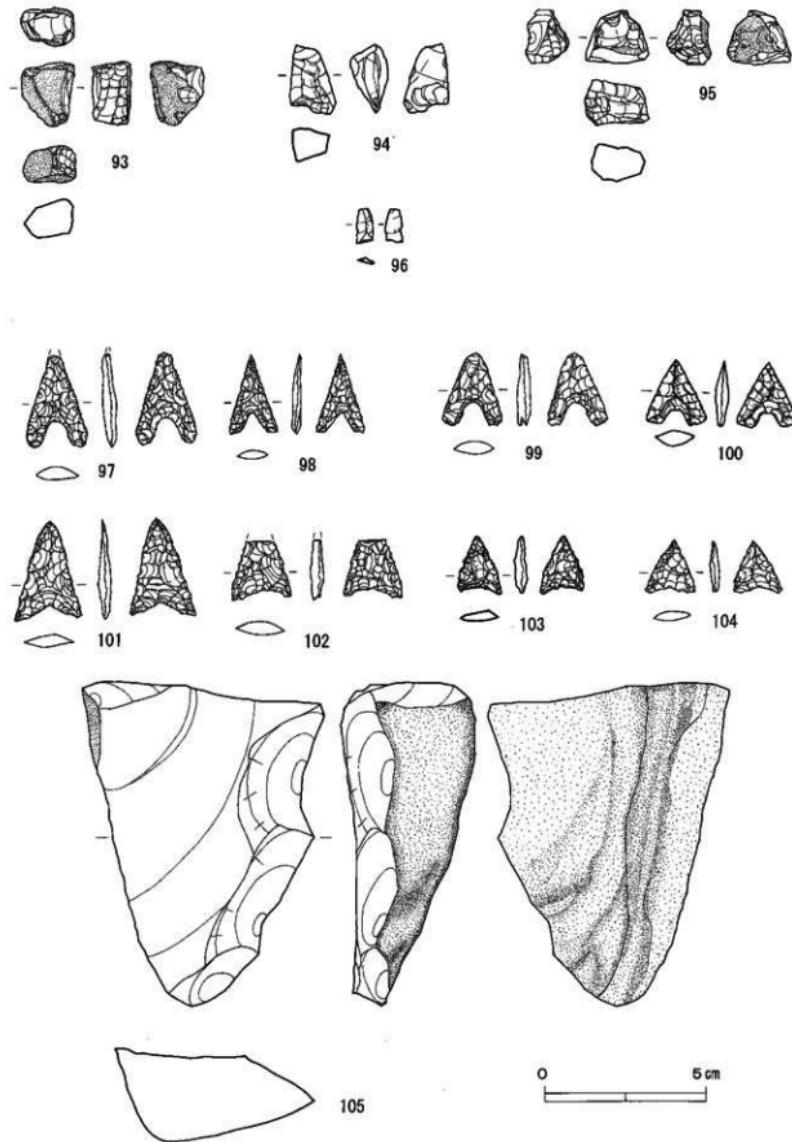
第45図 接合資料 4 実測図 (1)

番号	注記番号	出土位置	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	レベル
89	17	D4d (石器ブロック2)	スクレイパー	ホルンフェルス	6.90	6.20	2.70	82.1	-96314.372	44871.831	82.436
90	19	D4d (石器ブロック2)	剥片	ホルンフェルス	8.30	5.50	1.30	12.9	-96314.368	44871.469	82.151
91	18	D4d (石器ブロック2)	剥片	ホルンフェルス	6.60	5.10	2.10	48.3	-96314.372	44871.838	82.430
92	6	D4d (石器ブロック2)	石核	ホルンフェルス	12.60	11.60	3.40	794.4	-96314.464	44870.067	82.377

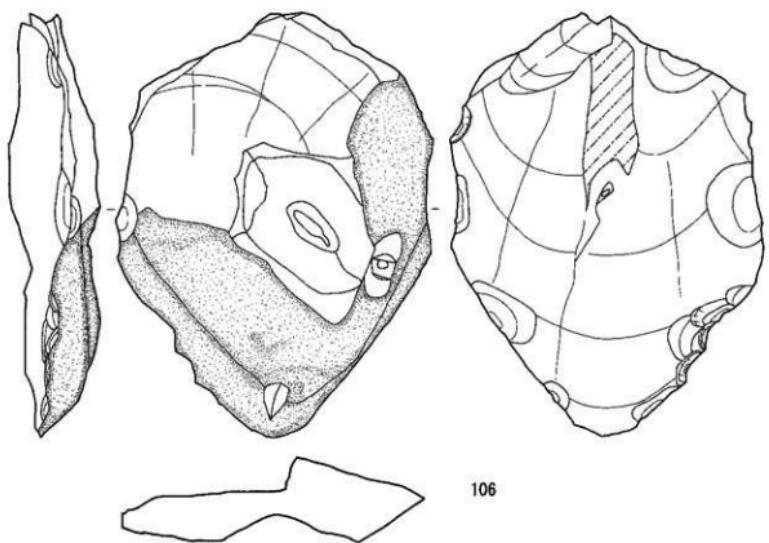
第12表 接合資料 4 石器観察表



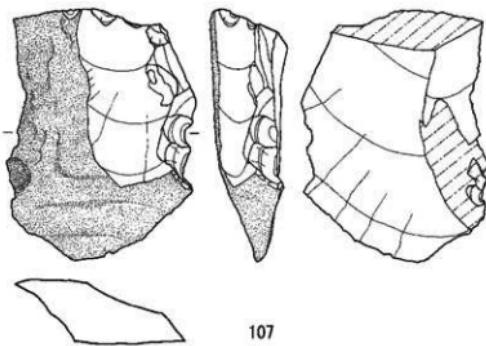
第46図 接合資料4実測図(2)



第47図 繩文時代早期石器実測図（1）



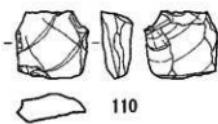
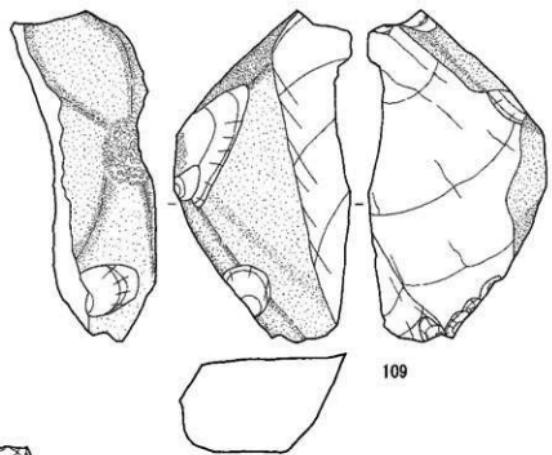
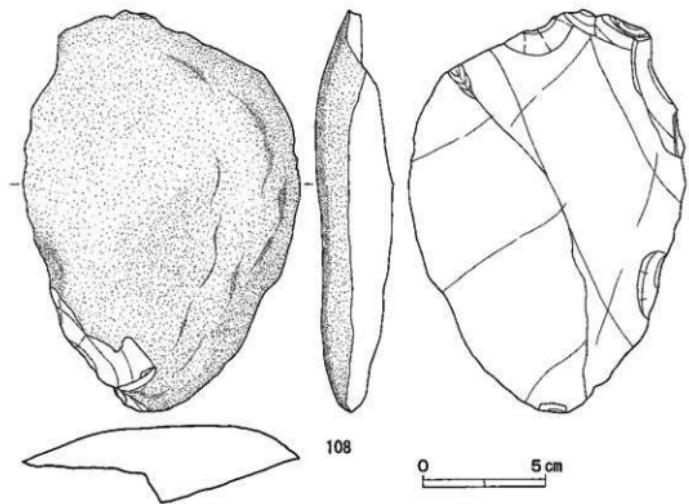
106



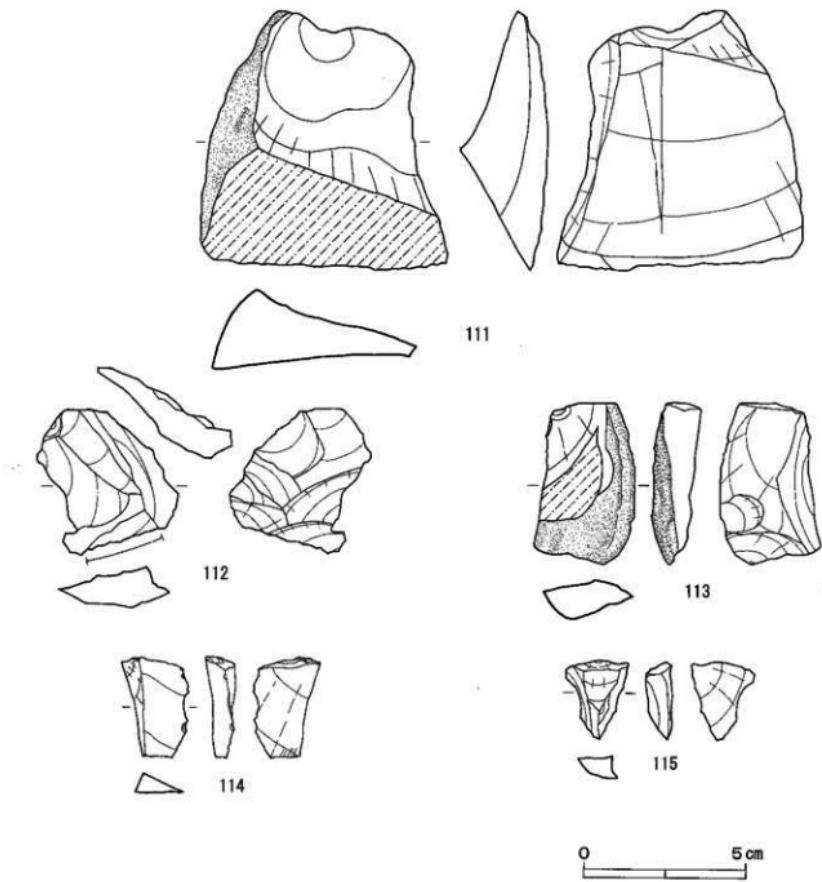
107



第48図 繩文時代早期石器実測図（2）



第49図 縄文時代早期石器実測図（3）



第50図 繩文時代早期石器実測図（4）

石材	チャート	ホルンフェルス	瑪瑙石	紀 岩	頁 岩	砂 砂	尾山山脈付近	総 計
縞石刃			1					1
縞石刀核			3					3
スクレイパー	2		1	1				4
石 刃	6		1	1				8
石 桟		4	1					5
礫 砂					1			1
刮 片		15	3	1	2			19
刮 片	1		2					3
礫		8			10	9	3	30
総 計	7	27	11	2	15	9	3	76

第13表 織文時代早期石器組成表

番 号	古墳番号	出土位置	種 類	状 態	石 刃	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	X座標	Y座標	レーベル
85	143	N9-1	縞石刃	良品	縞石	7.90	1.95	1.20	4.60	-9201.479	44971.227	83.287
94	136	N9-1	縞石刃核	良品	縞石	2.20	1.45	1.20	2.40	-9202.778	44975.165	83.240
95	142	N8-1	縞石刃核	良品	縞石	1.70	2.00	1.40	3.90	-9201.492	44964.421	83.282
96	141	L8-1	縞石刃核	良品	縞石	1.10	0.80	0.10	6.65	-9202.292	44969.194	83.245
97	129	T8-1	不整	サトート		2.80	1.90	0.40	1.40	-9203.193	44929.246	83.590
98	122	J8-1	心形	サトート		2.20	1.90	0.40	1.30	-9204.406	44977.087	83.387
99	166	H4-1	石器	サトート		2.20	1.80	0.40	1.10	-9202.230	44910.250	83.850
100	21	P5-1	心形	サトート		2.15	1.90	0.40	1.00	-9203.748	44994.880	83.577
101	145	H11-1	石器	サトート		3.80	2.00	0.40	1.50	-9205.805	44998.533	83.722
102	157	K11-1	石器	サトート		2.20	1.80	0.40	1.10	-9202.842	44945.213	83.311
103	291	K11-1	石器	サトート		1.80	1.35	0.40	6.80	-9202.008	44942.321	83.146
104	296	T7-1	不整	サトート		1.70	1.50	0.30	0.40	-9207.998	44943.879	83.279
105	31	C8-1	マタレード	良品		19.00	7.50	4.10	270.50	-9304.453	44967.914	83.343
106	9	D4(赤土ブロック2)	マタレード	良品		12.00	9.00	2.80	214.90	-9213.295	44970.285	82.253
107	187	F8-1	マタレード	サルブロッカル		7.70	5.80	2.40	86.10	-9204.800	44994.482	83.897
108	159	I9-1	鉛器	真実		16.50	11.20	3.20	316.60	-9204.135	44936.832	83.407
109	13	D4(赤土ブロック2)	石器	サルブロッカル		19.40	6.00	4.00	206.45	-9201.994	44972.091	83.419
110	161	H6-1	鉛器	真実		2.10	2.20	1.00	6.10	-9204.408	44988.717	83.016
111	27	C6-1	鉛器	真実		7.90	7.00	2.70	120.20	-9202.721	44954.372	82.716
112	18	D4(赤土ブロック2)	鉛器	サルブロッカル		4.00	4.75	1.60	17.10	-9201.814	44971.782	82.263
113	14	B4(赤土ブロック2)	鉛器	片刃		5.00	3.10	1.40	3.50	-9213.808	44971.851	82.297
114	152	L11-1	鉛器	真実		3.10	2.05	0.90	3.60	-9202.101	44952.449	83.014
115	26	D4(赤土ブロック2)	鉛器	サルブロッカル		2.40	1.90	0.80	2.80	-9202.139	44971.030	82.407
124	914	H9-1	鉛器	真実		1.00	1.30	0.40	6.70	-9204.425	44976.111	83.217
144	914	H9-1	鉛器	片刃		1.40	0.40	0.20	6.90	-9205.661	44972.054	82.247
145	K9-1	鉛器	真実			1.30	0.80	0.30	6.80	-9203.137	44974.367	82.221
147	K10-1	鉛器	真実			0.80	0.70	0.10	6.10	-9204.379	44973.727	82.896
149	K11-1	鉛器	サルブロッカル			2.30	7.80	8.20	282.00	-9202.845	44971.219	82.706
171	H11-1	鉛器	サトート			1.80	1.40	0.10	6.20	-9203.268	44970.625	82.648
179	T7-1	鉛器	瑪瑙石	真実		1.00	1.00	0.20	2.20	-9207.575	44990.581	82.095
191	E7-1	鉛器	サルブロッカル			4.30	3.70	1.00	7.60	-9207.392	44994.392	82.413
192	K7-1	鉛器	サルブロッカル			12.40	5.00	3.60	230.10	-9207.209	44944.284	82.366
196	M10-1	鉛器	サルブロッカル			6.00	2.00	0.90	11.00	-9203.266	44986.945	82.391

第14表 織文時代早期石器観察表

住居番号	心材	X座標	Y座標	レベル	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	密度	空洞度	織文	年号
1	尾原	-9206.130	44974.499	82.000	11.00	5.20	3.00	298.00	0	A	c	4.5世紀
2	西門	-9205.719	44975.767	82.257	11.80	7.20	4.90	585.00	0	A	a	2世紀後半
3	尾原山廻遊	-9205.675	44978.430	82.000	20.30	23.00	19.50	5872.30	0	A	c	2世紀後半
4	芦川	-9205.696	44979.451	82.258	10.40	5.00	3.00	248.00	0	B	b	1世紀後半
5	尾原	-9205.537	44978.294	82.105	14.20	10.00	6.40	1.50	1	A	c	1世紀後半
7	尾原	-9214.478	44970.184	82.438	3.80	2.30	0.90	6.00	0	C	b	
12	ホルンブロッカ	-9215.219	44971.114	82.275	3.40	1.70	1.80	10.00	0	C	b	
22	尾原	-9205.548	44978.530	82.286	10.10	6.00	3.30	298.00	0	B	c	2世紀後半
23	尾原山廻遊	-9205.483	44972.641	82.644	15.40	7.60	8.90	1.20	1	A	a	2世紀後半
24	尾原山廻遊	-9204.087	44978.699	82.679	13.70	6.00	4.20	5.10	0	A	a	2世紀後半
28	ホルンブロッカ	-9205.154	44982.355	82.812	9.90	6.70	2.20	124.00	0	B	b	
29	ホルンブロッカ	-9205.026	44984.395	82.100	11.20	4.60	4.10	308.00	0	U	b	
32	ホルンブロッカ	-9204.177	44971.233	82.490	2.30	0.80	1.00	2.00	2	C	b	
33	砂利	-9213.916	44965.221	82.122	6.80	3.30	2.50	53.00	2	C	b	
135	砂利	-9231.920	44958.974	82.775	2.40	1.00	0.80	4.00	0	C	b	
146	ホルンブロッカ	-9243.707	44974.261	82.878	6.80	2.30	1.10	21.30	1	C	b	
240	砂利	-9241.646	44982.299	82.000	7.80	5.80	3.00	168.10	0	B	c	
253	砂利	-9230.654	44958.953	82.391	9.30	6.00	3.70	322.00	5	A	a	
254	砂利	-9229.975	44955.845	82.300	6.80	4.30	2.30	68.20	5	B	b	
266	砂利	-9229.661	44956.960	82.368	5.60	4.80	3.70	81.10	3	B	b	
268	砂利	-9229.743	44957.009	82.063	4.70	1.90	1.20	21.00	5	B	b	
274	片岩	-9237.679	44965.425	82.760	6.10	3.80	1.60	30.30	1	B	b	
275	砂利	-9234.328	44981.619	82.752	2.50	2.00	0.40	3.10	3	C	c	
277	片岩	-9242.587	44984.176	82.676	3.30	1.00	0.70	4.00	0	C	b	
278	真実	-9234.423	44974.813	82.825	6.90	5.30	1.30	50.20	1	C	b	
281	砂利	-9231.911	44985.622	82.782	1.90	1.20	0.70	2.30	9	C	b	
288	ホルンブロッカ	-9204.509	44992.950	82.948	3.60	3.00	0.80	6.00	1	B	a	
291	真実	-9241.284	44985.275	82.800	4.60	2.00	1.30	16.20	2	B	c	
298	ホルンブロッカ	-9202.168	44985.274	83.056	15.00	6.00	10.00	350.10	0	A	a	
340	ホルンブロッカ	-9231.602	44987.284	82.191	7.70	1.00	0.90	14.10	5	B	c	

第15表 織文時代早期砾観察表

第5節 K-Ah降灰以後の遺構と遺物

1 K-Ah降灰以後の遺構

本遺跡は、調査区の両端（東西）から中央に向かって上りの傾斜になっており、ちょうど中央部が丘陵の高い部分に位置する。この丘陵の高い部分を中心に戸地造成のための削平が行われた。そのために、K-Ah（第II層 鬼界アカホヤ）は、中央からやや西側にかけての一部にしか残存しなかった。調査区中央から東側にかけては、耕作土下のMB 0～ML 1までの削平を受けていた。

K-Ah降灰以後の調査において、遺構はK-Ah面で、溝1条、掘立柱建物2棟、土坑1基を検出した。調査区東のML 1（暗褐色ローム）で溝1条（SE 2）、道路1条（SG 1）を検出した。また、調査区中央においてもML 1で掘立柱建物2棟（SB 3・4）集石遺構3基（SI 2～SI 4）を確認した。

以下、各遺構の概要について触れる。

SE 1（第53図）

E-7～F-8グリッドにかけて、南西から北東に上がる形で検出された。長さ約15m、幅0.5m～1.2m、深さは最も深い部分で0.2mを図り南西端と北東端のレベル差は、0.29mを図る。埋土は、K-Ah

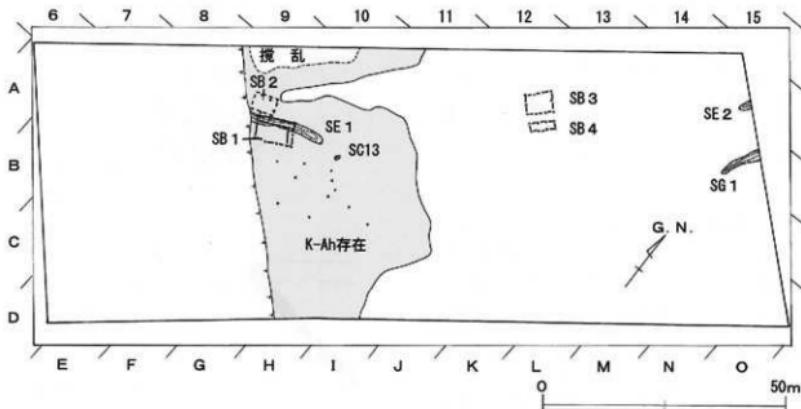
を含む黒色及び黒褐色土で全般的に柔らかい。SB 1とは、重複関係にあるが、SB 1の柱穴がSE 1の埋土上面で検出されたことにより、SB 1はSE 1より後出すると考えられる。

SE 2（第51図）

L-14グリッドの北東壁から南西方向にわずかに上がる形で検出されたものの、遺存状態が悪く長さ2.8mしか確認できなかった。SE 2の東側には谷が入っており、この谷に向かって蛇行しながら下っていたと考えられる。K-Ahが削平されていたため、検出面はML 1（IV層 暗褐色ローム）であったが、SE 2の埋土が、北東壁の上層断面に遺存していたK-Ah層を切っていたためK-Ah上の遺構であると考えられる。北東壁で確認された断面幅は約0.7m、深さは約0.3mを図り、南西端と北東端のレベル差は、0.4mを図る。

SC 13（第53図）

G-8グリッドのK-Ah上面の精査中に検出した。長径2.4m、短径1.1mの梢円形プランを呈する。耕作土により、埋土の削平を受けているため、検出面からの残深は0.1mを測る。埋土にはK-Ahのブロックが含まれていた。遺物・炭化物は確認されなかつた。性格は不明である。



第51図 K-Ah降灰以後の遺構分布図

S B 1 (第53図～第54図)

E-7～F-7グリッドで検出され、主軸をN-61°-Eにとる。1間×3間の建物で、北と東に庇を有する。桁行6.04m、6.16m、梁3.52m、3.88mで面積は約23m²を図る。柱穴径は、0.12m～0.2mと較差があり、深さも0.2m～0.5mと一様ではない。庇は、桁行が6.96m、梁が2m、1.88mで柱穴P 5の底面より、土師器片（第52図116）1点が出土した。この土師器片は、底部のみの残存で、外面には格子目のタタキの上に一部ナデ、内面にはハケ目・黒斑が見られる。なお、北側に位置する柱穴列はS E 1を切っている。

S B 2 (第53図～第54図)

E-7～E-8グリッドで検出され、主軸をN-85°-Eにとる2間×2間の建物である。桁行3.56m、3.52m、梁3.12mで面積は約11m²を図る。柱穴径は、0.12m～0.14mで、深さは、0.26m～0.4mと一様ではない。柱穴P 6の底面より、東播系の片口鉢の破片（第52図 117）が出土した。この須恵器片は、口縁部から脣部にかけての残存で、外面・内面に横方向のナデが見られる。

S B 3 (第54図)

調査区の丘陵部、I-11グリッドの表土除去後、ML 1（暗褐色ローム）で検出した。主軸をN-45°-Eにとる3間×2間の建物である。桁行4.76m、4.84m、梁3.76m、3.68mで面積は約17.9m²を図る。柱穴径は、0.26m～0.4mで、柱穴間は、桁1.32m～2.04m、梁1.76m～2mと一様ではない。深さは、0.04m～0.42mと較差がある。柱穴の埋土は、黒色土、暗褐色土が主体で、K-Ahのブロックを含んでいる。遺物は出土しなかった。

S B 4 (第54図)

S B 3の南東、J-11グリッドの表土除去後、ML 1（暗褐色ローム）で検出した。主軸をN-45°-Eにとる3間×1間の建物である。桁行4.6m、4.68m、梁1.76mで面積は約8.2m²を図る。柱穴径は、0.14m～0.3mで、柱穴間の距離は、桁1.28m～1.68mである。深さは、0.02m～0.14mである。柱穴の埋土は、S B 3と類似している。また、S B 3同様、遺物は出土しなかった。

S G 1 (第55図)

M-13グリッドの北東壁から南西の丘陵に向かって、SE 2に平行する形で上がっている。北東壁の土層断面から、SE 2と同様の埋土の状況が確認されたためSG 1においてもK-Ah降灰以後の遺構である可能性が高い。長さは約8.1m、北東壁で確認された断面幅は約2.4m、深さは約0.6mを図る。埋土中より、かなり摩耗した土器片1点が出土した。底面に厚さ0.05mほどの硬化層があり、硬化層を除去すると波板状のピットが検出された。ピットの埋土は、黒褐色で版築状に硬化していた。

2 K-Ah降灰以後の遺物

K-Ah降灰以後遺構外の遺物は、1点のみの出土であった。

皿 (第52図 118)

118は、K-Ah上面の精査中にE-6グリッドで出土した土器皿である。口縁部から底部にかけての残存（残存率1/4）で外面・内面に横方向のナデが見られる。



118



117



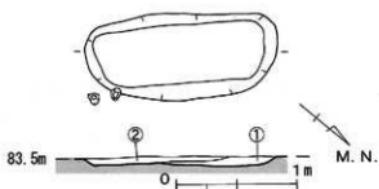
118

0 5 cm

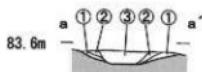
第52図 K-Ah降灰以後の土器実測図

SC 13

SE 1



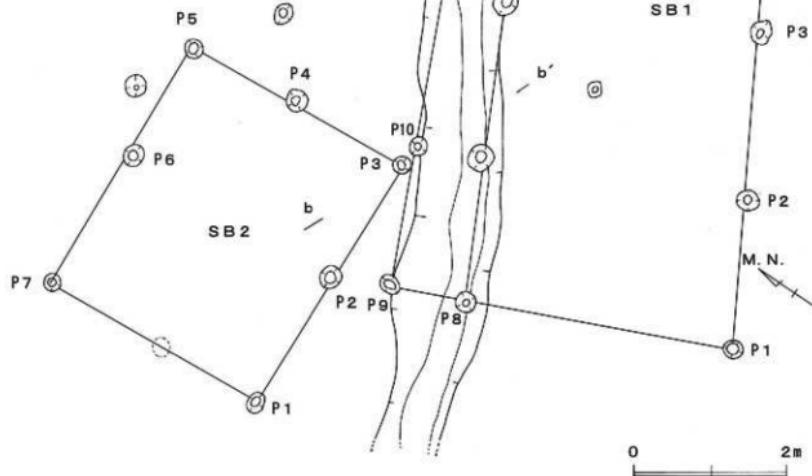
- ① 10YR 3/1 (黒褐色) 粘質で粘性があり、わずかにK-Ahブロックを含む。
- ② 10YR 2/3 (黒褐色) ①より赤味を増し、K-Ahブロックを多く含む。



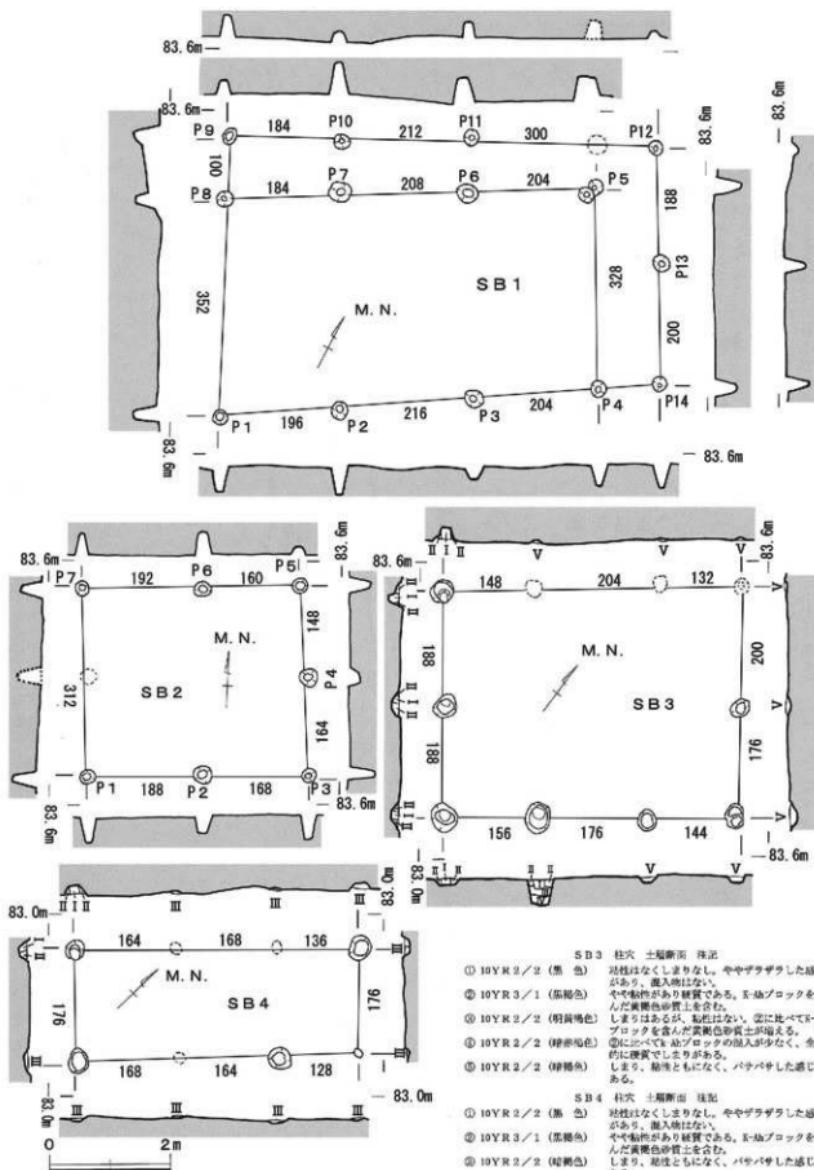
- ① 10YR 3/1 (黒褐色) 粘質で粘性があり、わずかにK-Ahブロックを含む。
- ② 10YR 2/3 (黒褐色) ①より赤味を増し、K-Ahブロックを多く含む。
- ③ 10YR 2/1 (黒色) 粘質で粘性があり、粘土質をわずかに含む。



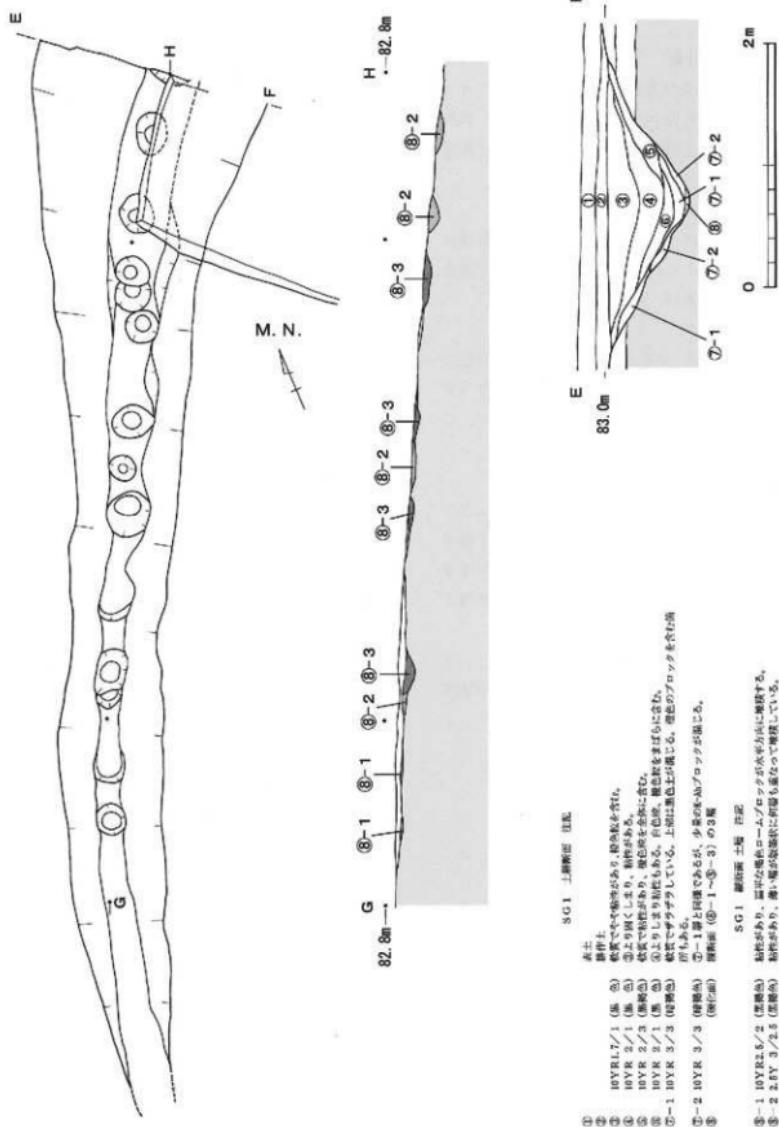
- ① 10YR 3/1 (黒褐色) 粘質で粘性があり、K-Ahをブロックで多量に含む。
- ② 10YR 2/2 (黒褐色) ①より硬質で、粘性がある。
- ③ 10YR 2/1 (黒色) 固くしまり粘性がある。
- ④ 10YR 2/1 (黒色) ③より柔らかく、粘性がある。



第53図 K-Ah上面の造構実測図



第54図 SB 1～4 実測図



第55圖 SG1 実測図

第V章 自然科学分析

(植物珪酸体分析・寄生虫卵分析)

1 植物珪酸体分析

分析試料は、調査区南壁（基本土層）、S C 4、S C 5 の 3 地点から採取された計30点である。試料採取箇所を第7図土層断面配置図、第34図 S C 配置図に示す。

(1) 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表16、17に示す。

〔イネ科〕

キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、ウシクサ族B（大型）、シバ属、Aタイプ（くさび型）、Bタイプ、Cタイプ

〔イネ科－タケ亞科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チマキザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

〔樹木〕

その他

(2) 植物珪酸体の検出状況

調査区南壁（基本土層、第6図）

第IV章第2節 上層の状態で詳述

S C 4・5

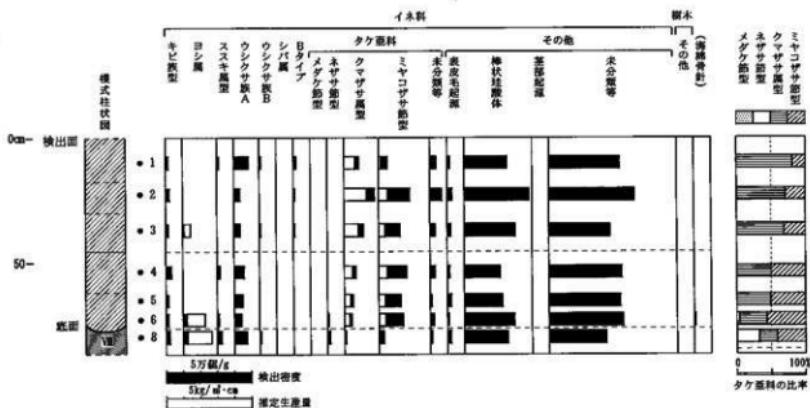
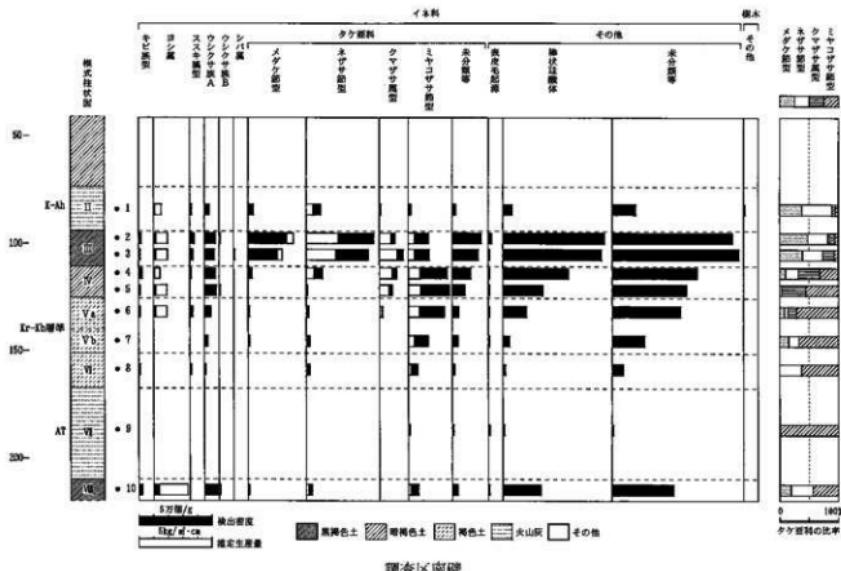
第IV章第4節 繩文時代早期の遺構で詳述

2 寄生虫卵分析

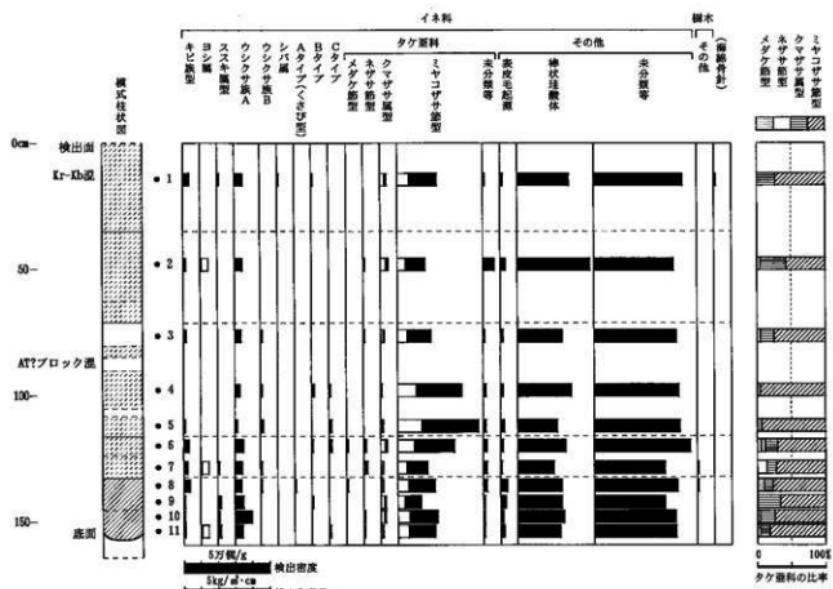
分析試料は、S C 5（陥し穴）の埋土底部から採取された試料9～試料11の3点である。これらは、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

(1) 分析の結果と考察

寄生虫卵分析の結果、寄生虫卵及び明らかな消化残渣は、いずれの試料からも検出されなかった。参考として行った花粉分析では、試料10からイネ科、ヨモギ属、シダ植物胞子が検出されたが、いずれも微量である。花粉もあまり検出されなかったことから、乾燥もしくは乾燥を繰り返す堆積環礁下で、これらの有機物が分解された可能性が考えられる。結果については第18表に示す。



第16章 商號 S.C.4 植物硅酸體分析結果



第17表 SC 5 植物珪酸体分析結果

分類群		SC5		
学名	和名	9	10	11
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)
Nonarboreal pollen	草本花粉			
Gramineae	イネ科		1	
Artemisia	ヨモギ属		1	
Fern spore	シダ植物胞子			
Monolate type spore	单条溝胞子		1	
Arboreal pollen	樹木花粉	0	0	0
Arboreal · Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	0	2	0
Total pollen	花粉総数	0	2	0
試料 1 cm ² 中の花粉密度		0	14	0
Fern spore	シダ植物胞子	0	1	0

第18表 SC 5 寄生虫卵分析結果

第VI章 まとめ

唐木戸第1遺跡では、旧石器時代、縄文時代早期、中世の遺構・遺物を確認することができた。ここでは遺構・遺物をもとに、本遺跡の性格についてまとめてみたい。

旧石器時代

唐木戸第1遺跡の旧石器時代における遺構としては、礫群1基、石器ブロック1箇所が検出された。礫群については、礫の観察結果をもとに、分析を行った。その結果、接合可能な礫や赤化した破碎礫がかなり含まれていることが分かり、これらの礫が、熱を受けて使用された可能性があると考えられる。石器ブロックでは、2個体の接合資料を確認することができたが、母岩の形状の違いはあるものの一時的な単純剥離作業が営まれたと思われる。遺物については、ナイフ形石器、角錐状石器等の製品と石核、剥片、碎片等が散漫な状態で出土した。これらに伴う石器接合についての確認はできなかった。

縄文時代早期

縄文時代早期の遺構としては、石器ブロック1箇所、土坑12基、集石遺構3基を検出した。石器ブロックの16点中11点から、2個体の接合資料を確認することができた。ともに接合状況や石器の出土点数から母岩の一次的な剥離作業工程のみにとどまったものであると考えられる。

土坑12基中、10基は陥し穴と思われる。陥し穴は丘陵鞍部、丘陵鞍部から下るゆるやかな斜面に多く位置する。さらに陥し穴の平面形の長軸方向は、南と西では等高線に平行に、東側では直行するあり方を示している。陥し穴としての掘削年代は限定できないが、植物珪酸体分析の結果や掘削の特徴・埋土状況など似通っているものが多く、時期差はさほどないと思われる。

縄文時代早期においても、本遺跡と西側に隣接する唐木戸第2、3遺跡との間に谷が入っていたと考えられる。この谷は、川や沢の存続を意味し、動物たちにとっては格好の水飲み場であったといえる。従って、この水飲み場への通路に位置する本遺跡に

は、陥し穴を設けた狩猟の場という空間が存在したことが推定できよう。このことは、遺物の分布密度の低さも傍証となるであろう。他に検出された集石遺構と出土した貝殻条痕文土器、寒ノ神式土器の関係については、それぞれの遺物・遺構の検出場所が、本遺跡西側と中央と東側というようにかなり離れていたこと、集石遺構の検出面が確認できないことを考えると、陥し穴や集石遺構と遺物の前後関係や同時性をとらえることは困難を極める。また、細石刃・細石刃核もわずかに出土したものその文化期をとらえるにはいたらなかった。

中世

鬼界アカホヤ（K-Ah）降灰以後の遺構として、掘立柱建物4棟、溝2条、道路1条を検出した。K-Ah上面で検出されたSB1のビットからは、中世の土師器の甕が、またSB2のビットからも、東播系の片口鉢が出土したことから、中世の掘立柱建物の可能性が高い。しかし、この2棟には、庇の有無、桁行、梁、向き、柱穴間などの形状の違いがあることにより時期差を伴う可能性がある。SB3・4については、遺物が出土していないため、所属時期は特定できていないが、片口鉢を出土したSB2が12～13世紀と推定されるので、それを前後する時期の所産と考えられる。SE1・SE2は、共に遺物の出土は確認されなかつたが、その位置と流れの方向から同一の溝の可能性があると考えられる。SG1は、土器片1点を確認したものの時代の特定は困難を極めるものである。東の谷部へ走っていることから、当時の水を確保するための通路として使われていたものと考えられる。SE1、SE2及びSG1が、仮に掘立柱建物群に伴う時期とすると12～13世紀前後の中世村落の景観が想定できよう。本遺跡の場合は、丘陵の奥あたり開析谷沿いに点在するような数棟で構成された小規模な村落の在り方をなすと考えられる。

（引用、参考文献）

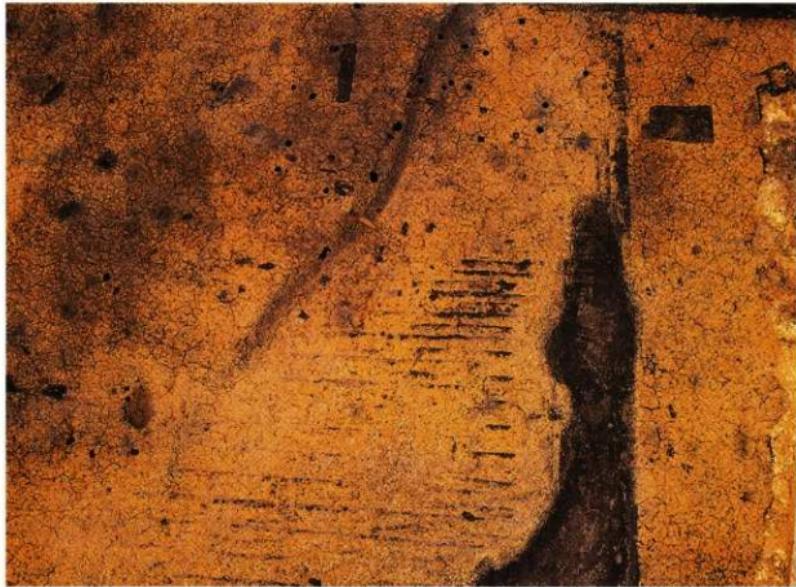
- 高鍋町史編纂委員会 「高鍋町史 通史編」 1987
高鍋町教育委員会 「高鍋町文化財調査報告書 第7集」
『中尾・牛牧地区遺跡』 1995
高鍋町教育委員会 「高鍋町文化財調査報告書第5集」
『大戸ノロ第2遺跡』 1991
高岡町教育委員会 「高岡町埋蔵文化財調査報告書第23集」 『高野原遺跡』 2002
国土調査 県農政水産部農業振興課 『土地分類基本調査 妻・高鍋』 1982
宮崎県地質調査所 『宮崎県地質図説明書第4版』 1981
宮崎県教育委員会 「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第43集」 『木脇遺跡』 2001
宮崎県教育委員会 「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第60集」 『本城跡』 2002
宮崎県埋蔵文化財センター 「発掘調査報告書 第64集」
『平成12年度東九州自動車道（都農～西都間）関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅱ』 2002
宮崎県埋蔵文化財センター 「発掘調査報告書 第76集」
『平成13年度東九州自動車道（都農～西都間）関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅲ』 2003



調査区全景（一次）



調査区全景（二次）



K-Ah 検出状況



土層断面（東壁）



石器ブロック 1 検出状況



石器ブロック 2 検出状況



S I 1 検出状況



S I 2 検出状況



S I 3 検出状況



S I 4 検出状況



貝殻条痕文土器出土状況



S E 1 検出状況



SB1・2検出状況



土層断面（南壁）



SG1硬化面検出状況



SC3断面



SC4完掘状況



SC5断面



SC6断面



SC7断面



SC 8断面



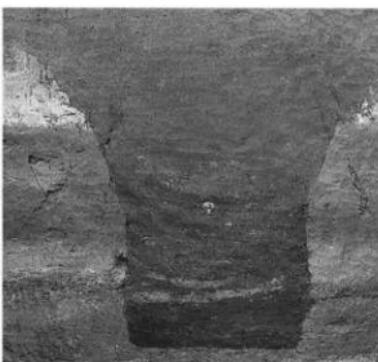
SC 9断面



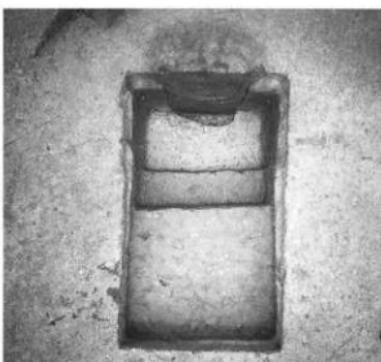
SC 10断面



SC 11断面



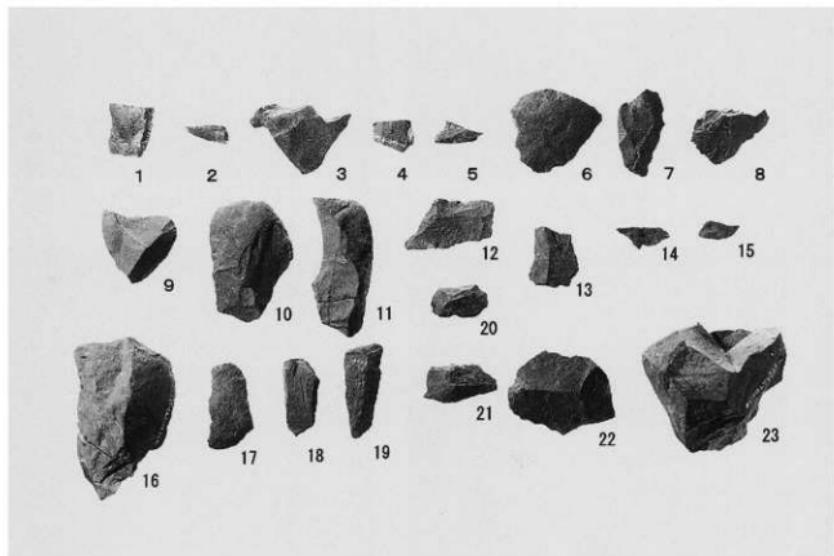
SC 12断面



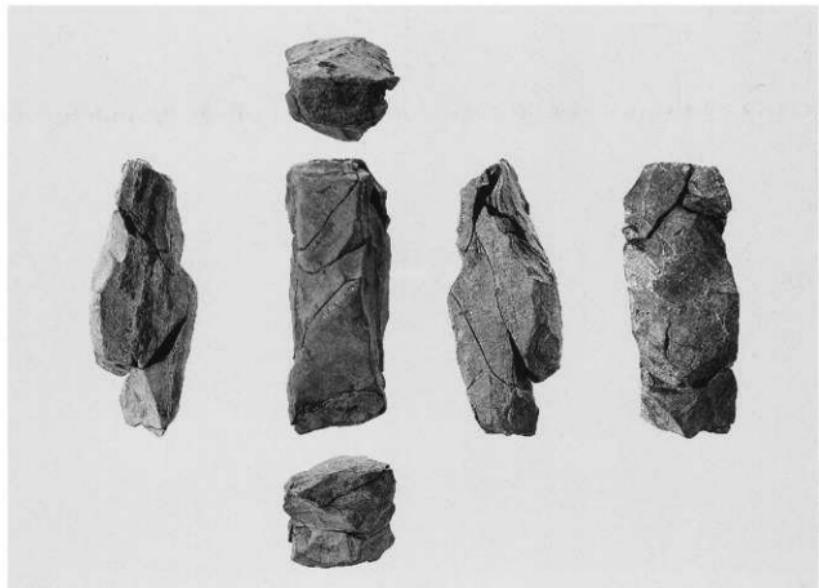
SC 5半截状况



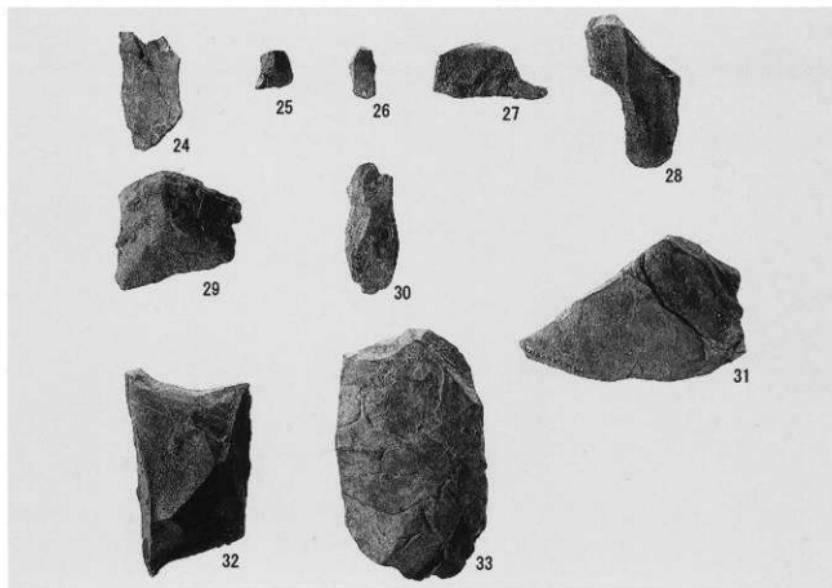
旧石器時代接合資料 1 (1)



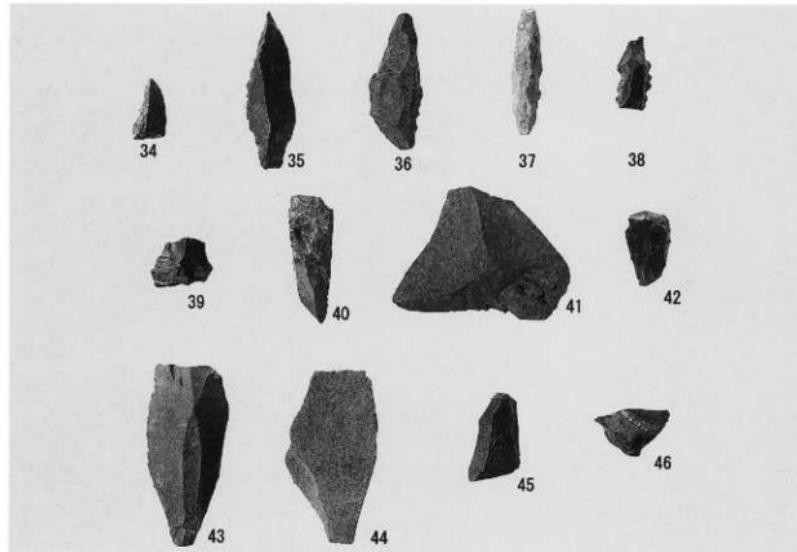
旧石器時代接合資料 1 (2)



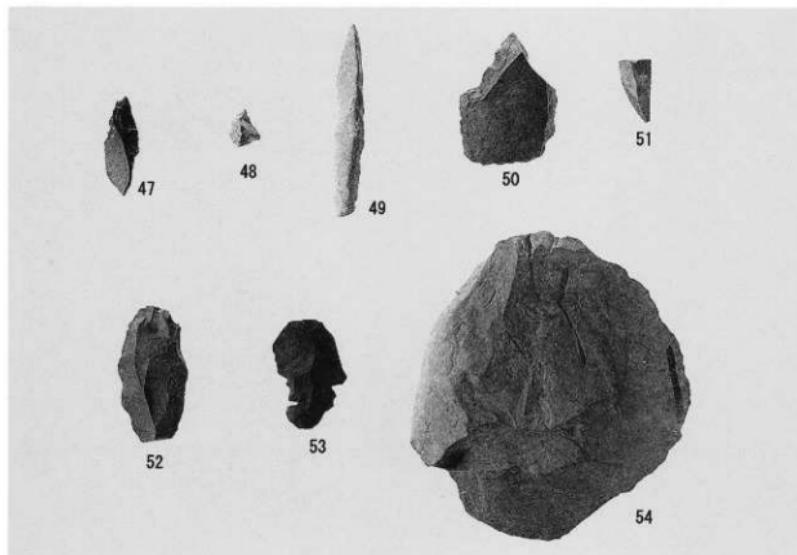
旧石器時代接合資料 2 (1)



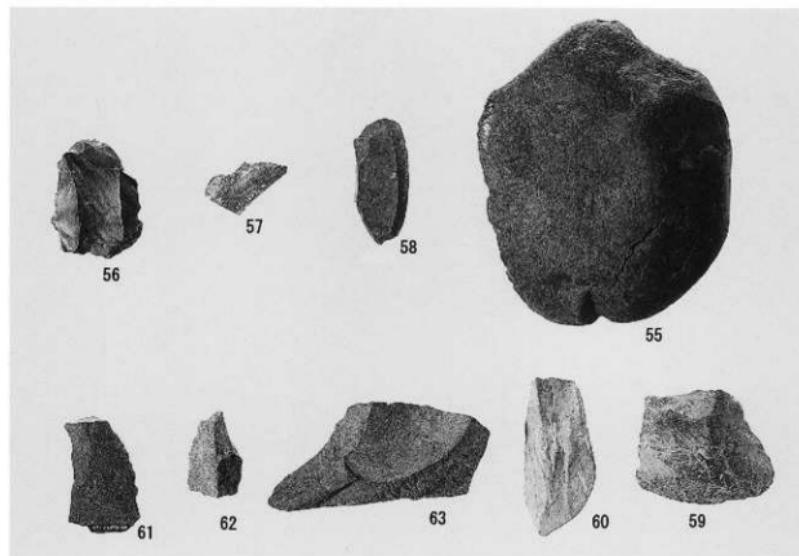
旧石器時代接合資料 2 (2)



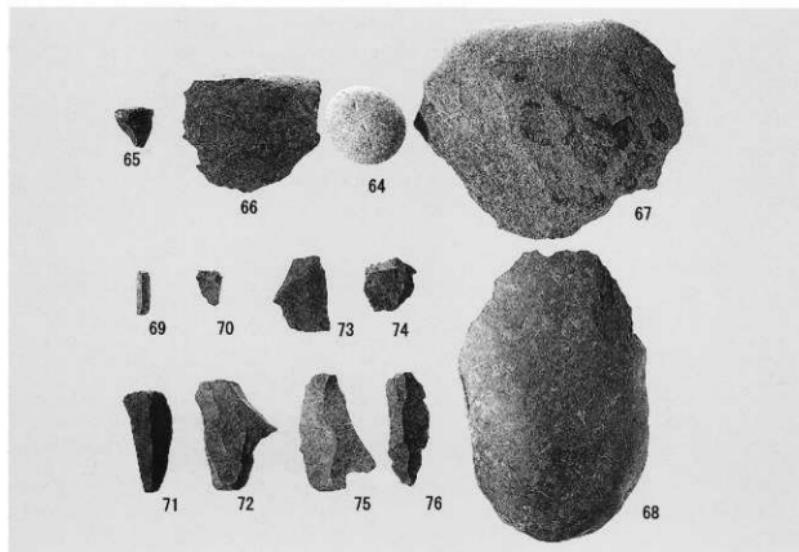
VII層 出土石器



V b層 出土石器 (1)



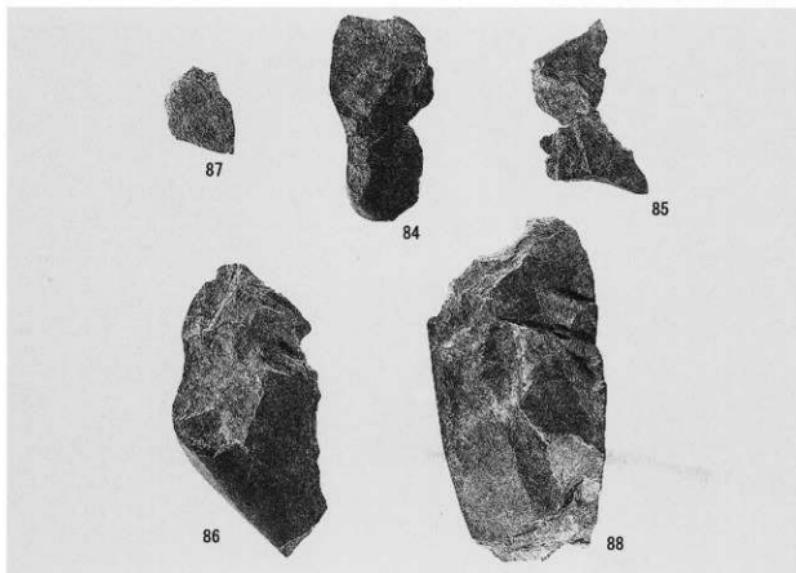
Vb層 出土石器（2）



Va層 出土石器



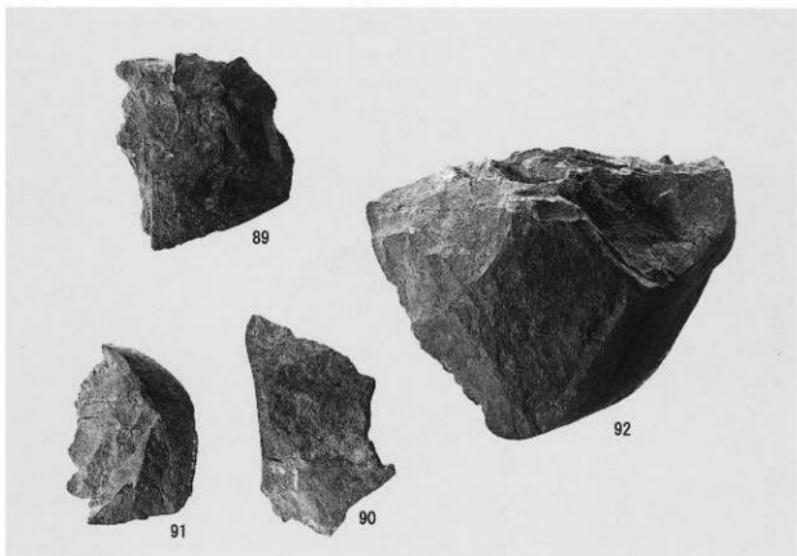
繩文時代早期遺物接合資料3（1）



繩文時代早期遺物接合資料3（2）



繩文時代早期遺物接合資料 4 (1)



繩文時代早期遺物接合資料 4 (2)